

ルニ限ルト爲セルハ、其ノ代表的ナルモノナリ、あだむ、すみすニ依リテ
 新ニ起レル經濟學ハ、自由放任ヲ旨トシテ、國權ノ活動ヲ排斥ス、此レ等
 ノ思想ハ相和シテ時代ノ潮流トナレリ、蓋シ當時專制王國暴虐ヲ極メ、
 王權ノ壓制ヲ抑ユルハ、正ニ時代ノ要求スル所タリシカ故ナリ、專制王
 國ハ統治權ノ當ニ目的トシテ行フヘキ範圍ヲ超ヘ、又ハ其ノ途ヲ誤レ
 ルモノナルカ故ニ、主權ノ目的論ヲ以テ、之ヲ矯正スルノ論說大ニ起レ
 ルハ當然ナリシト云フヘシ。

統治權カ其ノ目的ヲ決定シ、之ヲ實現セノトシテ行動スルニ方リテ
 ハ、其ノ目的トスル所ヲ最モ有效ニ達成スルカ爲メニ、如何ナル方法ヲ
 用ユレハ、最モ有效ナルコトヲ得ルヤハ、次ニ考量セラレサルヘカラサ
 ル所ナリ、統治權ノ行動ノ方法ノ取捨選擇ハ、又一ニ絶對無制限ナル統
 治權ノ自由ニ決定シ得ヘキ所ニシテ善惡正邪利害得失ノ判斷ニ本ツ

キ、時ニ應シ處ニ依リ、又具體ノ實際問題ニ對シテ、最モ有效ナリトスル
 ノ方法ヲ採ルヘキノミ、統治權ノ性質上必ス一定ノ方法アリト爲スヘ
 キニ非ス、又必スシモ一般的ニ統治權行動ノ方法ヲ定ムルノ要アルニ
 非ス。

然レトモ自由主義ノ政治論カ、能ク國王ノ專制ヲ抑止スルニ足ラサ
 ルコトノ覺知セラルルニ至ルヤ、統治權行動ノ目的ノ範圍ヲ局限スル
 ヨリモ、其ノ方法ヲ劃定スルニ依リテ、現實ニ有效ニ專制政治ヲ抑止ス
 ルコトヲ得ルコトヲ以爲ハシムルニ至レリ、之レ第十八世紀ノ半頃ニ
 出テタル、もんですきゆうノ三權分立論カ、一世ヲ風靡シタル所以ナリ、
 凡ソ目的ヲ論定スルハ學者ノ事業ニシテ、統治權ヲシテ其ノ嚮フヘキ
 所ヲ知ラシムルニ足ルモ、現實ニ統治權者ヲシテ暴横非違ニ陥ラサラ
 シムルハ、其ノ行動ノ方法ヲ、法制ノ上ニ規律劃定スルニ非サルヨリハ、

決シテ直接有效ニ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルハ當然ナリ、統治權行動ノ方法ヲ三權分立ニ則リテ定ムレハ、從テ其ノ目的ヲ定ムルニ於テ、適當ノ範圍ヲ超エ、又ハ之ヲ誤マルコトナキヲ保障スルコトヲ得ヘシ、之レ主權論カ目的論ヨリ方法論ニ移レル所以ニシテ、遂ニ一定ノ統治權行動ノ方法組織ヲ原則トスル立憲政體ナルモノカ、一般ニ行ハルルニ至レルナリ。

主權論カ目的論ヨリ方法論ニ推移スルト共ニ、政治學ノ内ヨリ憲法學又ハ國法學成立セリ、蓋シ統治ノ方法組織ハ人ノ意志ノ規律ニシテ、即チ法ナレハナリ。

第二節 政體ノ意義

統治權行動ノ方法組織ノ基礎ヲ定ムルノ法ヲ政體法ト爲ス。

統治權ハ其ノ行動ノ方法組織ヲ定ムルニ就テ、時ト處トノ宜ニ應シテ之ヲ制スルニ、絶對的ニ自由ニシテ、政體ハ國ニ依リ時代ニ依リ、自ラ千差萬別ナラサルヘカラス、然レトモ政體ノ論ハ、主トシテ歐羅巴ノ國王專制ニ對シテ起レルカ如ク、政體ト云フ時ハ、通常立憲政體ヲ眼中ニ置クモノトス、而シテ之ニ對シテ從來ノ國王專制ヲ專制政體ト云フ、政體ヲ區別分類スレハ、極メテ複雑多様ナルヘキモ、通常政體ノ區別分類ト云ヘハ、立憲政體ト專制政體トノ二ニ分ツモノトセラルル所以ナリ。

政體ハ統治權行動ノ方法組織ノ法ナリ、統治權行動ノ方法組織トハ、統治權タル意志ノ規律及統治權ノ行動ノ爲メニ用キラルル多數ノ人又ハ人ノ團體ノ意志ノ規律ニ外ナラス、統治權者ハ如何ナル事ヲ爲スヘキヤ、如何ナル事ヲ爲スヘカラサルヤ、統治權ハ如何ナル形式ニ依リテ發表セラルルカ、如何ナル人又ハ人ノ團體ヲ如何ナル方法ニ依リテ

用ユルカ、其ノ組織如何、其ノ相互ノ關係如何、此レ等ノ人又ハ人ノ團體カ、如何ナル範圍ニ於テ、如何ナル方法形式ヲ以テ表示スル意志カ、統治權ノ行動トシテ、如何ナル效果ヲ有スルカ、凡テ之ヲ政體ノ内容ト爲ス、故ニ政體ハ法ナリ、人ノ意志ノ規律ナリ。

統治權行動ノ方法組織ハ、極メテ廣汎ニシテ微細ニ涉レリ、然レトモ凡テ悉ク之ヲ政體ト稱スルニ非ス、政體トハ其ノ基礎タル原則ヲ云フナリ、政體法ノ定メタル統治權行動ノ基礎タル原則ヲ本トシテ存スル各種ノ法ハ、之ヲ憲法ノ範圍ノ外ニ在ルモノトス、行政法、裁判ニ關スル法ノ如シ。

國家法人說ニ於テハ、統治權ノ行使ニ當ルノ人又ハ人ノ團體ヲ機關ト稱シ、機關ニハ意志ナキモノトス、從テ統治機關ノ組織ヲ定ムル政體ハ、意志ノ規律タル法ノ性質ヲ有スルモノニ非スト論斷ス、又其ノ誤レ

ルノ一端ナリ。

第三節 國體ト政體

國體法ハ國家構成ノ根本法ナリ、國體法ナケレハ統治權モナク、國家モ亦存立セス、政體法ハ統治權行動ノ方法組織ノ法ニシテ、國家其ノ者ノ存立トハ相關セス、國家アルノ基礎ノ上ニ定メラルルノ法ナリ、統治權アリテ、之ヲ行フノ方法組織ヲ定ムルノミ、國體法ナケレハ、政體法ナシ、政體法ハ國體法ヲ基礎トシテ存ス、如何ナル國家ニ於テモ國體法ナキハナシ、如何ナル他ノ一切ノ法カ存在セサルモ、國體法ハ存在セサルヘカラス、政體法ハ之ト異リテ、定マレル政體法ナキモ、國家ノ國家タルノ存在ヲ失ハシムルモノニ非ス。

國體ハ國家ト共ニ永久不變ナリ、國體ハ國家ノ生命ナリ、國家ト共ニ

始マリ、國家ト共ニ終ル、政體ハ統治ノ目的ヲ最モ良ク達成スル所以ノ方法ニシテ、時ノ宜キニ應ジテ、世ト共ニ變遷スルヲ其ノ性質トス、利害得失ノ考量ニ從ヒ、事ニ臨ミ物ニ當リテ策定セラルルニ非スンハ、政體ノ存スル所以ヲ全クスルコト能ハサルナリ、之ヲ我カ國ノ歴史ニ見ル、上世以來政體ハ幾タヒカ變更セラレタリ、然レトモ國體ハ天壤ト與ニ窮ナク、萬世變ハラサルナリ。

國體ハ其ノ國ノ建國ノ歴史ニ本ツキテ定マル、其ノ國家本來ノ特色ナリ、之ヲ是ナリトスルモ非ナリトスルモ、以テ改ムヘカラサルナリ、利害得失ヲ論シテ、國體法ノ變更ヲ講スルコトヲ得サルナリ、國體ハ是非利害ノ批評ヲ超越ス、一定國家ノ國體ハ、唯タ斯ノ如クナルノミ、之ト異リ、政體ハ一ニ利害得失ノ故ヲ以テ定マル、融通自在ナリ、建國ト共ニ定マリテ不變ナルノ政體ナルモノハアラサルナリ。

國體ノ變更ハ國家其ノ者ノ死滅ナリ、一國亡ヒテ一國興ルナリ、之ヲ革命ト爲ス、革命ヲ經テ國家ハ繼續セス、國體法ハ革命ヲ否認ス、事實トシテ革命アラシモ、其ノ國家ノ國體法ニ革命ヲ認ムルト云フハ矛盾ナリ、政體ノ變更ハ之ト區別シテ改革ト稱セラル、改革ハ國家ノ死生ニ非ス、國家ノ存立其ノ者ハ、何等ノ影響ヲ受ケス、政體ノ時ト共ニ改マルハ、國家ノ益々發展スル所以ナリ。

るそウハ國家ハ理論トシテ、皆自由平等ナル人ノ契約ニ依リテ成立スルモノニシテ、如何ナル國家ト雖モ民主國ナラサルハナシト云ヘリ、之レ近代歐羅巴ノ國家論ノ基礎タル思想ニシテ、國家法人説モ亦之ヲ受ケテ、凡ソ統治權ヲ有スル者ハ、如何ナル國家ニ於テモ法人タル國家ナリトシ、國體ノ區別ヲ認メス、故ニ一國ニ君主アルト否トハ、國體ノ區別ニ非スシテ、唯タ統治ノ方法組織ノ問題タル政體ノ一態様ニ過キス

ト爲ス、此ノ解西洋諸國家ニ當レリ、國王アリト雖モ、統治權ハ人民ニ在ルヲ其ノ國體トスレハナリ、國王ハ世襲ノ大統領ニシテ、大統領ハ一時ノ國王ナルノ國家ニ於テハ、固ヨリ之ヲ國體ノ區別ト爲スヘカラサルノミ、然リト雖モ之ヲ我カ日本國家ニ推及シ、天皇アルト否トハ、國家存立ノ基礎ニハ關係スル所ナク、天皇アルモ亦統治ノ一方法組織ニ過キスシテ、議會ヲ置キ、裁判所ヲ設クルト異ルコトナシト云フハ、彼ノ國體ヲ解セス、我ノ國體ヲ知ラス、菽麥ヲ混同スルモノナリト云ハサルヘカラス。

國體ト政體ト、之ヲ嚴ニ區別スルハ、我カ國ニ於テ、天皇ノ本質ヲ明ニスル所以ナリ、天皇ハ議會其ノ他一切ノ統治ノ官廳ト、全然其ノ類ヲ異ニスル者タリ、天皇ハ統治權者ナリ、一切ノ官廳ハ天皇カ統治權ヲ行使スルカ爲ニ用ユル所ノ人又ハ人ノ團體ナリ、天皇アルハ國家構成ノ根

本ニシテ、天皇ナケレハ日本國家モ存立セス、天皇ハ國家ニ合一ス、統治ノ官廳ハ天皇ノ之ヲ利便ナリトスルカ故ニ特ニ設ケラルル所ニシテ、國家構成ノ根本ニ關スルコトナク、一切ノ官廳ナキモ國家ハ其ノ存立ヲ失フコトナシ、若シ之ヲ混同シテ、天皇モ亦國家ノ機關タルニ於テハ、一切ノ官廳ト同一ナリトセハ、天皇ノ易置ハ、時勢ノ變遷ニ伴フノ變革ニシテ、又止ムヲ得サル所ナリトスルハ、極端ナル論結ニ陥ラサルヘカラサルナリ、國體ノ區別ヲ認メス、天皇アルト否トハ、又政體ノ一態様タルニ過キスト、爲スノ結果ハ、我カ萬世不變ノ國體ヲ動カシ、天皇ノ本質ヲ曖昧スルニ至ル、嚴ニ之ヲ排斥セサルヘカラサルナリ。

第二章 立憲政體

明治二十二年二月十一日大日本帝國憲法ノ發布アリ、我カ政體ヲ定メラル、主トシテ立憲政體ニ則レリ、立憲政體ハ第十九世紀ニ於テ、西洋諸國ニ普ク行ハルル所ニ屬ス、我ノ政體ヲ定ムル、固ヨリ國體ヲ基礎トシ、其ノ精華ヲ發揮スルヲ趣旨トスト雖モ、西洋諸國ニ行ハルル立憲政體ノ何タルヲ知ラサレハ、又我カ政體ヲ解スヘカラサルナリ、而シテ彼ニ立憲政體ノ成立セル、成ルノ日ニ成ルニ非スシテ、歴史ニ淵源スル所アリ、學說理論ノ構想ニ非スシテ、實際ノ事情之ヲ必要ナリトシテ、自ラ成立シ、一般ニ行ハルルニ至レルナリ、此ノ由來ヲ尋ネ、其ノ性質ヲ究ムルハ、彼ノ立憲政體ノ特色トスル所、必スシモ我ニ之ヲ採用シタルニ非ス、我カ立憲政體ノ特徴ノ自ラ存スルモノアルヲ知ル所以ナリ。

第一節 立憲政體ノ由來

西洋立憲ノ政體ハ其ノ濫觴スル所、遠ク其ノ歴史ノ淵源ニ在リ、西洋人ハ本來民主共和ノ民ナリ、之ヲ其ノ文明ノ源流ニ尋ネ、其ノ建國ノ跡ヲ見ルニ、古代史ノ記述スル所、皆民主共和ヲ以テ國家ヲ組織スルノ基礎トセサルハナシ、古代ざりしあハ模型的ナル民主國家トシテ知ラル、數萬ノ人口ヲ有スル都市國家ノ市民ハ、絶對ニ平等ナル個人ニシテ、一堂ニ相會シテ國政ヲ評議セリ、ざりしあハ西洋學藝ノ發祥シタルノ地ニシテ、後ニ文藝復興期ニ至リ、ざりしあ文物ノ再ヒ西洋ニ煥發スルヤ、ざりしあノ民主國家ヲ以テ、模範ノ國家ト爲スノ風大ニ起リ、學者皆之ニ倣ヒテ、國家ヲ改造スルノ說ヲ樹テタリ、ろま共和國ハ其ノ初國王アリ、後帝政ヲ行フニ至リシモ、其ノ權力ハ人民ノ委託ニ本ツクモノナリ

トスルハ、ろま法ノ原則トシタル所ニシテ、後ノ皇帝ト稱スル者モ、其ノ名義ニ於テハ共和國ノ一役人タルニ過キスト見ラレタリ、ろま法ハ世界ヲ征服シタリト稱セラレ、王權ノ本ヲ民主ニ置クノろま法ノ原則ハ、長ク西洋政治思想ノ宗トスル所トナレリ、西洋人ノ宗教タルやそ教ハ、古代ノゆであニ發ス、古代ゆであニ國王アリシト雖モ、之ヲ人民ノ約束ニ由リテ立ツ者ナリト爲シ、國家ノ根柢ハ民主共和ニ在ルヲ理想ト爲セリ、中世ニ起リテ強ク王權ニ反抗シ、民主論ヲ主張シテ、遂ニ社會契約説トナリ、大革命ニ至レル、民主思想ノ大潮流ハ、やそ教ニ根柢スルコト深ク、いざりすノ革命モ、有史以來ノ大民主國タル北あめりか合衆國ノ建設モ、やそ教的精神ヲ以テ行ハレタルモノナリ、西洋人ノ祖先タル古代けるまに人ハ、純粹ナル民主共和ノ組織ヲ有セルコト、古キ記録ノ明瞭ニ傳フル所ニシテ、西洋人ハ今ニ至テ、我等ノ民主共和ノ精神ハ遠ク

けるまにノ森林ニ發シ、我等ノ血管ニハ、祖先以來ノ民主共和ノ血流ルルト爲スモノ、眞ニ偶然ニ非サルナリ。

西洋人ハ民主共和ノ民トシテ生レ出テタルコト、斯ノ如クナルモ、若シ中世ニ專制王國發生セサリシナランニハ、後ノ立憲政體ハ成立セザリシナリ、けるまに人ノ歐羅巴大陸ニ蟠居スルヤ、所在數多ノ征服王國ヲ建テ、かろろ大帝之ヲ一統シタルモ、忽ニシテ壞滅スルヤ、封建制度行ハルルニ至リ、廣大ナル土地ヲ占有シ、土地ヲ本トシテ主從ノ關係ヲ生シ、經濟力ト共ニ武力ヲ兼ネ、從テ臣下ニ對シテ政治的支配ノ權力ヲ有スル封建侯伯、起對立スルニ至レリ、彼等ハ土地人民ヲ私有財産トシテ所領シタルモノナリ、此ノ如キ封建侯伯ノ豪雄ナル者ノ、漸ク四方ヲ經略シテ強大ヲ成スニ至レル者ヲ、專制國王ト爲ス、第十五世紀ノ頃ヨリ第十六世紀ニ至リ、歐羅巴ハ專制國王強盛ヲ極メタリ、國王ハ本來土

地人民ヲ私有物トスル者ナルカ故ニ、國家ハ我ナリト號シ、人民ノ自由生命財產ヲ抑壓シテ顧ミル所ナク、遂ニ神權ヲ以テ之ヲ飾リ、專恣暴横爲ササルナキニ至レリ、本來民主共和ヲ以テ立國ノ精神トシ事實トシタル西洋人ノ間ニ、此ノ極端ナル國王專制カ成立シ、數百年ニ亙リテ其ノ凶威ヲ逞クセルハ、西洋人ノ運命ノ數奇ト云ハサルヘカラス、然レトモ此ノ如キハ、彼ノ歴史ニ在リテ、全然偶然ノ事情ヨリ發生シタル一時ノ變態ニシテ、決シテ之ヲ以テ終ルヘキニ非サルナリ、此ノ時期ニ於テモ、西洋人本來ノ民主共和ノ精神ハ、傳統絶ユルコトナク、其ノ命脈ヲ保チ、專制ノ極度ニ達スルヤ、激シテ專制王國ヲ燒キ盡クスノ烈火トナリテ燃エ上カレリ。

西洋立憲政體ノ性質ヲ了解センニハ、先ツ其ノ本來民主共和ノ民ナルヲ知ルト共ニ、中世一タヒ極端ナル國王專制ノ行ハレタルコトヲ知

ラサルヘカラス、西洋現代ノ國家ハ、要スルニ、中世ニ發生シタル專制王國ノ變形シタルモノニシテ、其ノ物質的基礎ハ專制王國其ノ儘ナリ、專制王國起ラサリシナランニハ、今ノ歐羅巴諸國ハ成立セサリシナルヘク、立憲政體モ亦本ヨリ成立セサリシナリ、立憲政體ハ西洋本來ノ精神タル民主共和ニ依リテ、專制王國ヲ變形シタルモノナリ。

專制王國ノ強盛ナルニ方リ、民主共和ノ思想ハ熾烈ナル勢ヲ以テ勃興セリ、文藝復興ニ依リテ人心覺醒シ、宗教改革ハ王權ノ不當ナル壓抑ニ對スル自由ノ思想ヲ煽揚シ、專制國王ニ反抗シテ、民主共和ノ國家ヲ建設セサルヘカラストスルノ思想、第十七八世紀ニ至リテ最モ旺盛ヲ極ムルニ至レリ、彼等ハ一方ニハ歴史ヲ回顧シテ、其ノ源流ニ溯リ、民主共和ノ本來ノ精神ト事實トニ復古セサルヘカラスト爲シ、他方ニハ哲理的ニ思索シテ人ノ何タルカヲ省覺シ、專制王國ノ鐵鎖ヲ斷チテ、自由

平等ノ民主國家ヲ新造セサルヘカラスト爲スニ至レルナリ其ノ論議激越悲憤ニシテ人民ハ革命ノ權利アリ暴君ヲ殺戮スルノ權利アリト爲セリ社會契約說ハ之ヲ大成シタルモノニシテ西洋人本來固有ノ民主共和ノ精神ヲ系統的ノ學說ト爲シタルモノナリ故ニ忽ニシテ全歐羅巴ノ人心ヲ支配シ大革命ノ原動力トナレリ。

大革命ハ專制王國ヲ倒壊シテ民主共和ノ國家ヲ樹立セントスルノ運動タリ民主共和ノ思想ノ潮流之ヲ致セルモノナリト雖モ第十八世紀ノ末機運ノ俄ニ動ケルハ尙ホ原因ノ大ナルモノニアリ一ハ北あめりか合衆國ノ建國ナリ北あめりか合衆國ハ宗教改革ト民主共和ノ精神トヲ抱懷シテ新大陸ニ移住セルいざりす人ノ建設シタル所ニシテ近代民主思想ノ結晶トモ云フヘク史上未ダ曾テ見タルコトナキ大陸的共和國ナリ故ニ一七七六年ノ獨立宣言カ歐羅巴ニ傳ハルヤ革命ノ

血頓ニ湧キテ大革命ノ破裂ヲ促進セルハ勢ノ當然ト云ハサルヘカラスト。他ノ大原因ト爲スヘキハ人民間ニ於ケル實勢力ノ移動ナリ實勢力カ既ニ國王貴族ヲ離レテ平民ニ移レルハ第十八世紀末ニ至リテハ動カスヘカラサル事實タリシナリ專制王國ハ自ラ倒壊シテ民主共和ノ思想ハ實現セサルヘカラスト實勢力ノ移動トハ何ソヤ專制王國ノ由リテ立テル基礎ハ土地ニ在リ然ルニ世運ノ進歩ト共ニ獨リ農業ヲ以テ富ノ本ナリトスルノ時代ハ過キ去リ漸ク商業ノ繁榮スル時代トナレリ十字軍以後商業市頻リニ勃興シテ獨立ノ勢ヲ成シ相同盟シテ專制王國ニ拮抗スルニ至リ商業ノ盛行スルト共ニ金錢ハ實力ノ源トナリ新シキ階級タル商人ノ勢力擡頭セリ第十六世紀ニ至リ地理上ノ發見相次クニ及ヒ通商航海ノ業旺盛ヲ極メ之ニ從事セル市府ノ住民タル商人即チ稱シテ市民又ハ平民ト云フ者益々實勢力ヲ掌握スルニ至リ

自由放任ノ經濟學ハ其ノ發達ヲ助長シ、遂ニ國家ハ國王ト貴族ノ國家ニ非ス、第三階級タル市民又ハ平民ノ國家ナラサルヘカラスト唱フルニ至リ、實勢力ノ存スル所、一舉シテ舊政治ヲ打破シ、民主共和ノ國家ヲ建設セントスルノ、大革命運動ノ中心勢力トナレリ、故ニ曰ク大革命ハ實勢力ノ移動ニ伴フ必然ノ結果ナルノミト。

大革命ハ斯クノ如キ歴史上ノ由來ニ本ツキ起ルヘクシテ起ルノ必然ノ勢極マリテ勃發シタルモノニシテ、實勢力ノ移動之ヲ實現セシメタルモノナリト雖モ、亦自ラ其ノ理論ヲ有セリ、ふらんす革命ノ理論トハ、即チ社會契約說ナリ、自然法說ナリ、天賦自由平等ノ論ナリ、社會契約說ハ專制國王ニ對スル激烈ナル暴君放伐論ノ大成シタルモノニシテ、人ハ生レナカラ自由平等ナリ、之ヲ先天絕對ノ自然法ト爲ス、故ニ各人カ自由ニ之ヲ承諾シ約束スルニ非スンハ、國家ハ成立スルコトナシト

スルヲ、其ノ說ノ要領ト爲ス、此ノ說ハ西洋人本來ノ立國ノ精神タリ事實タル、民主共和ヲ哲理トシテ成形シタルモノニシテ、國王專制ノ最盛時ニ於テ、西洋人カ一方歴史のニ其ノ源ヲ回顧シテ、民主共和ノ本ニ還ヘラサルヘカラスト爲シテ、國王專制ニ反抗スルト相伴ヒ、哲理的ニ人ナル者ヲ考索シテ、人ハ本來人ヲ支配スルコトヲ得ルモノニ非ス、天然ニ自由平等ナル者ハ、自ラ約諾スルニ非スンハ、其ノ意志ヲ羈束セララルコトナシ、國王若シ各人ノ意志ニ反シテ專制セハ、之ヲ除クハ各人當然固有ノ權利ナリト高唱シテ、一世ノ思潮皆之ニ歸趨シ、專制國王ヲ排除スルハ絕對先天ノ道理ナリトシ、遂ニ革命ノ根本理論トナリシナリ、之レ人ノふらんす革命ハじやんじやくるそらノ「社會契約說」之ヲ暴發セシメタリト爲ス者アル所以ナリ、社會契約說ハるそら一人之ヲ唱ヘタルニ非ス、第十七八世紀ニ於ケル西洋學者ノ皆共ニ唱ヘタル所ニシ

ヲ實ニ蓋世ノ思潮ナリト爲スヘキモ、るそうノ人ハ自由ニ生レタリ然レトモ到ル處鐵鎖ニ繫カレタリト云フノ、能ク人ヲ動カス感情的ナル論說カ、革命ノ烈火ヲ煽揚シ得タルハ疑ヲ容レズ、大革命ハ理論ノ上ニ於テハ、第十七八世紀ノ時代精神タリシ社會契約說、自然法說、又ハ天賦人權論ニ立脚セリ。

人ハ生レナカラ自由平等ニシテ、天賦ノ權利ハ之ヲ讓渡スヘカラス、之ヲ奪ヒ之ヲ制限スルコトヲ得ス、專制ハ之ヲ排除セサルヘカラストノ理論ハ樹立セラレ、時人皆之ヲ信シテ疑ハスト雖モ、如何ニシテカ之ヲ實現スルコトヲ得ルヤノ方法ニ至テハ、未タ之ニ想到スル者ナカリシナリ、唯タ此ノ絶對的ナル理論ヲ以テ、國王ヲ壓倒スヘシト爲セルノミ、然レトモ其ノ組織方法カ、制度ノ上ニ具備スルニ非スンハ、假令理論上人ハ天賦ニ自由平等ナリト云フト雖モ、以テ專制シテ恣ニ之ヲ蹂躪

スルヲ抑止スルニ足ラサルハ明ナリ、之レ前ニ説キタルカ如ク、國家ノ行動ノ目的範圍ヲ論シテ、主權ノ專制ヲ制限セントスルノ、中世ニ至ルマテノ政治論カ、漸ク一變シテ、政治ノ組織方法ノ論トナリ、法律制度ノ論トナリ、遂ニ憲法ヲ生スルニ至リシ所以ニシテ、天賦人權說ノ極盛ニ達シタル時之ヲ實現スル所以ノ組織方法ヲ立論シテ、一世ヲ指導シ、後ノ立憲政體ノ基礎ヲ定メタルもんですきゆうノ權力分立論現ハレタリ、其ノ權力分立ヲ説ケル著書、法ノ精神ノ出テタルハ、實ニ第十八世紀ノ半、革命ニ先ツコト三十年ナリ。

もんですきゆうハ主權ノ作用ヲ分チテ、立法執行及裁判ノ三ト爲セリ、而シテ三權ハ各々別人ノ手ニ依テ行ハレサルヘカラスト主張セルモノ、即チ權力分立論ナリ、凡ソ權力ヲ有スル者ハ、時ヲ經ルト共ニ其權カヲ濫用シ、其ノ本來ノ目的ヲ忘レテ、專横ナルニ至ルノ傾向アルハ、歴

史ノ經驗ノ示ス所ニシテ、之ヲ防止スルノ方法ハ、權力ヲ分立セシムルノ外アラズ、若シ立法權ト執行權トカ同一人ノ手ニ存スレハ、專横ナル行爲ヲ爲スニ對シ、自ラ專横ナル法律ヲ制定スヘキカ故ニ、自由ハ存在スルコトヲ得サルヘク、又若シ裁判權ト立法權ト分立セサランニハ、裁判官ハ同時ニ立法者タルカ故ニ、國民ノ生命自由ハ保障セララルコトヲ得サラン、若シ一人ニテ三權ヲ併セ有スルニ至ラハ、自由ハ全ク失ハルト爲スモノ、もんですきゆうノ權力分立ヲ主張スルノ理由ノ概要ニシテ、三權ヲ分立シ、各別獨立ノ人ヲシテ之ヲ行ハシメ、互ニ對立シテ相節制シ、其ノ平衡ヲ保テ、中庸ヲ得セシメンコトヲ期スルヲ、其ノ趣旨ト爲ス、もんですきゆう以前、既ニ主權ノ作用ヲ分類スルハ、遠クありすとて、れす以來人ノ屢々試ミタル所ナリ、然レトモもんですきゆうノ所謂ル權力分立論ナルモノハ、單ニ主權ノ作用ヲ學理的ニ分類區別スルト

云フニ非ス、若シ分類ノ正確ヲ以テ批評セハ、もんですきゆうノ所謂ル執行權ナルモノハ、戰ヲ宣シ和ヲ講シ、全權公使ヲ授受シ、國內ノ安寧ヲ維持シ、外寇ヲ防禦スルノ權ナリト爲セルモノニシテ、立法及司法ニ對立スル行政權ノ意ニ非ス、之ヲ甚タ不完全ナリト爲ササルヘカラス、然レトモもんですきゆうノ主張ノ前人未發ノ卓見ト爲スヘキ所以ノモノハ、分類ノ正確完全ナルカ故ニ非スシテ、三權ヲ以テ各々別人ノ手ニ依テ行ハルヘク、由テ以テ專横ヲ制シ、平衡中庸ヲ得ヘシト爲セルニ存シ、立憲政體ノ根本精神トスル所ハ、實ニもんですきゆうノ創見ニ屬スト爲ササルヘカラサルナリ、英人ろくハもんですきゆうノ前ニ出テ、主權ノ作用ヲ分テ、立法權執行權及外交權ノ三ト爲シ、人或ハもんですきゆうハ唯タ之ヲ蹈襲セルニ過キスト爲ス者アルモ、ろくハ未タ三權ヲ以テ、互ニ獨立對抗スルモノト爲セルニ非スシテ、もんですきゆうノ說

ハ自ラいざりすノ制度ヲ基礎トシタリト稱スル所ニシテ、いざりす政
治ノ實狀ヲ説明セントセルべくノ説ニ負フ所多大ナルハ、之ヲ疑ハス
ト雖モ、權力分立論ノ骨子トスル要點ハ、之ヲ一ニもんですきゆうノ獨
創ニ歸セサルヘカラサルナリ、後ノ學者或ハもんですきゆうノ三權分
立論ノ分類ノ不正確不完全ナルヲ指摘シ、主權不可分ノ性質ニ反スル
ヲ、非難シ、又ハ其ノいざりすニ實行セラルルノ制度ヲ紹介スルト稱ス
ルモ、いざりすニ於テハ三權混同シテ行ハレ、もんですきゆうノ云フカ
如キ三權分立ハ毫モ實行セラレ居ラサルヲ舉ケテ、其ノ誤解ヲ正シ、又
或ハもんですきゆうノ説クカ如クニ三權ヲ絶對的ニ精密ニ區別スル
ハ實際上不可能ナルノミナラス、又不便ノ甚タシキヲ論シテ、三權分立
論ヲ迂遠架空ナリトスル者アリ、其ノ批評ハ皆當レリト爲スヘク三權
分立論ハ此レ等ノ論説ニ依リテ補正改良セラルヘキモ、毫モもんです

きゆう立論ノ根本精神ヲ害フニ足ラサルナリ、又もんですきゆうノ主
張シタルカ如キ三權分立ハ、爾後如何ナル國家ニ於テモ、其ノ儘ニ實行
セラレタルコトアラス、蓋シ事實之ヲ不可能ナリトシ、不便ナリトスル
ノミナラス、國々各々其ノ特殊ノ事精アリ、國體ノ異ナルアリ、時勢ノ變
遷スルアレハナリ、故ニ諸國皆立憲政體ヲ行フト雖モ、三權分立ヲ實行
スルニ方リ、其ノ區分、其ノ相互ノ關係、自ラ甚タ異ラサルヲ得ス、然レト
モ三權分立ノ主義ハ皆之ヲ採用シ、原則トシテ三權ヲ對立セシメ、互ニ
節制スルノ組織ヲ定メ、以テ專制ヲ防キ、自由ヲ保障スルノ、もんですき
ゆうノ主張ノ根柢トスル所ハ、普ク實行セラレ、長ク立憲政體ノ根本主
義トナレリ。

もんですきゆうノ三權分立論ノ出ツルヤ、忽チニシテ國王專制ヲ破
壞シ、政治ノ改革ヲ企圖セントスル者ノ耳目之ニ集注シ、時代ノ思潮ヲ

支配セリ、社會契約說ノ主張ヲ實現シ、人ノ天賦ノ自由權ヲ保障スルハ三權分立ノ組織ニ依ラサルヘカラストスルモノ、第十八世紀ノ後半ニ於テ、既に確定ノ政治說トナレリ、故ニ大革命ノ破裂シ、有名ナル人及國民權利ノ宣言發セラレ、革命ノ大原則ヲ明ニスルヤ、權利ノ保障ノ確實ニセラレ、權力ノ分立ノ定メラレサル國家ハ、憲法ナキノ國家ナリト斷定宣言セリ、之レ凡ソ憲法ノ如何ナル内容ヲ有セサルヘカラサルカラ定メ、斯ノ如キ憲法ヲ有スル國家ヲ以テ、憲法アルノ國家ナリト爲セルノ初メニシテ、立憲ノ語茲ニ起リ、斯ノ如キ内容ヲ有スルノ憲法ヲ立ツルヲ以テ、立憲政體ト爲スコト之レヨリ濫觴セリ。

大革命ハ斯ノ如キ理論ヲ標榜シ、國王專制ノ舊政治ヲ破壊スルヲ目的トシテ破裂セリ、其ノ結果動亂相次クコト二十有餘年、ふらんすニ於テハ、一八一四年王政復古シテ、再ヒ國王ヲ戴クニ至レリ、之レヨリ新時

代始マリ、第十九世紀ノ立憲政體ノ時代トナル、革命ハ立憲政體成立ノ前程ニシテ、西洋人カ其ノ立憲ノ精神ニ願ミ、天賦自由ノ哲理ニ覺リ、國王專制ヲ破壊セントシテ、革命ノ大運動ヲ捲キ起セルモ、二十有餘年ノ大動亂ヲ以テ、必スシモ徹底的ニ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得サリシナリ、ふらんすニ王政ノ復古セルハ、其ノ最モ顯著ナル徵表ニシテ、爲メニ西洋人ハ革命ノ後第十九世紀ノ初頭ニ於テ、解キ難キ矛盾渦中ニ陷レリ、前ニ說ケルカ如ク、斯ノ畸形ナル國王アルノ民主國ハ、國家法人說ヲ以テ説明シ得タルモ、政治ノ實際ハ如何ニ規定セラレ運用セラルヘキヤ、大革命ハ固ヨリ豫期シタル結果ヲ悉ク實現シ得タルニ非スト雖モ、專制王國ハ倒壊セラレ、新シキ國家構成ノ基礎ハ、理論ニ於テモ、事實ニ於テモ、民主共和ナラサルヘカラサルニ至レリ、然ルニ他方直ニ此ノ潮流ニ乘シテ彼岸ニ到着スルコト能ハサルノ事情ト趨勢ノ存スルモノ

アリテ、之ニ徹底スルコト能ハサリシナリ。革命ノ烈シキ動亂ノ後、反動ノ思想大ニ起リ、人心安ヲ思フテ姑息ナルニ至レルハ、又已ムヲ得サルノ情勢ナリト爲スヘク、諸國民皆暫ク國王ヲ保存シテ、一時ヲ糊塗セントセルハ偶然ナラサルナリ。革命ノ初國王ヲ死刑ニ處シタルふらんず人ハ、なほれをんノ没落スルト共ニ、先ツ王政ヲ復古シ、他ノ諸國モ亦國王ヲ保存シ、王國ノ名義ヲ捨テサルナリ。國王ハ最早ヤ專制國王ニ非サルモ、尙ホ國王ノ尊號ヲ負ヒ、主權者ト稱ス、然レトモ國家構成ノ基礎ハ、之ヲ民主共和ニ置カサルヘカラサルナリ。此ノ矛盾ヲ説明センカ爲メニ生シタル學說ハ國家法人說ニシテ、之ヲ制度ノ上ニ調和セントシテ、造リ出タサレタル統治ノ方法組織ハ、即チ立憲政體ナリ。

ふらんず王政復古ノ國王ハ、國權ヲ一身ニ總括スル者ナリト號シ、制定セラレタル憲法ハ、國王之ヲ人民ニ特許シタルモノナリト稱セリ、斯

ノ國王ノ下ニ於テ、民主共和ノ政治ヲ行ハントスルハ、新ニふらんず人ニ課セラレタル問題ニシテ、彼等ハ國王ヲ以テ有名無實ナル虛位ト爲シ、政治ノ實權ヲ人民ヲ代表スル國會ノ手ニ掌握スルモノトシ、以テ之ヲ解決セリ、之レ當時いざりす憲法ヲ模範トシテ、盛ニ唱導セラレタル立憲主義ノ理論ニシテ、國王ヲ虛位トスルヲ以テ、其ノ根本中心ト爲セリ、之ヲ實現センカ爲メニ、大臣ハ國王ノ任免ニ依ラスシテ、國會ノ多數ノ信任ニ從テ連帶責任ヲ負ヒテ進退セサルヘカラスト爲シ、國王ノ大臣ヲ奪ヒテ、國會ノ大臣ト爲シ、由テ以テ完全ニ國王ヲ政治上ノ實力ヨリ遠サケ、國會ヲ政治ノ中心カト爲スコトヲ得タリ、國王ハ現實ナル政治ノ範圍外ニ在ラサルヘカラストセラレ、臨座スレトモ政治セサルハ、立憲政治ノ峻嚴ナル結論ナリ、國會ノ理論ノ必然ノ要求ナリト主張セラレタリ、之レ爾來諸國ニ模倣繼受セラレタル、第十九世紀歐羅巴政治

組織ノ原則ニシテ、立憲政體ナルモノハ、結局國王ヲ無爲ノ地位ニ置キ、國會ヲ實權ノ中心ト爲スヲ以テ目標ト爲セリト云ハサルヘカラス。

此ノ如キハ既ニいざりすニ於テ、夙ニ實現セラレタル所ナリ、いざりすニ於テハ、第十七世紀ノ初すちゆあると王朝ノ時代ニ於テ、既ニ國王ノ專制ハ極度ニ達シ、一六四九年遂ニ國王ハ斷首ノ刑ニ遭ヒ、國ハ一タヒ共和トナレリ、ふらんす革命ニ先タツコト、正ニ百四十年ナリ、いざりすノ共和政モ亦永續セス、十一年ニシテ王政復古セルモ、いざりすノ民主國タリ、國王ノ虛位タルノ初ハ實ニ斯ノ時ニ存ス、王政復古ノ後國王ハ尙ホ國會ト衝突シ、遂ニ國ヲ逃レサルヘカラサルニ至レリ、國會ハ即チおれんじ公らゐりやむナル者ヲ迎立シテ王ト爲ス、國會ト國王ト主客轉倒シ、國會ハ國ノ主人公トナリ、民主共和ノ政治ヲ行フノ基礎茲ニ定マレリ、故ニ英人之ヲ稱シテ、血ヲ流ササルノ榮譽アル革命ト云フ、國

會ノらゐりやむ迎立ノ事ヲ決議スルヤ、同時ニ前王ノ國會ノ權能ヲ無視シテ、專制ノ權力ヲ濫用セル不法ノ行爲ナルモノヲ數ヘ舉ケ、其ノ侵害セラレタリトスルノ權利及自由ニ對スル要求ヲ議定シ、之ヲ「權利宣言」ト號シテ、らゐりやむニ突キ付ケ、豫メラゐりやむノ之ヲ侵ササルノ誓約ヲ求メ、らゐりやむノ之ヲ承諾スルニ於テ、初メテ國會ニ於テ國王タルコトヲ宣言セリ、國王アルノ民主國ノ名實此ニ於テカ成ル、爾來いざりすノ政治ハ之ヲ基礎トシテ、漸次ニ益々此ノ主義ヲ確立スルニ至レリ、當時いざりすノ國會ナル者ハ、今日ノ如キ人民代表ノ會議ニ非ス、貴族ノ集團ニシテ、貴族ノ間ニ大黨派アリ、政黨ノ力ヲ以テ國會ニ據リ、國王ヲ壓迫シテ、内閣ヲ政黨ノ手ニ握リ、國王ヲシテ完全ニ何事ヲモ爲ス能ハサルノ虛位ヲ擁スルモノタラシメタリ、此ノ傾向ヲ助長スルニ都合好キ諸種ノ事情續出シタルハ、いざりすヲシテ諸國ニ先タチ、立憲

政體ノ模範國タルニ至ラシメタルニ與テカアリ、其ノ殊ニ著シキハ一七一四年以降はのべる王朝ノ立テルコト之ナリ、うゐりやむノ統絶ユルヤ、英人新ニ獨逸はのべるノ國王ぢよるぢヲ迎ヘテ王ト爲ス、ぢよるぢ第一世之ナリ、ぢよるぢハ純粹ナル獨逸人ニシテ、英語ヲ話スコト能ハス、いざりすノ政治ニ對シ興味ヲ有シ利害ヲ感スルコト甚タ少シ、次王更ニ立ツモ、亦甚タ異ルコトナク、政權ノ中心國王ヲ離レ、一ニ國會ト内閣トニ歸スモノ益々成ル、此ノ間政黨ノ首領ニハ英傑ノ士輩出シ、國會ノ勢力増大シ、國王ハ全然拱手シテ、其ノ成ヲ仰クニ至レリ、第十九世紀ノ大半いざりす國王ノ位ニ臨座シタル者ハ、温良ナル女王びくどりあナリ、其ノ所謂ル國會政治、政黨政治又ハ内閣政治ト云フモノ、第十九世紀ヲ經テ大成ス、佛人カ王政復古ノ憲法ヲ制定セル一八一四年ハ、正ニぢよるぢ第三世ノ晩年ニ當リ、うゐりやむびつと以後、兩黨更立ノ慣

習漸次行ハレ、國會中心ノ政治ハ、既ニ略々完全ニ行ハルルニ至レル時ナリ、佛人探テ以テ模範ト爲スヘシト爲シ、之ヲ立憲主義ト號シ、國王ヲシテ何事ヲモ爲ササルノ國王タラシメ、權力ノ中心ヲ國會ニ歸セシメタルハ、寔ニ偶然ニ非スシテ、英人ノ百餘年ニ爲セル所、今佛人之ヲ爲スノミ、共ニ立國ノ基礎ヲ民主共和ニ置キ、國王ノ下ニ民主ノ政ヲ行ハントスル共通ノ必要ニ本ツクモノニシテ、自ラ其ノ歸結スヘキ所ニ歸結セルモノナリト爲スヘキナリ。

一八一四年ノふらんす憲法ハ諸國ノ相次イテ模倣シタル所ナリ、其ノ運用ノ原則タル、所謂ル立憲主義ハ、又或ハ自由主義ノ名ニ於テ、諸國ニ傳播シ、之ヲ以テ憲法ノ根本精神タリ、有終ノ目的タリト爲スニ至レリ、或ハ反動ノ勢一時ニ高マリ、帝王ノ權力再ヒ擡頭セルノ觀ヲ呈セルコトアリシト雖モ、立憲主義又ハ自由主義ノ方針ハ決シテ頓挫スルコ

トナク、ふらんすニ於テハ、一八三〇年ノ革命ニ依リ、人民國王ヲ廢立シ、國王ハ自ラ王タル者ニ非スシテ、市民ノ王タルコト確立スルニ至レリ、一八三一年ノベるぎ憲法ハ、國王アルモ、主權ハ人民ニ存スルコトヲ、條文ニ於テ明言シ、模範憲法タルノ名譽ヲ得タリ、どいつ諸國ノ如キ、諸種ノ事情ニ依リ、國會中心ノ政治ヲ行フニ於テ徹底スルコトヲ得ス、王權尙ホ残り存シテ、頗ル有力ナルモノアリシモ、人皆之ヲ以テ立憲政體ノ尙ホ不完全ナルモノナリト爲シ、之ヲいざりすニ比シテ、どいつ諸國ハ、立憲國タルニ於テ、尙ホ甚タ遅レタリト稱セラレタリ。

第二節 立憲政體ノ特徴

立憲政體ノ由來ニ稽ヘ、其ノ目的トスル所ニ察スレハ、第十九世紀ニ於テ諸國ニ普ク行ハルルニ至リシ、立憲政體ナルモノ、如何ナル政體ナ

ルカハ自ラ明ナリト云ハサルヘカラス、西洋立憲政體ノ特徴トスル所ヲ擧クレハ、其ノ主タルモノ、概ネ左ノ如シ。

(一) 國王ノ專制ヲ抑止スルハ、西洋立憲政體ノ眼目トスル所ナリ、元來大革命ハ專制國王ヲ倒壞センコトヲ期シテ勃發セリ、若シ一舉ニ國王ヲ廢スルコトヲ得タランニハ、事極メテ簡單ナリ、然レトモ、歐羅巴諸國ノ國王ハ、本來統治權者ニ非ス、國王ノ存廢ハ、以テ國體ノ變革ト爲スヘキニ非サルカ故ニ、諸種ノ事情ノ全然國王ヲ名實共ニ除去スルノ不便ナルモノアルヤ、國王ヲ存置スルモ、之ヲ實權ナキノ虛位タラシメタリ、國王ハ臨座スレトモ政治セサルモノ、實ニ立憲ノ根本主義トセラル、假令國王ヲシテ全然虛位ヲ擁スル者タラシムルニ徹底スルコト能ハサルモ、出來ル限り國王ノ權能ヲ制限シ、其ノ專制ニ至ルヲ抑止スルハ、立憲政體ノ中心目的トシタル所ナリ、而シテ其ノ根本精神ハ民主共和

ニ存スルコト、西洋立憲政體ノ由來ヨリ見テ疑フヘカラサル所ナリ。

(二) 國民代表ノ國會ノ存スルハ、立憲政體ノ根本要件ノ一タルハ言ヲ俟タス、民主共和ヲ精神ト爲シ、人民ヲシテ其ノ有スル所ノ主權ヲ行ハシメントスル、若シ所謂ル直接民主制ヲ採レハ、事甚々簡單ナリ、然レトモ立憲政體ハ、英佛ノ如キ大國ニ起リ、初メヨリ直接民主制ヲ行フコトヲ其ノ要件ナリトセス、る。そ。う。ハ。代。表。民。主。制。ニ。反。對。シ、い。ざ。り。す。ノ。如キ國會中心ノ政治ハ、眞ノ民主共和ニ非スト爲シ、大革命ノ理想モ、初メ茲ニ存セルヲ疑ハスト雖モ、革命ノ後起レル立憲主義ノ理論ト實際ノ計畫トハ、一ニ國會ヲシテ政權ノ中心タラシムルノ代表民主制ヲ眼中ニ置ケリ、又いざりすニ於テ發達シ、立憲政體ノ模範トナレルモノハ、代表民主制ニシテ、直接民主制ト相交涉スルコトナシ、故ニ現代ニ於テすゐすニ直接民主制行ハレ、最近南北あめりか諸州ニ於テ之ニ倣フ者多

キモ、必スシモ其ノ故ヲ以テ、之ヲ立憲政體ノ徹底シタルモノナリト爲ササルナリ、通常立憲政體ヲ或ハ代表又ハ代議政體ト稱スル所以ハ此ニ存ス、國民代表ノ國會トハ、國民一般ノ選舉ニ依リ、國民自ラ之ヲ行フカ如ク、其ノ意志ヲ代表シテ行フノ國會ヲ云フ。

而シテ西洋立憲政體ハ、國會ヲ以テ主權者タル國民ヲ代表スル者ナルカ故ニ、從テ政治ノ中心タラサルヘカラストスルモノナリ、いざりすノ國會政治又ハ政黨政治ト稱スルモノハ、即チ國會ヲ以テ國王及政府ノ上ニ在リトスルモノニシテ、由テ以テ立憲政體ノ模範タリトセラル、佛人ノ立憲政體ヲ樹立スルヤ、國會最高ノ主義ヲ採レル所以モ亦此ニ存ス、假令三權ヲ分立シ、國會ハ立法權ノ府ナリト爲スモ、國會中心立法權最高ノ主義ヲ以テ、立憲ノ本義ナリトシ、必ラスシモ三權對等ノ理論ニ拘ハラス。

(三) 自由權ノ保障ハ、立憲政體ノ缺クヘカラサル綱領トスル所ナリ、一七八九年ノふらんす人權宣言カ、自由ノ保障ナクンハ憲法ニ非スト爲シタルヲ、立憲ノ語ノ用キラレタルノ初ト爲スハ前ニ之ヲ説ケリ、ふらんす人權宣言ニ先タチ、いざりすヨリ移住シテ、新ニ新あめりか大陸ニ國ヲ建テタル人民ノ、所謂ル憲法ナルモノヲ定ムルヤ、皆之ヲ分テ二部ト爲シ、他ノ一部ニ於テ政治ノ組織ヲ定ムルニ對シ、其ノ上半部ヲ權利宣言又ハ權利條款ト題シ、各人天賦ノ奪フヘカラサル自由平等ノ權利ナルモノヲ列舉宣言セリ、ふらんす人權宣言カ、權力分立ト相並ンテ自由ノ保障ヲ定ムルヲ以テ憲法ナリト爲セルハ、之ト其ノ步調ヲ一ニスルモノニシテ、一七九一年ノ革命第一ノ憲法カ、人權宣言ヲ其ノ規定ノ一部分ト爲セル以來、後ノ諸國憲法ノ齊シク皆採用セル所ニシテ、自由權ヲ憲法上ニ保障スルハ、立憲政體ノ主タル要素トセラレ、元來人ノ

天賦ニ自由且ツ平等ニシテ、先天絶對ノ權利ノ奪フヘカラサルモノアリトスルハ、社會契約説自然法説ノ根本思想ニシテ、大革命ハ之ヲ標榜シテ、專制國王ニ抗戰セルナリ、故ニ凡ソ憲法ノ存スル、其ノ目的一ニ自由權ノ保障ニ在リトセルハ當然ニシテ、所謂ル自由權ノ意義性質ト、之ヲ宣言スルノ趣旨トハ、時ト共ニ著シク變遷セリト雖モ、苟クモ自由權ノ保障ナクンハ、憲法ニ非ストスルハ、諸國憲法ノ皆同シキ所ニシテ、之ヲ以テ立憲政體タルノ特徴ト爲スハ、人ノ普ク認ムル所ナリ。ふらんす人權宣言ノ自由權ナルモノハ、社會契約説ノ哲理ニ本ツキ、人ノ人トシテ本來天賦ニ之ヲ固有シ、何人ト雖モ之ヲ奪フヘカラスト爲セルモノナリ、憲法ノ全班ヲ通シテ、ふらんす流ノ哲理ト、いざりす風ノ慣行トカ相錯綜スルカ如ク、いざりすノ權利ノ宣言ナルモノハ、之ト其ノ趣ヲ異ニシツ、相聯絡シ、相表裏シテ立憲政體ノ要素ヲ成セリ、い

ざりすニハ、初ニ一六二八年國會ノちやあるす第一世ヲシテ承認セシメタル「權利請願」アリ、後ニ一六八九年ウゐりやむ王ノ迎立ニ方リテ、國王ヲシテ國會ニ對シテ約束セシメタル「權利宣言」アリ、又共ニ立憲政體ノ基礎ヲ爲セルノ重要ナル文書ナリトス、此レ等ノ文書ハ皆國民ノ權利ヲ宣言條定スト云フト雖モ、ふらんす人權宣言トハ、其ノ意義ヲ異ニシ、天賦人權ノ哲理ヲ宣言シタルモノニ非スシテ、唯タ從來專制國王カ人民ニ對シテ加ヘタル不正ノ侵害ニ對シ、消極的ニ之ヲ排除スルノ意ニ於テ、將來國王ヲシテ斯クノ如キ事ヲ爲ササル旨ヲ國會ニ向テ誓約セシメタルモノナリ、故ニふらんすノ人權宣言ハ人ノ主觀的權利ノ宣言ナルモ、いざりすノ權利宣言ハ客觀的ナル國王行爲ノ規則ナルノ性質ヲ有スト云フヘシ、然レトモ、其ノ根本ノ思想ハ斯クノ如クニ異レト雖モ、制度ノ實際ノ上ニ於テハ同一ノ結果トナル、即チ社會契約說ハ

之ヲ先天絶對ノ權利ナリト云フモ、自由ナル各人自ラ之ヲ承諾約束スレハ、之ヲ制限スルコトヲ得ルト爲スカ故ニ、人民ヲ代表スル國會ハ人權宣言ニ所謂ル一般公共ノ利益ノ爲メノ故ヲ以テ、之ヲ制限スルコトヲ得ルモノニシテ、いざりす國會カ國王ニ對シテ或ル事ヲ爲ササル旨ヲ誓約セシメタル、客觀的ノ規則ト異ルコトナク、國民ノ代表者タル國會自ラ之ヲ承諾スルニ非スンハ、之ヲ廢止變更スヘカラストスルニ於テハ同一ニシテ、自由權ノ保障ハ、國民代表ノ國會ノ存在ト密接不離ノ關係ヲ有ス。

自由權ノ保障ハ、法治國ノ主義ト相伴フ、法治國ノ主義トハ、立法權ノ定メタル法律ニ依ルニ非サレハ、人民ノ自由ヲ制限セサルヲ原則トシ、行政權ノ命令處分ヲ以テ、法律ニ依ラスシテ、人民ノ權利義務ヲ定ムルコトナキノ主義ニシテ、立憲政體ノ特徴トセララル所ナリ。

(四) 權力分立ノ統治組織ハ、政體ノ構成上、立憲政體ノ特徴トスル所ナリ、人權宣言ハ權力分立ヲ定ムルニ非ス、憲法ニ非スト云ヒ、憲法ヲ立ツルハ、即チ權力ヲ分立スルノ謂ナリトセラルルニ至レリ。

然レトモ、諸國憲法ノ權力分立ノ組織ヲ採用スル、必スシモもんですきゆうノ所説ノ如ク、三權ヲ精密且ツ正確ニ分類シ相獨立セシメタルニ非ス、其ノ間著シキ程度段階ノ差異アリ、殊ニ絶對的ナル三權分立ハ、國權ノ統一ヲ害フモノニシテ、如何ナル國ニ於テモ之ヲ採用スヘカラス、三權ノ間或ル程度ノ獨立ヲ認メテ相侵スコトナカラシメ、且ツ三權各相聯絡シテ互ニ抵觸スルコトナキヲ期セサルヘカラサルハ言ヲ俟タサルノミナラス、諸國ノ特殊ノ沿革事情及立憲當時ノ形勢ハ、諸國ヲシテ一律一樣ノ三權分立ヲ採用スルコト能ハサラシメタリ、北あめりか合衆國ノ憲法ハ、法ノ精神出ツルノ後二十餘年ニシテ制定セラレ、且

ツ最モ徹底的ニ人民主權ヲ實現シ、人民自ラ三權ノ上ニ立チ、之ヲ統制スルノ具體的方法ヲ講シ得タルカ故ニ、最モ嚴格ニ三權分立ノ組織ヲ憲法上ニ採用セリ、然レトモふらんす革命時代及革命以後ノ諸憲法ハ國王ヲシテ虛位タラシメ、實權ノ中心ヲ國會ニ置クノ所謂立憲主義ヲ實現センカ爲メニ、國會ヲ三權ノ首ニ置キ、立法權最高ノ主義ヲ執レリ、立憲ノ模範國ト稱セラルルいざりすハ、所謂國會政治ヲ行ヒ、行政權ノ衝ニ當ルノ内閣ハ、國會ニ從屬シ、其ノ多數ノ信任ニ依リテ進退スルヲ以テ、憲法上ノ原則ト爲シ、學者ノ或ハ云フカ如ク、三權分立ハ毫モ行ハレスト爲スコトヲ得サルモ、諸政皆一ニ國會ニ出ツ、舊帝政時代ノどの諸國ハ、所謂立憲主義ニ本ツク國會政治ヲ行フニ徹底セス、國王ノ權力尙存シテ頗ル大ナルモノアリ、内閣ハ國王ノ内閣トシテ、國會ト對立セリ、故ニ之ヲいざりすニ比シテ、三權分立ノ行ハルルコト、比較

的ニ顯著ナリト爲ササルヘカラス、故ヲ以テどいつ學者ハ、三權分立ハ立憲政體タル最大ノ特徴ニシテ、どいつ諸國ハ立憲政體ナルモ、いざりすノ如キ國會又ハ内閣カ立法行政ノ二權ヲ掌握スルハ、立憲政體ニ非スト爲シ、國會政治ト立憲政體トヲ區別スヘシト爲ス者多シ、然レトモ西洋立憲ノ由來ト目的トヨリ之ヲ見レハ、ヒトリ三權分立ノミヲ以テ立憲政體タルノ特徴ナリト爲スコトヲ得ス、三權分立モ、亦元來國王ノ專制ヲ抑止シ、自由ヲ保障スルヲ目的トシテ案出セラレタル制度ニシテ、寧ロ三權分立ハ之ヲ曖昧ニスト雖モ、所謂ル立憲主義ヲ徹底スルヲ以テ、西洋立憲政體ノ本旨ト爲スト爲ササルヘカラス、而テ、一般ニ立憲政體ノ模範國ト稱セラルルいざりすヲ以テ、立憲政體ヲ行フモノニ非スト爲スハ、頗ル偏セリト云ハサルヘカラサルナリ。

三權ヲ分立スルニ於テ、立法權ト行政權トノ關係ニ就テハ、斯ノ如ク

多様ナリト雖モ、司法權ヲ分立シ、獨立ノ裁判所ヲシテ之ヲ行ハシムルハ、諸國皆同シキ所ニシテ、之ヲ舊時ノ專制政體ニ比シ、立憲政體ノ特徴ハ、司法權ノ獨立ニ於テ最モ顯著明白ナリトス。

(五) 憲法ノ法典ヲ有スルハ、又立憲政體タルノ一特徴ト爲スヘシ、成文ノ憲法ナキモ、立憲ノ組織ヲ定ムレハ、以テ立憲政體タリト爲スヘク、いざりすハ憲法ノ法典ヲ有セサルモ、諸國ハ皆立憲政體ヲ採用スルニ方リ、本文ノ憲法ヲ發布シ、明文ヲ以テ之ヲ制定セリ、之レ主トシテ社會契約ノ思想ニ本ツクモノニシテ、國家ヲ創設スルノ根本契約ハ、國民全體ノ合意ヲ以テスルニ非サルヨリハ、之ヲ廢止變更スルコトヲ得ルモノニ非ス、之ヲ一般ノ法律ト區別シ、普通ノ立法ノ方法ヲ以テ動カスコトヲ得サルノ根本法ト爲スヘシトスルナリ、人權宣言ノ所謂ル人ノ自由ヲ保障シ、權力分立ヲ定ムルノ憲法ハ、必ス成文ヲ以テ、之ヲ法典ニ編

纂シ、確定不動ノモノト爲サナルヘカラストセラレ、立憲政體ヲ定ムルトハ、斯ノ如キ憲法典ヲ制定スルコトナリトセララルニ至レルナリ。以上ヲ以テ、凡ソ西洋立憲政體ノ特徴ト爲スモ、屢述フルカ如ク、諸國皆一ニ之ヲ採用實施スルコト、一律一様ナルニ非サルナリ、憲法典ヲ有スルアリ、有セサルアリ、三權分立ヲ行フノ頗ル嚴格ナルモノアリ、殆ント之ヲ行ハサルモノアリ、自由ノ保障ト云フモ、其ノ意義範圍又甚タ異ル、國會ノ國民ヲ代表シ、諸政ノ中心タルモ、亦其ノ程度性質ニ於テ、諸國ノ間著シク逕庭アリ、皆之ヲ大體ノ方針原則ヨリ見テ、一ニ立憲政體ト云フノミ、其ノ之ヲ行フノ態様種々ナルハ、固ヨリ言ヲ俟タサルノミ。

第三章 大日本帝國ノ政體

明治二十二年二月十一日、大日本帝國憲法發布セラレ、我カ現行ノ政體定マレリ、西洋立憲ノ長ヲ採リ、之ヲ我カ千古ノ國體ノ上ニ構成シ、益々國體ノ精華ヲ發揚セントス、我カ國史ノ上ニ於ケル、政體ノ一大革新ニシテ、實ニ未曾有ノ盛事タリ、其ノ此ニ至レル、由來シ沿革スル所何レニ在ルカ、之ヲ知ラスンハ、我カ立憲ノ政體ヲ知ルコトヲ得ス、我カ立憲ノ精神ハ我ニ特有ナルモノアリ、我カ立憲ノ根本主義ハ自ラ西洋諸國ト異ラサルヲ得ス、之ヲ明ニスルハ、我カ憲法ヲ解釋シ、運用スルノ第一義ナリ。

第一節 我カ立憲ノ由來

國史ヲ按スルニ、帝國ノ政體ハ古來幾多ノ變遷ヲ經タリ、皆時勢ノ推移ニ應シ、事ノ宜シキヲ制シテ、國體ノ精華ヲ發揚シ、祖宗統治ノ理想ヲ達成スルノ、最善ノ方法ヲ講スルノミ、政體ノ形式ハ時ト共ニ異ルモ、其ノ趣旨精神トスル所ニ至テハ、一貫シテ變ハルコトアラサルナリ、明治二十二年立憲ノ政體ニ則ルコトヲ定ムルモ亦其ノ意ハ一ナリ、之レ明治天皇ノ憲法ノ發布ニ方リ、之ヲ祖宗ノ神靈ニ告ケタマフヤ、憲法ハ即チ祖宗ノ遺訓ヲ明徴ニスルモノニシテ、祖宗ノ子孫ニ貽シタマヘル、統治ノ大綱領ヲ繼承シテ、時勢ノ進歩文明ノ發達ニ伴ヒ、今ノ時ニ方テ、之ヲ發表シ、之ヲ實行スルニ外ナラサルノ意ヲ宣ヘタマヘル所以ニシテ、我カ立憲ノ本ツク所ノ由來ト精神トハ、此ノ外ニ存セサルナリ。

故ニ我カ立憲ノ淵源ヲ溯レハ、遠ク天祖建國ノ時ニ在リ、我カ立憲ノ精神ヲ尋メレハ、之ヲ建國ノ精神ニ求メサルヘカラス、我カ立憲政體ノ

施行ヲ以テ、漫ニ西洋ヲ模倣シ、其ノ精粕ヲ嘗ムルモノト爲スハ、我カ立憲ノ由來スル所ト、其ノ精神トヲ誤マル者ナリ、我ノ彼ニ探レルハ、政體ノ形式ニシテ、其ノ實質タル精神ハ、建國以來、我ニ固有ナル所ナリ、中世皇道凌夷シ、政權遂ニ武門ニ移ル、將軍ハ自立シテ統治ノ權力ヲ行フニ非ス、天皇之ヲ宣下スルニ依リ、一個ノ官職トシテ、庶政ヲ掌握スルニ過キス、主權ノ名義ハ嚴トシテ天皇ニ在リ、國體ノ名義ハ毫モ動カサルルコトナカリシト雖モ、幕府ノ基礎漸ク固ク、將軍全權ヲ執リ、天皇ハ虛器ニ似タリ、凡ソ我カ建國ノ精神ハ、天皇親ラ國ヲ統治シタマフニ存シ、然ラスンハ以テ我カ國體ノ精華ヲ發揚スルニ足ラサルナリ、故ニ幕府ノ末期ニ至リ、勤王ノ論大ニ起リ、天皇ノ統治權者タルノ實ヲ舉クヘシト爲スニ至ル、之レ我カ國體ノ自覺ニシテ、立憲ノ第一着歩ハ、維新ノ大業ニ在リト爲ス所以ナリ、皇政復古ノ大號令ヲ發シ、億兆安撫國威宣布ノ

御宸翰ヲ下シ、諸事神武創業ノ始ニ原キ、萬機ヲ親ラシタマフコトヲ宣言シタマヘルハ、建國ノ精神ヲ煥發シテ、新政ノ基礎ヲ定メタマヘルモノニシテ、後ノ立憲ノ根本茲ニ成ル。

天皇ノ親政ヲ復シ、建國ノ根本ニ原ツクコト定マルニ至レハ、之ニ本ツキテ政體ノ原則自ラ定マルモノナクンハアラス、五箇條ノ御誓文ハ、我カ立憲ノ大憲章ニシテ、未曾有ノ變革ヲ成就シテ、維新ノ國是ヲ顯發スル所以ノ大方針ヲ宣言シタルモノナリ、凡ソ維新ノ宏謨ハ、天皇ノ親政ヲ復スルト共ニ、臣民翼贊ノ實全キヲ期スルニ在リ、建國以來政體ノ變遷ヲ察スルニ、皆臣民翼贊ノ實ヲ舉クルノ最モ有效ナルヲ期スルヲ目途トセサルハアラス、然ルニ幕政ノ末葉ニ至リテハ、武門封建ノ政治ハ最早ヤ時勢ニ適セサルモノナルコト、明白ニ覺知セララルニ至レリ、將軍專制シテ、壓制至ラサルナキト共ニ、諸國ニ大小ノ藩主アリテ、土地

ヲ私領シ、人民ヲ奴僕ト爲シ、民意暢達セス、自由財産ノ抑壓セララルコト、恰モ西洋中世ノ封建諸侯又ハ專制國王ト異ルコトナシ、而シテ人民ニ階級アリ、町人百姓ハ全然公事ニ與ラス、將軍藩主武士等上下ノ間ニ介在シテ、上ハ天皇ノ親政ヲ戾止シ、下ハ臣民ノ翼贊ヲ抑壓ス、其ノ間雍塞シテ通セサルナリ、萬民百姓ハ天皇ノ大御實ニシテ、奉公殉忠ノ誠ヲ致スニ於テ差等ナキ所以ノモノ悉ク廢ス、然ルニ今外敵四方ニ迫リ、國家危急ニ陷レルモ、幕府之ヲ維持スルノ力ナキヲ暴露スルニ至レハ、國民カ實力ヲ以テ、天皇ノ下ニ舉國一致シテ、護國ノ任ニ當ラントスルノ運動ハ必ス起ラサルヲ得ス、恰モ學問頗ル開ケ、勤皇ノ思想大ニ起リ、攘夷ノ論ト尊皇ノ説ト相合シ、遂ニ幕府ヲ倒壞セルモノ、即チ維新ナリ、天皇親政ノ下ニ、舉國臣民翼贊ノ實ヲ舉ケントス、之レ我カ國體ノ精華ヲ發揚スル所以ノ根本ニシテ、明治政體ノ基礎茲ニ存セサルヘカラス、明

治ノ劈頭ニ五箇條ノ御誓文ヲ定メ、天地神明ニ誓ヒテ、之ヲ國是トシ、臣民ノ協心努力ヲ求メタマヘル所以ノモノ偶然ニ非サルナリ、同日ノ御宸翰マタ深ク臣民ノ翼賛ヲ希フノ意ヲ宣リタマヘリ、爾來四民ヲ平等トシ、國民皆兵ノ法ヲ立テ、納稅ヲ臣民ノ例外ナキ義務ト爲シ、義務教育ノ制ヲ定メ、臣民皆均シク文武ノ官職ニ任スルノ原則ヲ明ニシ、臣民ヲ舉ケテ皇事ニ翼賛スル所以ノ方途着々トシテ就レリ。

明治元年政體書ヲ以テ新ニ政體ノ規模ヲ定ム、其ノ要領トスル所(一)天皇親政ト、(二)三權分立ト、及(三)議院制度ヲ設クルノ三ニ歸ス、立憲ノ方針既ニ明治元年ニ定マレリト云フヘシ、四年廢藩置縣ノ舉アリ、天皇親政ノ實益、舉カル、議院ノ制ハ議事所議政官公議所集議院等幾多ノ變遷ヲ經タルモ、常ニ萬機ヲ公論ニ決スルノ趣旨ヲ一貫シ、官民共ニ此ノ方針ニ向テ進メリ、七年ニ至リ、民選議院ヲ設立スルノ建白出ツ、爾來朝野

ノ政局ハ一ニ之ヲ中心トシテ錯綜セリ、八年元老院大審院ヲ置キ、地方官會議ヲ開キ、民選議院ノ端ヲ開キ、漸次ニ立憲ノ政體ヲ立ツルノ素地ト爲スコトヲ定メラル、民間ノ國會開設ヲ希望スルノ聲モ亦益々盛ナルニ至レリ、遂ニ十四年十月二十日ヲ以テ、國會開設ノ勅諭ヲ發セラル、之レ我カ立憲史上最モ重大ノ意義アルノ事件ナリ、前ノ維新ノ宏謨ヲ大成シ、後ノ立憲ノ大方針ヲ決定ス、即チ將ニ制定セラレントスルノ憲法ハ、我カ固有ノ國體ヲ基礎トシ、天皇ノ大權ヲ中心トシ、國會政治又ハ政黨内閣ノ制ヲ採ラサルコト、茲ニ嚴トシテ定マレリ、當時ヲ追懷スレハ、廟堂其ノ人ヲ得タリト爲スヘキモ、我カ國體ノ基タル、遠ク且ツ固ク、國民ノ國體ノ自覺明ナル日星ノ如クナルモノアルニ非スンハ、何ソ能ク大綱ヲ執リテ、過マタサル斯ノ如クナルヲ得ンヤ、爾來着々トシテ憲法ノ編纂其ノ施行ノ準備ノ業成リ、遂ニ二十二年二月十一日ヲ以テ、大日

本帝國憲法ノ發布ヲ見ルニ至レリ。

二一四

第二節 我カ立憲ノ精神

故ニ我カ立憲ノ精神タル明ナルノミ、一ニ我カ固有ノ國體ノ精華ヲ發揚スルニ歸ス、天皇親政ノ基礎ヲ固クシ、天皇帝國ヲ統治スルノ宏謀ノ、益々大ニ成就センコトヲ期スルノ外アラサルナリ、而シテ斯ノ事タル、臣民心身ノ全力ヲ盡クシ、國ヲ舉ケテ一致協同以テ皇事ニ奉シ、大業ヲ翼賛スルノ效ヲ舉クル、最大ナルト相伴フ、一言ニシテ之ヲ云ヘハ、善政ヲ行フト、民意ヲ暢達スルト、之ヲ我カ立憲ノ精神ト爲スノミ、二者固ヨリ合一シテ離レス、然レトモ憲法發布ノ告文ト勅語トニ依リ之ヲ分説スレハ、

(一) 憲法ノ發布ニ方リ、之ヲ皇祖皇宗ノ神靈ニ告ケタマヘル告文ニ

憲法ヲ制定スルハ、一ニ皇祖皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニスルノミ、皇祖皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル、統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラサルノ意ヲ宣リタマヘリ、我カ憲法ノ基礎ハ我カ國體ニ存ス、而シテ益、我カ國體ノ精華ヲ發揚セントスルノミ、我カ建國ノ理想タル、葦原中國ニ理想國家ヲ創造セントスルハ、天祖肇國以來、歷代列聖ノ大御心ニシテ、統治ノ大業此ノ外ニ在ラサルナリ、憲法ノ精神ハ祖宗ノ御精神ナリ、我カ固有ノ惟神道ナリ、天之日嗣ノ御位ニマシマシテ、益々國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ、八州民生ノ慶福ヲ増進センコトヲ期シタマフノミ、之レ建國ヨリ今ニ至リ終始一貫シテ渝ハラサルノ、統治ノ大御業ナリ、唯タ之ヲ達成スルノ方法組織ハ時勢ノ變遷ニ伴ヒ、文明ノ發展ニ應ジ、自ラ同一ナルヲ得ス、時ト共ニ進歩シテ止マサルナリ、故ニ明治ノ時代ニ在リテハ、告文ニ所謂ル世局ノ進運ニ膺リ、人文ノ發達ニ隨ヒ、此ノ憲法ヲ制定シタマフト雖

モ、其ノ目的趣旨トスル所ハ古來一ナル所、毫モ新ナルモノアラス、一ニ祖宗國ヲ知ラスノ根本方針ヲ、斯ノ時ニ方リ、斯ノ方法ニ依リテ、煥發シタマフノミ。

(二) 告文マタ憲法ハ臣民翼賛ノ途ヲ廣ムルヲ趣旨トスルコトヲ宜リタマフ、憲法發布ノ勅語ハ、先ツ我カ帝國ノ肇造カ、臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚ルト爲シタマヒ、中段ニ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ今ニ傳ヘタルハ、固ヨリ祖宗ノ御威德ニ之レ由ルト雖モ、臣民ノ忠實勇武ニシテ、愛國殉公ノ精神ニ富ミ、皇事ニ盡瘁シタルニ由ルト宜リタマヒ、最後ニ斯ノ如キ忠良ナル臣民ノ子孫ナルカ故ニ、相與ニ協同一致シテ、帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ、祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ大御心ニ添ヒマツリ、畏クモ天皇ト此ノ負擔ヲ分チ、心身ヲ盡クシテ翼賛センコトヲ疑ハストシテ、深ク臣民ニ信頼アラセラレ、憲法ニ依リテ舉國翼賛ノ

實效大ニ舉カルコトヲ期スルノ意ヲ宜リタマフコト、最モ親切懇懇ナリ、之レ我カ國體ノ精華萬國無比ナル所以ニシテ、維新以來明治天皇ノ銳意勵精之ヲ實現セントシタマヒシ所、憲法ノ制定ニ依リテ其ノ全キヲ得ルニ至レルナリ、我カ立憲政體ハ臣民翼賛ノ方法組織ノ規定ナリ。

我カ憲法ハ斯ノ大精神ニ本ツキ、天皇ノ欽定シタマヒシ所ナリ、天皇ハ祖宗ノ遺訓ヲ此ノ憲法ニ依リテ明ニシ、祖宗ノ定メタマヒシ大方針ニ從テ、新シキ政體ヲ定メンカ爲ニ、此ノ憲法ヲ制定セラレタルモノニシテ、或ハ人民之ヲ定メテ、國王ヲシテ強テ之ヲ約諾セシメ、又ハ人民ト國王ト之ヲ協約議定シタルノ憲法ト、全然異ルハ言フ俟タサルノミナラス、之ヲ欽定ト稱スルモ、事實上國王之ヲ強制セラレテ、已ムヲ得ス之ニ調印シタルメ、憲法ト比較スヘキニ非ス、我カ天皇ハ名實共ニ存スル

ノ統治權者ニシテ、憲法モ亦名實兼テ備ハルノ欽定憲法ナリ。

故ニ大日本帝國憲法ハ、假令其ノ規定ノ文字ニ於テ西洋諸國ノ憲法ト相同シキアリ、政體ノ結構組織マタ相似タルモノアルモ、其ノ精神ニ至リテハ全然我ニ固有ナルコトヲ知ラサルヘカラス、既ニ精神ニシテ特殊ナルモノアレハ、政體ノ形式、條文ノ文字同一ナルモノアルモ、之ヲ解釋シ、之ヲ運用スル、又自ラ特殊ナルモノアリト爲スヘキハ言フ俟タス、我カ立憲政體ハ其ノ根本主義トスル所、前ニ説クノ西洋立憲政體ノ特徵ト甚タ大ニ異ルモノアリ、蓋シ其ノ國體ヲ異ニシ、其ノ立憲ニ至ルノ由來ヲ異ニスル、根本的ナルモノアレハナリ。

第三節 我カ立憲政體ノ根本主義

我カ立憲政體ハ、我カ國體ヲ基礎トシテ存ス、政體ハ嚴ニ國體ト區別

セラルヘク、政體ノ改革ハ以テ國體ヲ動かスヘカラサルナリ、之ヲ我カ立憲ノ由來ニ徵スルモ、立憲政體ノ採用ハ、千古不變ノ國體ノ根本ヲ累スルモノニ非サルコト明ナルニ至リテ、明治十四年ノ國會開設ノ詔勅トナリ、制定發布セラレタル大日本帝國憲法ハ、益々我カ國體ノ精華ヲ發揚スルヲ以テ精神ト爲セリ、其ノ第一條ニ國體ヲ宣明シ、第四條ニ天皇ハ此ノ憲法ノ條規ニ依リテ、其ノ總攬スルノ統治權ヲ行フコトヲ定ム。

我カ立憲政體ハ君主主義ヲ採ルト云フカ如キハ、未タ以テ我カ立憲ノ本義ヲ解スト爲スニ足ラサルナリ、西洋ノ君主主義ト云ヒ民主主義ト云フハ、政體ノ組織ノ上ニ於テ、君主ノ權能ヲ大ナラシムルカ小ナラシムルカノ政治主義ノ論ニシテ、國體ノ區別ニ非ス、其ノ立國ノ根柢タル民主共和ノ基礎ノ上ニ於テ、國王ノ權限ノ廣狹ヲ定ムルノミ、君主主

義ト云フモ、君主ヲ以テ統治權者ナリトスルニ非ス、我ハ政體ノ構成ノ上ニ於テ君主主義ヲ採ルニ非ス、天皇統治權者ナルノ、不動ノ國體ヲ基礎トシテ立憲政體ヲ定ムルノミ。

故ニ西洋ノ立憲政體カ、皆民主共和ヲ以テ、其ノ根本ノ精神トシ、之本ツキテ一切ノ制度ヲ定メタルハ、凡テ之ヲ其ノ儘ニ我カ立憲政體ニ推及シテ論スヘカラサルナリ、我カ立憲政體ノ如何ナル制度ト雖モ、民主共和ヲ基礎トスル西洋立憲政體ノ制度ト、此ノ點ヨリ見テ、全然意義性質ヲ異ニスルコトヲ知ラサルヘカラス、我ハ立憲政體ヲ採用シタリト雖モ、我カ國體ヲ變シテ、民主共和ト爲セルモノニ非ス、固ヨリ我カ立憲政體ト雖モ、彼ト共通ノ原素ヲ有スルカ故ニ、之ヲ共ニ立憲政體ト爲スハ言フ俟タスト雖モ、其ノ根本ノ精神ニ於テ、全然異ルモノアレハ、之ヲ我カ國體ト相觸レサルノ限度ニ於テ、我カ立憲政體ノ規定ナリト爲

スヘキノミ。

我カ立憲政體ノ根本主義トスル所ヲ、西洋諸國ノ立憲政體ノ特徴ニ比較スルニ、共通ナルモノアルト共ニ、我ニ特有ナルモノアリ、今我カ立憲政體ノ根本主義トスル所ノ主ナルモノヲ擧クレハ、概ネ左ノ如シ。

(一) 天皇ノ專制ヲ抑止シ、遂ニ之ヲ無爲ノ虛位ト爲サントスルハ、斷シテ我カ立憲ノ主義ニ非ス、天皇親政ノ主義ヲ徹底セントスルモノ、實ニ我カ立憲ノ根本タリ、天皇ヲ以テ西洋ノ國王ニ比シ、所謂立憲主義ノ下ニ於ケル、臨座スレトモ政治セサルヲ以テ、我カ天皇ニ擬セントスル一切ノ解釋運用ハ、凡テ之ヲ排斥セサルヘカラス、從テ我カ政體ハ三權分立主義ヲ採ルモ、天皇ハ其ノ一ヲ擁シテ、國會ト對立スル者ニ非ス、統治權ヲ總攬シ、三權ノ中心タル憲法上ノ大權事項ヲ親裁專行ス、大權中心ハ我カ立憲ノ根本主義中ノ根本主義ニシテ、他ノ諸根本主義ハ、凡

テ之ヨリ派生ス、立憲政體ノ全般ニ亘リ、之ヲ定メ之ヲ改ムルハ、一ニ之ヲ大權ニ屬スルモノト爲セリ、大日本帝國憲法ハ欽定憲法ナリ、天皇之ヲ制定シタマフノミナラス、憲法ノ改正ハ專ラ大權ニ存スルモノトシテ大權ニ依ラスシテ、我カ政體ノ組織ハ勳カサルルコトナキハ、我カ立憲政體ノ著シキ特色ノ一ナリ。

國家統治ノ原動的ナル活動ハ、凡テ之ヲ大權ノ專行ニ出ツルモノトス、宣戰講和ノ大權、陸海軍統帥ノ大權ノ如シ、又立法司法行政ノ權、皆之ヲ大權ニ淵源スルモノトシ、凡テ之ヲ大權ニ集中ス、一切ノ官府ハ天皇ノ官府ニシテ、國務大臣ハ天皇專ラ之ヲ任免シ、議會ノ信任ニ依リテ進退スルモノトセス、議會モ亦天皇之ヲ召集スルノ天皇ノ議會ナリ。

(二) 帝國議會ヲ設ケ、其ノ一院ヲ民選ニ依リテ成立スルモノトシ、統治權ノ行使ニ翼賛スルノ、合議制ノ官府ト爲セルハ、我カ政體史上未曾

有ノ變革ニシテ、實ニ萬機ヲ公論ニ決シ、臣民翼賛ノ道ヲ廣ムルノ維新ノ宏謨ヲ大成シ、我カ國體ノ精華ヲ發揚スルノ盛事ナリ。

然レトモ我カ帝國議會ハ、國家ノ主權者タル人民ノ代表者ニ非サルハ言ヲ俟タス、人民ハ帝國ノ主權者ニ非サルノミナラス、帝國議會ハ之ヲ代表スルノ法理上ノ擬制モ亦從テ之ヲ採用セス、帝國議會ハ天皇ノ官府タリ、天皇ノ統治權ヲ翼賛スルノ權能ヲ附與セララルルノミ、自立固有ノ權カヲ有スルモノニ非ス。

國會中心立法最高ノ主義ハ、我カ立憲政體ノ主義ニ非ス、固ヨリ我カ國體ト相容レサルナリ、大權中心タリ、帝國議會ハ大權ノ下ニ成立シ、行動スルノミ、天皇ノ大臣カ議院ノ信任ニ依テ進退スルハ、我カ立憲ノ根本ニ反レリ、西洋ノ立憲政體ハ民主共和ヲ根本トシ、之ヲ實現センカ爲メニ、大臣ハ國會ノ信任ニ依テ進退スルモノト爲スノ國會政治、議院内

閣政治又ハ政黨内閣政治ヲ行ヒ、依テ以テ國王ヲ無爲ノ虛位ト爲シ、之ヲ立憲ノ理想トスルモ、我カ立憲政體ノ之ヲ採用スル能ハサルハ、我カ國體上當ニ然ルヘキ所ニシテ、故ニ我カ憲法ハ大權中心ヲ主義トシ、國會政治又ハ政黨政治ノ行ハルルノ餘地ヲ存セス。

(三) 我カ憲法ハ臣民ノ自由權ヲ列舉シ、臣民ノ一定ノ自由ニ對スル憲法上ノ保障ヲ定メタリ、法律ニ依ルカ、又ハ一定ノ條件ニ當ルニ非サレハ、自由ヲ制限スルコトヲ得サルモノトシ、其ノ權利ノ種目モ略々人權宣言以下西洋諸國ノ憲法ノ列舉スル所ニ同シ、從テ法治國主義モ亦我カ憲法ノ採用セル、立憲ノ根本主義ノ一タリト爲スヘク、憲法ノ列舉セル事項ニ就テハ、法律ヲ以テスルニ非サレハ、行政權ヲ以テ自由ニ之ヲ制限スルコトヲ得サルナリ。

我カ憲法ハ自由權ヲ保障スルモ、之ヲ以テ天賦ノ權利ナリト爲シ、統

治權モ亦之ヲ侵スコトヲ得サルモノトスルニ非サルハ言フ俟タス、臣民ハ本來權利ヲ有セス、唯タ統治權ノ之ヲ附與スルニ依リテ、權利ヲ有スルコトヲ得ルノミ、自由權モ亦統治權ノ認ムルニ依リテ存ス、從テ臣民自ラ約諾スルモ自由權ヲ拋棄スルコトヲ得ルモノニ非ス、帝國議會ノ協賛ニ依ルノ法律ヲ以テスルニ非サレハ、一定ノ自由ヲ制限スルコトヲ得スト爲セルハ、人民ノ代表者自ラ之ヲ約諾スルニ非サレハ、人民ノ權利ハ之ヲ制限スルコトヲ得スト爲スノ理由ニ出ツルモノニ非ス、又帝國議會ヲ以テ天皇ニ對立セシメ、帝國議會ニ對シテ、天皇カ帝國議會ノ同意ナクシテ、單獨ニ一定ノ行爲ヲ爲ササルコトヲ約束シタルモノニ非サルハ、我カ國體上當然ナリ、我カ憲法上ニ於ケル自由權ノ意義ハ、一定ノ自由ハ天皇定ムル所ノ法律ニ依ルカ、又ハ一定ノ條件ニ當ルニ非スンハ、行政權ノ命令處分ヲ以テ之ヲ制限セサルコトニ存シ、又天

皇ノ特ニ臣民ニ附與シタマフノ權利ナリ。

(四) 我カ立憲政體ハ、三權分立ヲ根本主義トシテ組織セラレ、帝國議會ト政府ト裁判所ト、天皇ノ下ニ鼎立シ、各々獨立シテ其ノ權限ヲ行フモノトス。立法權ハ帝國議會ノ協贊ニ依リ、國務大臣ハ天皇ヲ輔弼シ、又命ヲ奉シテ行政權ヲ行フノ政府ヲ組織ス。司法權ハ裁判所之ヲ行フ。

帝國議會ハ立法權ニ協贊スル唯一ノ官府タルモ、立法權其ノ者ハ天皇ノ裁可ニ依リテ行ハル、國務大臣ハ天皇ヲ輔弼スルノミ、獨立ニ行政權ヲ行フノ官府ニ非ス。命ヲ奉シテ之ヲ行フノミ、裁判所ハ獨立ナルモ、天皇ノ名ニ於テ之ヲ行フ、凡ソ三權ハ皆天皇ノ總攬スル所ナリ、然レトモ此ノ故ヲ以テ之ヲ三權分立ニ非スト爲スヘカラス、寧ロ天皇之ヲ總攬シ、天皇ノ下ニ對立スルカ故ニ能ク三權ノ分立アルコトヲ得ルナリ、北あめりか合衆國ノ憲法カ、三權ハ凡テ人民ノ主權ヨリ出ツト爲スニ

依リテ、三權分立ヲ比較的ニ徹底シ得タルト其ノ揆一ナリト云フヘシ、固ヨリ三權分立ノもんですきゆうノ唱ヘタルカ如クニ嚴格ニ行ハルルコトヲ得ルモノニ非サルハ、前ニ説キタルカ如シ、其ノ比較的ニ徹底セルヲ、諸國憲法中ニ求メハ、北あめりか合衆國ト日本トヲ以テ雙壁ト爲スコトヲ得ヘシ。

我カ立憲政體ハ、國會最高ノ主義ヲ採ラス、固ヨリ民主共和ヲ以テ精神トスルモノニ非サレハナリ、國王ヲ無爲ノ虛位トシ、臨座スレトモ政治セサルヲ以テ其ノ地位ト爲シ、内閣大臣ハ國會ノ信任ニ依リテ進退スルヲ原則トシ、國王ハ之ヲ拒否スルコトヲ得サルハ、西洋立憲ノ重要ナル根本主義トスル所ナルハ、彼ノ立憲ノ由來ニ見、其ノ民主共和ノ精神ヲ、此ノ形式ニ依リテ實行セントスルノ目的ニ察シテ、固ヨリ當然ナリトスヘキモ、我カ立憲政體ハ、他ノ如何ナル點ニ於テ、西洋立憲ノ主義

ヲ採用スルモ、此ノ一點ノミハ斷シテ我カ國ニ行フコトヲ許ルササルナリ。蓋シ政體ノ一時ノ制度ヲ以テ、國體ヲ動かスニ至ルヘケレハナリ、我カ憲法ハ制定ノ初ヨリ之ヲ方針トシ、嚴トシテ大權中心ノ主義ヲ立テ、天皇ハ大臣ヲ任免スルニ於テ、絶對的ニ自由ナルモノト爲セリ、之レ我カ立憲政體運用ノ骨子ニシテ、天皇ヲシテ苟クモ大臣任免ノ自由ヲ失ハシムルカ如キハ、嚴ニ之ヲ避ケサルヘカラサルナリ、此ノ點ヨリ見テ、我カ立憲政體ノ三權分立主義ヲ徹底シ得タルハ、又北あめりか合衆國ト共ニ、諸國ノ間ニ特色ヲ放テリト云ハサルヘカラス、國會政治議院内閣政治又ハ政黨内閣政治ナルモノハ、三權分立主義ヲ距ルコト甚タ遠キモノナリ、立法權ト行政權トハ分立セラレス、シテ、兼併セラル、故ニ學者ノ之ヲ立憲政體ニ非スト爲ス者アルハ前ニ説ケリ、唯タ此ノ一點ヲ以テ立憲政體ニ非スト爲スハ過キタルモ、立憲政體ノ重要ナル根本

主義タル三權分立ノ主義ハ、國會政治ニ在リテハ、其ノ行ハルルコト、極メテ薄弱ナリト云ハサルヘカラス、我カ學者ノ三權分立ヲ以テ立憲政體タルノ唯一ノ特色ナリトシ、之レアルカ故ニ我ハ立憲政體ナリト爲シ、他ハ措キテ問ハサル者アルハ、又偏セリト爲スヘキモ、能ク我カ立憲政體ノ特色ヲ明カニスルモノナリト爲ササルヘカラス。

三權分立ノ目的トスル所ハ、權力ノ專制ナカラシメントスルニ在リ、三權互ニ相節制シ、能ク平衡中庸ヲ得ルヲ其ノ趣旨ト爲ス、凡ソ此ノ目的ヲ達セントスレハ、三權ハ互ニ獨立ナラサルヘカラス、之レもんですきゆうノ主張ノ眼目ニシテ、三權獨立ナリ、故ニ能ク相牽制シ、相互ニ抑止シテ、專制ノ行動アルコトヲ得サルナリ、然レトモ三權分離シテ、全然獨立シ、其ノ間毫モ相交渉關聯スルコトナケレハ、又此ノ目的ヲ達スルコト能ハサルナリ、三權分立ハ、三權ノ間何等ノ交渉關聯ナカラシムル

ノ主義ナリトスルハ、未タ三權分立ノ真意ヲ解セサル者ナリ、三權ノ劃然タル分離ハ、唯一ノ統治權ノ作用タル以上、之ヲ實現シ得サルノミナラス、甚タシキ不利不便ノ結果ヲ生スルハ言ヲ俟タサルノミナラス、三權ノ間密接ナル聯繫アリ、有效ナル交渉ナケレハ、能ク三權分立ノ目的趣旨ヲ實現スルコトヲ得サルナリ、故ニ我カ立憲政體ハ、三權ヲ以テ互ニ交渉シ、互ニ監督スルノ作用ヲ行フモノト爲セリ、固ヨリ互ニ法律上上級ノ官府トシテ監督スルニ非サルモ、一定ノ方法ニ依リテ、天皇ノ三權ニ對スル監督權ヲ實現シ、間接ニ事實上監督ノ作用アラシム、例ヘハ帝國議會ノ上奏建議質問ノ方法ニ依リテ、政府ノ行動ヲ批評糾彈シ、國務大臣ノ帝國議會ノ停會、衆議院ノ解散ヲ奏請スルカ如キ、又ハ帝國議會ノ政府ノ提出スル法律案ヲ否決修正シ、豫算ヲ議決シテ、行政ノ作用ヲ監督シ、國務大臣ノ法律豫算ノ不裁可ヲ奏請シテ、帝國議會ノ行動ヲ

阻止スルカ如キ、國務大臣ハ帝國議會ニ出席シテ其ノ政策ヲ主張シ陳辯スルコトヲ得ルカ如キ、皆三權ノ相聯繫シ相節制スル所以ノ方法タルニ外ナラス、之ヲ司法權ニ就テ云ヘハ、裁判所ハ獨立ナルモ、司法官ヲ任命スルハ天皇ノ大權ニ屬シ、國務大臣ノ輔弼スル所ナリ、裁判所ハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル法律ノ憲法ニ違反セサルヤ否ヤヲ審査スルノ權能アリ、行政命令ノ法律ニ違反セサルヤ否ヤヲ審査スルノ權能アリ、其ノ他緊急勅令、財政上緊急處分、戒嚴、恩赦、非常大權等ノ諸制度ハ、皆三權ノ相交錯シテ、相交渉シ、互ニ出入スルニ依リテ、三權分立ヲ有效ナラシムルノ作用ヲ有セサルハアラス。

我カ立憲政體ハ、此ノ交互節制ノ、三權分立ノ趣旨ヲ、帝國議會及政府ノ内部ニモ及ホサンコトヲ期シ、帝國議會ヲ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立スルモノトシ、其ノ權能ヲ對等ト爲セリ、又國務大臣ノ外ニ樞密

顧問ヲ置キ、天皇ノ諮詢ニ應ヘ、重要ノ國務ヲ審議スルノ權能ヲ有シテ、國務大臣ニ對立セシム。

司法權ヲ獨立ナラシメ、特ニ裁判所ヲ置キテ之ヲ行ハシムルノ、司法權獨立ノ主義ハ、最モ明白ニ之ヲ我カ立憲政體ニ採用セルコト、諸國憲法ト異ルコトナシ。

(五) 我カ立憲政體ハ憲法ノ法典ヲ制定シテ之ヲ定メラレタリ、固ヨリ憲法ハ人民契約ノ根本條款ナリトスルニ非ス、天皇ノ欽定シタマフ所ナリ、然レトモ之ヲ根本法ト爲シ、普通ノ法令ト區別シ、普通ノ立法手續ヲ以テ之ヲ改廢スルコトヲ得サルモノタルコトヲ定メタリ。

第四章 憲法法典

憲法ノ法典ヲ判定シテ、立憲政體ノ大本ヲ定ムルハ、現代諸國ニ共通ナル所ニシテ、又立憲政體タルノ一特徴ナリトセラル、憲法ハ一國ノ國體政體ノ法ニシテ、之ヲ憲法ノ法典ニ書キ表ハスコトナシト雖モ、亦憲法アリトスヘシ、然ルニ立憲政體ヲ定ムルヲ特ニ憲法ト稱シ、此ノ内容ヲ有スルノ法典ヲ立ツルヲ、特ニ立憲政體ト爲ス所以ハ何クニアルヤ而シテ立憲政體ノ國家ニ於テ、憲法法典ハ、諸般ノ法令ニ對シ、實質上根本法タルノミナラス、形式上根本法タルノ性質ヲ有スルヲ其ノ特色ト爲ス、大日本帝國憲法モ、亦此ノ意義ニ於テ、根本法タリ。

第一節 憲法ノ意義

憲法ハ國家ノ根本法ナリ、國家構成ノ法即チ國體法、及統治權ノ行動ノ組織方法ノ根本原則ヲ定ムルノ法即チ政體法ヨリ成ル、國體法及政體法ノ何タルハ既ニ説キタリ。

此ノ意義ニ於ケル憲法ハ、如何ナル國家ト雖モ之ナキハアラス、國體法ハ國家ノ存立ト共ニ存スルノ法ニシテ、國家アルハ即チ國體法アルナリ、政體法ハ國家ト其ノ生命ヲ同シクスルモノニ非スト雖モ、其ノ時代其ノ國家ニ於テ、必ス何等カノ統治ノ原則ノ定マルモノアリ、其ノ内容ハ如何ナラントモ、之ヲ皆政體法ナリト爲スヘク、凡ソ憲法ナキ國家ナルモノハ存在セスト云フヘシ、然ルニ現代ニ於テハ、一七八九年ノムらんす人權宣言カ、憲法トハ自由ノ保障ト權力ノ分立トヲ定ムルモノニシテ、之ヲ定メスンハ憲法アルノ國家ニ非スト云ヒシヨリ、此ノ如キ内容ヲ有スル憲法ヲ定ムルヲ、特ニ立憲政體ト稱シ、憲法ト云フトキハ、

一般ニ現代ノ所謂ル立憲政體ヲ定ムルノ憲法ノミヲ指スニ至レリ、而シテ立憲政體タルノ一特徴ハ、憲法ノ法典ヲ有スルコトナリトセラレ、諸國ハ立憲政體ヲ採用スルト共ニ憲法法典ヲ制定シ、現代ニ於テ、憲法ト云フトキハ、立憲政體ヲ定ムルノ憲法法典ヲ指稱スルコト、一般ノ用法トナレリ、本來憲法ト云フハ、國體及政體ノ法ニシテ、カハル特殊ノ憲法ノミヲ指スニ非スト雖モ、憲法ノ名稱ハ立憲政體ト共ニ起リシモノニシテ、歷史上ノ特殊ノ意義ヲ有ス、其ノ理論上ノ意義ト區別セラレサルヘカラサルナリ。

ふらんす人權宣言カ、自由ノ保障ト權力ノ分立ヲ定ムルモノニ限リテ、憲法ナリト云ヒシハ、主トシテ社會契約ノ思想ニ本ツクモノナリ、人ハ天賦ニ自由且ツ平等ナリ、此ノ先天絶對ノ權利ハ、奪フヘカラス制限スヘカラサルノ、生レナカラニ存スルノ權利ニシテ、國家ハ此ノ天賦ノ

自由權利ヲ保障スルカ爲メニ、各人契約シテ創設シタル所ナリ、此ノ國家ヲ創設スルノ社會契約ハ、國家ノ根本法ヲ成スモノニシテ、即チ憲法タリ、故ニ憲法ハ理論上、如何ナル國ニ於テモ、人ノ天賦ノ自由權利ヲ保障シ、其ノ目的ノ爲メニ權力分立ノ組織ヲ定ムルモノナラサルヘカラス、從テ之ヲ成文ノ法典ニ書キ列ネ、以テ何人ト雖モ之ヲ侵ササルノ保障ヲ嚴格確實ナラシムヘシト爲セリ、憲法ハ國體法及政體法ニシテ、此ノ思想ニ依ラサルモ根本法タル性質ヲ有スルモ、現代ニ於テ、憲法ヲ根本法ナリトスルハ、專ラ社會契約ノ思想ニ淵源スルコトヲ知ラサルヘカラス、近世成文憲法ノ濫觴ナリト稱セラルル、一六四七年いざりすニ於ケルくろひうえるノ革命ニ方リ立案セラレタル有名ナル憲法ハ、之ヲ「人民契約」ト稱セリ、北あめりか大陸に移住シタルいざりす人ハ、各人ノ根本關係ヲ定ムル契約ヲ作成シ、之ヲ團體組織ノ根本法ナリトシ、い

ざりす國王ノ特許ヲ受ケタリ、其ノ内容ハ、人民權利ノ宣言ト政府ノ組織トヲ定メタルモノナリ、後ニ北あめりか合衆國ノ獨立ト共ニ制定セラレタル憲法モ、亦同一ノ意義ヲ有シ、人民自ラ定ムルノ自由ナル約束タル性質ヲ有スルモノナリトセラレタリ、ふらんす人權宣言ハ、社會契約ノ學說ヲ其ノ儘ニ採用シタルモノニシテ、あめりか憲法ト主義ヲ同シクシ、根本契約タルノ意ニ於テ、自由ヲ保障シ、權力ヲ分立スルヲ憲法ナリト爲セルナリ、一七九一年ノふらんす最初ノ憲法ハ、此ノ主義ニ本ツキテ制定セラレ、範ヲ諸國ニ垂レタレリ。

憲法法典ヲ有スル國家ニ在リテハ、形式的意義ニ於ケル憲法ト、實質的意義ニ於ケル憲法トヲ區別スヘシ、形式的意義ニ於ケル憲法トハ、憲法法典ナリ、然レトモ形式的憲法ハ、前ニ説クカ如ク廣ク實質的ニ國體法及政體法ト云フト同一ニ非サルノミナラス、立憲政體ヲ行フノ國家

ニ在リテモ、實質的ナル憲法ノ規定ハ必ズシモ悉ク憲法法典ニ網羅シ盡クスモノニ非サルノミナラス、憲法法典中ニ、實質的ニハ憲法の規定ナリト見ルヘカラサル數多ノ事項ニ關スル規定ヲ包含スルモノアリ。形式的憲法ト實質的憲法トヲ區別スルノ必要ハ、特ニ立憲政體ヲ行ヒツ、憲法法典ヲ有セサルいざりすノ如キニ於テ著シ、いざりすハ有名ナル不文憲法ノ國家ニシテ、憲法法典ノ纏マレルモノヲ有セス、實質上憲法ノ内容ヲ成ス規定ハ、専ラ慣行トシテ實行セラル、又數多ノ事項ニ就テハ、之ヲ文書ニ書キ示セルモノ少カラスト雖モ、特ニ之ヲ一般法令ト區別セサルナリ、然レトモいざりすニ憲法無シト爲スヘカラス、憲法無キニ非ス形式的憲法無キノミ。

第二節 憲法法典

立憲政體ノ諸國ニ於テ制定セラレタル憲法法典ハ、國家ノ根本法、即チ實質上ノ憲法ヲ其ノ内容トスルノミナラス、形式上根本法タル性質ヲ附與セラル、形式上根本法ナリトハ、其ノ形式的效力ニ於テ、一般法令ト殊別セラレ、一般法令ヲ以テ之ヲ動カスコトヲ得サルヲ云フ。

憲法ノ法典ヲ制定シ、之ヲ形式上根本法ナリトスルハ、主トシテ社會契約ノ思想ニ本ツクモノナリ、社會契約說ハ國家ハ人民ノ約束ニ依リテ創設セラレタルモノニシテ、國家創設ノ根本契約ハ、國家ノ存立ト始終シテ、動カスヘカラス、之ヲ成文ニ書キ表ハシタルモノ、即チ根本法タル憲法ニシテ、普通ノ法律ノ如ク立法ノ方法ニ依リテ變更スヘカラサルモノナリトスルナリ、憲法ヲ國家構成ノ根本法トシ、一般法令ト區別スルノ思想ハ、ありすとてれすノ有名ナル、憲法ト憲法ニ本ツキテ發セラルル法律トヲ區別スルノ說以來、普ク行ハレタル所ナリト雖モ、憲法

法典ヲ以テ形式上根本法ナリトスルハ、社會契約ノ思想ニ胚胎シ、ふらんす革命時代ノ憲法ニ採用セラレ、立憲政體ト共ニ、諸國ニ行ハルルニ至リシ所ナリ。

ふらんす革命ノ當初、人權宣言ニ本ツキ、第一次ノ憲法ヲ制定スルカ爲ニ、召集セラレタル國民會議ニ於テ、社會契約說ヲ實現スルカ爲ニ、幾多ノ困難ニ遭遇シ、種々ノ新說ヲ考案シタルハ、人ノ知ル所ノ如シ、憲法ヲ根本法トスルカ爲メニ、憲法ヲ制定スルノ權力ト憲法上ノ權力トヲ區別スルノ、しえいす之ヲ主唱シテ、革命ノ憲法論トナリシモノノ如キハ、其ノ最モ著シキモノナリ、若シ社會契約說ヲ徹底スレハ、如何ナル法律ト雖モ、皆人民全體ノ約束ナルカ故ニ、再ヒ人民全體ノ合意ナケレハ、之ヲ改廢スルコトヲ得スト爲ササルヘカラス、然レトモ此ノ如キハ全然不可能ナルカ故ニ、根本契約タル憲法ノミハ、人民全體ノ合意ヲ以テ

之ヲ制定シ變更スルモノト爲シ、一般ノ法律ヲ制定スルハ、國家創設ノ根本契約ノ基礎ノ上ニ、立法權ニ委任セラレタルモノナリトシ、立法權ハ憲法ニ依テ作ラレタル權力トシテ、憲法制定權ト區別スヘク、此ノ權力ニ依リテ、憲法其ノ者ヲ動かスコトヲ得スト爲セリ、之レ國民會議ノ採用シタル憲法論ニシテ、普通ノ立法權ニ就テハ、主權者タル人民カ、直接ニ之ヲ行使スルノ純理ヲ捨テタルモ、憲法ノ制定ニ就テハ、少クトモ民主ノ本義ニ忠實ナランコトヲ期シタルナリ、故ニ北あめりか合衆國ノ諸州ノ憲法、すゐす聯邦ノ憲法、及すゐす聯邦ノ諸州ノ憲法ノ如キ、出來ルタケ民主ノ本義ヲ貫カンコトヲ主義トシタル憲法ハ、皆憲法ノ改正ヲ以テ、結局ニ於テハ人民全體ノ投票ニ依ルヘキモノトスルノ原則ヲ執レリ、然レトモ人民全體ノ投票ハ大國ニ於テ之ヲ行フコト容易ニ非ス、若シ憲法制定權ヲ以テ、普通ノ立法權ト區別スルノ理論ヲ固執セ

ソトスレハ、他ニ適當ノ方法ヲ案出セサルヘカラス、北あめりか合衆國ノ憲法ハ、國會ノ兩院ニ於ケル三分ノ二以上ノ多數ト、各州國會ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ以テスルカ、又ハ特ニ憲法ノ改正ノ爲メニ召集セラレタル協定會議^{コンベンション}ノ議決ニ依リテ、憲法ヲ改正スルモノト爲セリ、此ノ協定會議ノ制度ハ北あめりか合衆國ノ諸州ニモ行ハル、一七九一年ノふらんす憲法モ亦此ノ制度ヲ採レリ、協定會議ノ主義ハ民主ノ本義ヲ離ルルコト云フヲ俟タス、故ニ一七九三年ノ憲法以下、革命時代ノ憲法ハ、再ヒ憲法ノ改正ハ人民全體ノ投票、ふれびしどニ依リテ行ハルヘキモノト爲セリ、依テ以テ根本契約ノ主義ヲ貫カントス。

現今立憲政體ノ諸國ニ於テハ、概ネ皆憲法法典ヲ制定シ、之ヲ形式上根本法トシテ、一般法令ト區別シ、之カ改正ノ爲メニ特別ノ手續ヲ必要トス、(一)上記人民全體ノ投票ヲ必要トスル北あめりか合衆國ノ諸州、す

わす聯邦及其ノ諸州ノ如キ、(二)憲法變更ノ爲メニ特別ノ國民代表會議タル協定會議ヲ召集スルモノ、北あめりか合衆國及其ノ諸州、南米諸國ノ如キハ、根本契約及憲法制定權ノ思想ヲ傳フルモノナリ、ふらんす現行憲法ハ、憲法ノ改正ハ兩院合同ノ國民會議ニ於テ之ヲ議決スルモノトス、マタ協定會議制ノ一變態ト爲スヘシ、べるぎ、ちらんだ、でんまると、すゑでん、のるうゑい等ノ諸國ニ在リテ、憲法ヲ改正セントスルトキハ、一タヒ國會ヲ解散シ、新ニ召集セラレタル國會ニ於テ、之ヲ議決スルモノトスルモ、亦憲法制定權ノ思想ニ本ツクモノナリ、(三)然レトモ多數ノ國ニ於テハ、必スシモ根本契約及憲法制定權ノ思想ニ依ラス、國會ニ於テ之ヲ議決スルコト、普通立法ノ場合ニ於ケルト異ルコトナキモノトシ、唯タ其ノ手續方法ニ於テ、之ヲ鄭重ナラシメ、以テ憲法法典ヲ形式上根本法タラシム、其ノ手續方法ハ、或ハ出席定足數ヲ普通立法ノ場合

ヨリモ増加スルモノアリ、或ハ議決ハ過半数ヲ以テ足ラスト爲スモノアリ、或ハ一定ノ期日ヲ隔テ、再度ノ議決アルコトヲ必要トスルモノアリ。

憲法法典ト稱スルモ、特ニ其ノ改正ニ就テ、特別ノ手續方法ヲ必要トセサル一八一四年ノムらんす王政復古ノ憲法、又ハ現今ノいたりあ及いすばにあ憲法ノ如キハ、形式上根本法タルノ意義ニ於テ憲法ヲ有セサルモノト爲スヘシ。

然レトモ、西洋諸國ニ於テ、憲法ヲ一般法律ト區別シ、憲法法典ハ普通立法ノ手續ヲ以テ改正スヘカラサルモノト爲セリト雖モ、實際上此ノ主義ハ甚タ貫徹セラレサルナリ、其ノ内容ニ於テ、憲法ノ規定ニ違反シタル法律ノ制定セラルルトキハ、裁判所ハ之ヲ適法ナル法律トシテ、適用スヘキモノトスルヲ、一般ノ實行トシ、學說モ亦之ヲ認ム、從テ憲法ハ

特別ノ手續ヲ以テセサレハ改正スルコトヲ得スト明文上定メアルモ、實際ニ於テハ、憲法ニ異レル法律ハ其ノ儘行ハレ、憲法ハ變更セラレタルノ結果ヲ見ルナリ、學者之ヲ説キテ、憲法ハ直接改正セラレサルモ、間接ニ變化スルコトアリト爲ス、蓋シ立法權最高ノ主義ヲ偏重スルニ出テタルモノニシテ、此ノ如クンハ、憲法ヲ以テ形式的根本法ト爲シ、一般法律ト區別スル所以ハ、悉ク無意義ニ歸スト爲ササルヘカラス、北あめりか合衆國ニ於ケルカ如ク、憲法違反ノ法律ハ、裁判所之ヲ適用スヘカラサルモノナリト爲スニ非スンハ、憲法改正ノ特別ナル手續ヲ定メ、憲法ヲ根本法ト爲セルヲ維持スヘカラス。

立憲政體ト憲法法典トハ相伴フヲ當トスルモ、憲法法典無キヲ以テ、立憲政體ニ非スト爲スヘカラサルハ云フマテモナシ、いざりすハ不文憲法ノ國トシテ有名ナリ、いざりすニ於テモ、まくな、かるたヲ初メトシ、

幾多ノ憲法ノ原素タル文書存スルモ、之ヲ編メタル一個ノ憲法法典ナ
キノミナラス、其ノ大部分ハ、一ニ實際ニ行フノ先例ニ依リテ定マレル
ノ慣習法タリ、其ノ文書ヲ成セルモノモ、特別ナル改正ノ手續ヲ要スル
モノニ非ス、要スルニ形式的根本法タル憲法ヲ有セサルナリ。

いざりすノ如ク憲法法典無キカ、又ハ之アルモ、いたりあノ如ク之ヲ
一般法律ト區別セサル國家ニ於ケルト、根本法トシテ容易ニ變更セサ
ル憲法法典ヲ有スル國家ニ於ケルト、憲法ノ實際的作用ハ著シク異ル
ハ當然ナリ、學者此ノ點ニ着眼シテ、固定憲法ト流動憲法トニ分テリ、固
定憲法ノ長所ハ政體ノ基礎明確ニシテ動搖スルコトナク、永續安定ス
ルニ在リ、流動憲法ハ時勢ノ進歩ニ應シ、實際ノ必要ニ調和スルヲ以テ
其ノ妙用ト爲ス、然レトモ固定憲法ハ却テ一時ノ變動ノ爲メニ、全部破
壞スルコトアリ、流動憲法ノ能ク變化ニ堪エテ永續スルコトアルハ、經

驗ノ教ヘタル所ナリ、變化ヲ好ムふらんす人ハ、革命當初ヨリ固定憲法
ヲ作リテ、百年間ニ十二ノ憲法ヲ有シ、保守的ナルいざりす人ハ、時ト共
ニ變化スル流動憲法ノ下ニ、一貫セル主義ノ下ニ憲法ヲ發達セシメタ
リトハ、いざりす人ノ誇ル所ナリ、然レトモ此ノ如キハ國々ノ事情ニ由
ルコト大ニシテ、ヒトリ之ヲ憲法ノ固定ナルト流動ナルトニ歸スヘカ
ラサルニ似タリ、固定憲法ノ下ニ於ケル、一ノ著シキ弊害ハ、其ノ改正ノ
容易ナラサルカ爲メニ、政局ニ當ル者善意又ハ惡意ニ憲法ニ違反シ、又
ハ解釋ノ名ニ於テ、憲法ヲ曲クルコト屢々行ハルルヲ見ルコトナリ、爲
ニ或ハ憲法ハ固定ナルモ、自然ニ變化ストノ便宜說ヲモ生スルニ至ラ
ントス、此ノ如クナルニ至レハ、固定憲法ト流動憲法トノ相異ハ殆ント
之ナク、一國ニ於テ特ニ憲法法典ヲ制定スルノ意義モ亦空シカラント
ス。

第五章 大日本帝國憲法

大日本帝國憲法ハ、明治二十二年二月十一日ヲ以テ發布セラレ、形式上一般法令ト區別セラルルノ根本法タリ、此ノ憲法ハ我カ國體ヲ宣明シ、之ニ依リテ統治スルノ、立憲政體ノ條規ヲ定ム、同日皇室典範ヲ裁定セラル、憲法ト相並ンテ、國家ノ根本法タリ。

第一節 大日本帝國憲法

明治二十二年二月十一日ヲ以テ發布セラレタル大日本帝國憲法ハ、帝國ノ國體法ヲ明徴ニシ、新ニ政體法ヲ定メタル、實質上國家ノ根本法ニシテ、形式上一般法令ト區別セラルルノ根本法タリ。

大日本帝國憲法ハ天皇ノ欽定シタマヘル所ナリ、統治權ノ行使ノ方

法組織ノ原則ヲ定メ、天皇其ノ條規ニ依リテ統治權ヲ行使スルモノトスルハ、天皇獨リ自ラ之ヲ定ムヘク、他ニ之ヲ制定スルノ意志アルコトヲ得サルハ我カ國體ノ當然ナリ、人民ヲ以テ主權者ナリトスル民主共和ノ國家ニ在リテハ、人民之ヲ制定スルノ民定憲法アリ、假令國王アルモ、國王ハ固ヨリ自己ノ意志ヲ以テ憲法ヲ制定スルノ主權ヲ有スルモノニ非サルカ故ニ、人民國王ヲ強イテ憲法ヲ承認セシメ、又ハ國王ノ意志ヲ加ヘテ之ニ同意セシメタルノ、所謂ル協約憲法アリ、又特ニ之ヲ欽定ト稱スルモ、必スシモ國王ヲ以テ主權者ナリトスルニ非サルモノト明ニ之ヲ區別セサルヘカラス。

大日本帝國憲法ハ形式上根本法トシテ、一般法令ニ對シ、優レタル效力ヲ有シ、一般法令ヲ以テ之ヲ動かスコトヲ得サルモノト定メラル、即チ之ヲ不磨ノ大典ト爲シ、憲法ニ定メタル特別ノ手續ニ從ルノ外、之ヲ

變更スルコトヲ得サルモノトス、其ノ手續左ノ如シ(憲法第七十三條)。

(一) 憲法ノ改正ヲ發案スルハ勅命ニ依ル、一般ノ立法ニ於ケルカ如ク、帝國議會ノ各院之ヲ發案スルコトヲ得サルモノトス。

(二) 憲法ノ改正案ハ之ヲ帝國議會ノ議ニ付ス、議會ハ自ラ之ヲ發案スルコトヲ得サルカ故ニ、憲法改正案ニ對シ、如何ナル修正ヲモ加ヘテ之ヲ議決スルコトヲ得ス、全體トシテ可否ヲ決スルノミ、何トナレハ修正ハ新ナル發案ヲ包含スレハナリ、而シテ議會ニ於テ之ヲ議決スルニハ、左ノ要件ニ依ラサルヘカラス。

(イ) 兩院ニ於テ各々其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ、憲法改正案ニ關スル議事ヲ開クコトヲ得ス、此ノ定足數ニ達セザレハ、議決ヲ爲スコトヲ得サルニ止ラス、凡テ改正ノ議事ヲ開クコトヲ得サルナリ。

(ロ) 兩院ニ於テ、憲法改正案ヲ可決スルニハ、各々出席議員ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルコトヲ要ス。

(三) 憲法改正ハ、天皇之ヲ裁可スルニ依リテ成立ス。

憲法ハ攝政ヲ置クノ間ハ、之ヲ變更スルコトヲ得サルモノトス。

大日本帝國憲法ハ、形式上根本法タル性質ヲ有シ、法律ト區別セラル、憲法ノ改正モ亦帝國議會ノ議ニ付スト雖モ、法律ニ對スル協賛ト異レリ、憲法ノ改正ハ、天皇之ヲ裁可シ、公布セラルルモ、法律ニ非ス、諸國ニ於テ、等シク人民ヲ代表スル國會ノ議決スル所ナルカ故ニ、法律ノ一種ナリトスルハ、我カ憲法ノ性質ニ非ス、從テ法律ヲ以テ憲法ヲ變更スルコトヲ得ス、憲法ニ違反セル法律ハ、裁判所ニ於テ適用スヘカラサルモノニシテ、憲法ハ憲法所定ノ憲法改正ノ手續ニ依ルノ外變更セラルルコトヲ得ルモノニ非ス、違憲ノ法律ニ依リテ、自然ニ變化スルモノニ非サ

ルナリ。

大日本帝國憲法ハ、形式上根本法タル性質ヲ有シ、實質上憲法ニ屬スル法規ハ、概ネ之ヲ包括セリト雖モ、國體法ハ憲法法典ヲ以テ之ヲ新定スルニ非サルハ言フ俟タス、我カ國體ハ建國ト共ニ定マリ、天壤無窮ナリ、大日本帝國憲法ハ、新ニ立憲政體ニ則ルノ憲法ヲ定メ、成文ノ憲法ヲ制シテ之ヲ公布スルト共ニ、千古不變ノ國體法ヲ文字ヲ以テ宣明シタルノミ、而シテ我カ國體法及政體法ハ固ヨリ此ノ憲法法典ノ規定ノミヲ以テ盡クルモノニ非ス、我カ憲法ノ淵源ハ之ヲ憲法法典ノ外、諸他一般ノ法律命令、憲法施行以前ノ法令及慣習法ニ之ヲ求メサルヘカラサルナリ、殊ニ皇室典範カ、國法トシテ、憲法ト對立シ、共ニ根本法タル性質ヲ有スルハ、我カ法制ノ根本主義ニ屬スル一大特色ナリトス。

第二節 皇室典範

皇室典範ハ、明治二十二年二月十一日、憲法ノ發布ト共ニ裁定セラレタル、國家ノ根本法ナリ、皇位繼承、踐祚即位攝政ノ事、其ノ他天皇皇族ニ關スル事項ヲ規定ス、明治四十年二月十一日、皇室典範増補公布セラレタリ。

皇室典範ノ内容ハ、皇位繼承ノ事、攝政ノ事ヲ初トシ、國家成立ノ根本ニ關スル法規ヲ包含シ、國體法ノ重要ナル一部ヲ成スモノタルハ云フヲ俟タス、決シテ、皇室自ラ其ノ家法ヲ條定スル者ニ非ス、歐羅巴諸國ニ在リテハ、本來國家ハ國王ノ私領ニシテ、中世ニ在リテハ、國政ハ皆國王ノ私事トシテ行ハレタリ、從テ王位相續ノ規定ノ如キハ、固ヨリ王室一家ノ私法タル性質ヲ有セルハ當然ナリトス、然ルニ現代國家成立シ、立

憲政體ノ行ハルルニ至ルト共ニ、國家ハ國民國家トナリ、國家ハ一ノ法人ニシテ、國王ハ其ノ機關トシテ、公法上ノ權限ヲ有スルモノトセラレ、之ヲ國王ノ私事ト區別スヘシトスルニ至リ、王位繼承、攝政ニ關スル規定ノ如キハ、國家ノ機關ノ構成組織ヲ定ムルモノナルカ故ニ、最早ヤ王室ノ内規ニ非ス、國法ノ一部ヲ成スモノナリトセララルルニ至レルナリ、我カ國ニ在リテハ全然之ト其ノ本質沿革ヲ異ニシ、皇位ト國家ハ一ニシテ分レス、皇位繼承ノ事ノ如キハ、初メヨリ最モ重要ナル國家ノ根本法トセラレタリ、皇室ナル一家ノ存在セサルハ我カ國體ノ本質ニ屬シ、皇室ノ私事ナルモノナク、天皇ニ私ノ地位行爲ナルモノ、存スルナキハ、我カ國體ト離レサル固有ノ制度ナリ、故ニ憲法ト共ニ皇室典範ヲ裁定シ、天皇皇室ニ關スル事項ヲ規定セルモ、故ノ如ク其ノ國家ノ公法タル性質ヲ失ハサルナリ、故ニ皇室典範ハ之ヲ公布スルコトナカリシモ、

後明治四十年皇室典範増補ノ制定セララルヤ、之ヲ公布シ、臣民ニ對シテモ率由ノ効力アル國法ナルコトヲ明ニセリ、要スルニ皇室典範ハ、大日本帝國憲法ト相並ンテ、我カ國家ノ實質的憲法ノ淵源タルモノナリ。然レトモ皇室典範ハ形式上憲法法典ニ附屬シ、其ノ一部ヲ構成スルモノニ非ス、歐羅巴諸國ニ在リテ、王位繼承ニ關スル規定ヲ憲法ノ實質的一部分ナリトスルニ至レルト共ニ、或ハ之ヲ憲法ノ條項中ニ移シ、又ハ形式上憲法ノ一部ナリト定メ、又ハ憲法以下ノ効力ヲ有シ、何時ニテモ憲法ヲ以テ改ムルコトヲ得ルモノナリト爲セリ、我カ國ニ於テ、此ノ主義ニ從ハサリシハ、我カ國體ノ根本ニ本ツクモノニシテ、我カ法制ノ一特色ナリトス、大日本帝國憲法ト共ニ、皇室典範ヲ制定スルヤ、之ヲ以テ形式上憲法ト相對立スルノ根本法ト爲セリ、皇室典範ハ皇室ナル一家ノ内規ニ非ス、所謂ル自主權ノ規定ニシテ、君民相關ルノ權義ニ涉ルモ

ノニ非ス。ト爲スヘカラスルモ、形式上憲法ト分離シ、之ヲ變更スルハ、皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ、之ヲ勅定スルノ、特別ノ手續ニ依ルモノトシ(皇室典範第六十二條)、帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス(憲法第七十四條)、憲法ヲ以テ皇室典範ヲ變更スルコトヲ得ス、皇室典範ヲ以テ憲法ヲ變更スルコトヲ得サルモノト爲セリ(憲法第七十四條第二項)。

憲法ト皇室典範ト、相並シテ根本法タリ、國家ノ法令ハ其ノ下ニ二大系統ヲ成スハ、我カ法制ノ一大特色ナリトス、憲法皇室典範ノ制定ト共ニ、憲法ノ規定スル所ノ國務ヨリ、皇室典範系統ノ事務ヲ區別セルナリ、皇室典範ニ規定スルノ事務ト雖モ、等シク國務タリ、然レトモ之ヲ區別シテ、憲法及憲法以下ノ法律勅令ヲ以テ、之ヲ動かスコトヲ得サルモノトスルノ主義ヲ執リ、皇室典範ヲ以テ憲法ト對等ナルノ根本法ト爲シ、憲法ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得サルモノトシ、從テ法令ノ系統ヲ

然二分シ、憲法ニ規定スル法令ハ、全然皇室ノ事務ニ關涉セサルモノト爲シ、皇室典範ニ基ツク諸規則、其ノ他皇室ニ關スル勅定ノ規程ハ、之ヲ別ニ憲法ノ系統外ニ置クモノト爲セリ、公式令ハ之ヲ皇室令ト稱スルモノトセリ、而シテ皇室典範ノ系統ニ屬スル事項ニ就テハ、憲法ノ系統ニ屬スル法律命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得ス、若シ法律命令ノ規定ヲ之ニ適用セントスルトキハ、之ヲ明示スヘク、若シ此ノ種ノ事項ニ付キ、法律命令ノ規定ト皇室典範又ハ皇室令ノ規定ト抵觸スルトキハ、皇室典範又ハ皇室令ノ規定ニ依ルヘキモノトス、然レトモ此ノ二大系統ノ區別ハ、純粹ニ形式上ノ區別ニシテ、事ノ實質ニ付キ、皇室ノ私事ヲ國務ト區別シ、又ハ皇室ノ家長タル地位ヲ統治權者タル地位ト區別スルノ意ニ非サルハ、特ニ之ヲ注意セサルヘカラス。

第三節 大日本憲法ノ施行效力

大日本帝國憲法ハ何時ヨリ施行セラレタルカ、如何ナル人ニ對シテ行ハルルカ、及其ノ施行效力ノ及フ場所ノ範圍如何。

(一) 大日本帝國憲法ハ、明治二十二年二月十一日ヲ以テ發布セラレタリ、其ノ前文ニ、帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ、議會開會ノ時ヲ以テ、此ノ憲法ヲシテ、有效ナラシムルノ期トスヘシトノタマヒ、明治二十三年第一回帝國議會開會ノ時、即チ同年十一月二十九日ヨリ實施セラレタリ。

憲法第七十六條ハ、法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ハラス、此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ效力ヲ有スト、規定セリ、憲法ノ施行セララルト共ニ、法令ハ一定ノ形式ヲ以テ制定公布

セララルコト、ナレリ、憲法實施以前ノ國法ハ、區々ニシテ、固ヨリ此ノ形式ニ合セサルモ、其ノ規定ノ内容カ憲法ノ規定ニ矛盾セサルトキハ、之ヲ當然消滅シタルモノト爲サス、其ノ儘國法タルノ效力アルモノト爲セルナリ、憲法ノ發布以後、其ノ施行時期以前ニ發セラレタル法令モ亦同シ。

(二) 大日本帝國憲法ハ、統治權ヲ行使スルノ條規ニシテ、統治權ヲ行使スルノ天皇及天皇ノ官府ノ行爲ヲ規律ス、而シテ日本臣民ノ行爲ノ規律タル一切ノ國法ノ根本法タリ。

憲法ハ國家ノ根本法ナリ、統治權ハ凡テ憲法ヲ基礎トシテ行ハル、故ニ憲法ハ苟クモ統治權ノ支配ヲ受クル一切ノ人ニ對シテ效力ヲ有ス、故ニ外國ニ在ル日本臣民、及帝國領土内ニ於ケル外國人ニ對シテモ施行セララルルヲ當然ノ原則ト爲ス、然レトモ憲法ノ規定ヲ以テ、之カ例外

ヲ設ケ、又ハ事ノ性質上、其ノ他ノ理由ニ依リ、憲法ノ一定ノ條項ヲ、例外トシテ施行セサルモノト解スヘキ場合ヲ認ムルコトヲ得ルハ云フヲ俟タス。

(三) 凡ソ統治權ノ行ハルル場所ハ、憲法ノ行ハルル場所ナルコトモ亦當然ノ原則ナリ、ヒトリ帝國ノ領土ノミナラス、租借地、委任統治區域ニ在リテモ、亦統治權ノ行使ハ、憲法ヲ基礎トシテ行ハルヘク、凡ソ憲法ヲ基礎トセサルノ法令アルコトヲ認ムヘカラサルナリ、明治三十八年臺灣ヲ我カ領土トシ、同三十八年南部樺太ヲ獲得シ、又ハ同四十三年朝鮮ヲ合併シタルカ如キ場合ニ在リテ、憲法ハ、統治權ト共ニ、新領土ニ施行セラルルヲ原則トスルモノト爲ササルヘカラス、租借地タル關東州、委任統治區域タル南洋諸島ヲ獲得セル場合ニ就テモ亦同シ、苟クモ我カ統治權ノ行ハルルノ區域タル以上ハ、憲法モ亦當然行ハルルト爲

スヘシ。

然レトモ、憲法自ラ憲法ノ施行區域ヲ限リテ、領土ノ一定ノ部分ニ之ヲ行ハサルコトヲ定ムルコトヲ得ルハ云フヲ俟タス、憲法ノ一部ニ就テ、之ヲ一定ノ區域ニ行ハサルコトヲ定ムルモ亦妨ケナシ、憲法ノ明文ヲ以テ之ヲ定メサルモ、事ノ性質上、又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ、憲法ノ一定ノ條項カ、領土ノ一定ノ部分ニ行ハレサルモノト解スヘキ場合モ亦之アルコトヲ得ヘシ、之レ憲法ヲ行ハサルニ非ス、憲法ハ當然統治權施行ノ全範圍ニ行ハルルコトヲ原則トスルカ故ニ、此レ等ノ例外ヲ認ムヘシトスルナリ、故ニ我カ國ニ在リテ、臺灣朝鮮樺太ハ其ノ文化ノ程度ニ於テ、從來ノ帝國領土ト著シク異リ、且ツ日本國家トノ關係尙ホ未タ密接ナラサルモノアリ、殊ニ關東州及南洋諸島ハ、我カ領土ヲ構成スルモノニ非ス、從テ此レ等ノ區域ニ於テハ、憲法ハ全部行ハルルモノト爲

サス、必要ナル例外ヲ設ケタリ、例ヘハ此レ等ノ地方ニ於テ、兵役義務ヲ課セス、衆議院議員ノ選舉ヲ行ハサルカ如シ、然レトモ之レ憲法ト新領土トノ性質上當然憲法カ行ハレサルニ非ス、憲法ハ當然新領土ニ行ハルルノ原則ノ例外タルノミ、故ニ臺灣及朝鮮ニ於テ、行政命令ニ依リテ憲法上法律ヲ要スルノ事項ヲ規定スルコトヲ得ルカ如キハ、特ニ法律ヲ以テ之ヲ規定セリ。

第六章 臣民權利義務

天賦人權ノ意義ニ於テ、又ハ國王ノ專制ニ對抗スルノ趣旨ヲ以テ主張セラレタル、人民ノ自由權ヲ保障スルハ、立憲政體本來ノ主義トシタル所ニシテ、憲法ハ三權分立ノ統治組織ト相並ンテ、自由權ヲ列擧スルヲ、其ノ二大綱領ト爲セリ、大日本帝國憲法第二章臣民權利義務ト題シテ規定スル所モ、亦主トシテ自由權ノ規定ナリ。

臣民ハ本來統治權ニ對シテ權利ヲ有スル者ニ非ス、義務モ亦一般的ナル服從ノ義務ニシテ、特ニ種類ト程度トヲ限定スルノ義務ヲ負フモノニ非ス、臣民ノ特定ノ權利ト義務トハ、統治權カ之ヲ定ムルニ依リテ成立スルモノタリ、自由權モ亦同シ。

臣民ハ服從ノ身分ヲ負フト共ニ、天皇統治ノ行動ヲ翼賛スルノ性格

ヲ賦有ス、憲法ハ或ハ之ヲ臣民ノ義務トシ、或ハ之ヲ臣民ノ權利トシテ、翼賛ヲ實行スルノ方法ヲ與ヘタリ、翼賛ノ道タル道德的ナリ、且ツ無限ナリ、固ヨリ之ヲ以テ盡クルモノニ非スト雖モ、憲法ハ之ヲ定メテ、其ノ有效ナランコトヲ期ス。

第一節 臣民ノ義務

臣民ハ統治權ニ對シテ一般的ナル服從ノ義務ヲ負フ、絶對的無條件ニシテ、無制限ナリ、又其ノ一身ニ追隨シテ離ルルコトナシ、之ヲ臣民タルノ本質ト爲ス、臣民ノ義務ハ服從ノ義務ヲ舉クレハ、以テ一切ヲ盡クスヘシ、如何ナル義務モ之ニ包含セラレ、又特定ノ義務ヲ列舉スルコトヲ要セサルナリ、臣民ハ固ヨリ忠誠ノ義務ヲ有ス、國家ニ對シ、天皇ニ對シ、其ノ存在ヲ危クシ、主權ノ實行ヲ妨クヘキ有害ナル行爲ヲ避ケサルヘカラス、然レトモ、其ノ法律上ノ效果ハ、要スルニ服從ニ外ナラス、臣民

ハ法令ノ定ムル所ニ依リ、特定ノ事項ニ付キ、特定ノ場合ニ、統治權ニ對シ、一定ノ行爲不行爲ノ義務ヲ負フ、然レトモ、之ヲ數ヘテ列舉スルモ、服從義務ノ内容ヲ盡クスコトヲ得ス、服從義務ノ種類範圍程度ハ無制限ナリ、而シテ臣民ノ諸種ノ義務ハ、法令ノ規定ヲ待テ、初メテ發生スルニ非ス、臣民ノ本來有スル所ノ義務ニシテ、統治權ハ如何ナル種類ノ義務モ、如何ナル程度マテモ、之ヲ命スルコトヲ得ルモ、唯タ法令ヲ以テ特定ノ場合ニ付キ、其ノ態様ヲ定ムルノミ、既ニ存スルノ義務ヲ具體的ニ命令スルモノタリ、帝國憲法ハ、日本臣民ハ兵役ノ義務ヲ有ス、又納税ノ義務ヲ有スト、掲記スルモ、第二十條、第二十一條、此ノ憲法ノ規定アリテ、兵役及納税ノ義務新ニ生スルニ非ス、一般服從義務ノ内容トシテ、統治權ハ何時ニテモ之ヲ課スルコトヲ得ルノ義務ナリ、憲法ノ趣意ハ、新ニ義務ヲ規定シ、又ハ此ノ義務ノ存スルコトヲ明ニセントスルニ非スシテ、

事口此ノ義務ヲ課スルハ、平等ニシテ、且ツ法律ノ定ムル所ニ依ルヘキ
ノ、自由權ヲ定ムルニ存ス。

臣民ノ服從義務ハ種類範圍程度ニ於テ無制限ナルカ如ク、統治權ハ
如何ナル形式ヲ以テスルモ、臣民ニ對シテ、一定ノ行爲不行爲ヲ命スル
コトヲ得、兵役ト納稅トノ二大義務ハ、特ニ法律ヲ以テスルニ非サレハ
之ヲ課スルコトヲ得サルモノト爲セルハ、臣民ノ自由權ヲ保障スルモ
ノニシテ、其ノ他ノ義務ハ、特ニ法令ニ限定スル所ナキ限り、法律ヲ以テ
スルモ、命令ヲ以テスルモ、亦行政處分ニ依ルモ、之ヲ課スルコトヲ得
シ。

第二節 臣民ノ權利

臣民ハ本來統治權ニ對シテ權利ヲ有スルモノニ非ス、唯タ一般的ナ

ル服從ノ義務ヲ負フノミ、國體法上臣民ノ性格トシテ、統治權ニ對シテ、
一定ノ行爲不行爲ヲ要求スルノ意志ノ力ヲ有スルコトナシ。

然レトモ、統治權カ各人ヲシテ其ノ本性ヲ充實發展セシムルノ本來
ノ目的ヲ達スルカ爲メニ、臣民ヲシテ統治權ニ對シ、一定ノ行爲ヲ爲サ
シメ、又ハ一定ノ行爲ヲ避止セシムルノ意志ノ力ヲ有セシムルトキハ、
一層善ク統治ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシト爲ス場合ニハ、臣民ニ一
定ノ公法上ノ權利ヲ附與スルコトアリ、臣民ノ統治權ニ對スル權利ハ、
此ノ場合ニ存スルモノナリ、故ニ臣民ノ權利ハ統治權カ國法ニ依リ、之
ヲ附與認定スル場合ニ存スルモノニシテ、國法ノ附與認定ヲ待タスシ
テ、臣民ノ權利アルコトヲ得ルモノニ非ス、而シテ統治權カ臣民ノ公法
上ノ權利ヲ認ムル理由ハ、或ハ正義道德ニ本ツキ、或ハ利害得失ニ由リ、
又ハ歴史の沿革ニ出ツ。

統治權ノ臣民ノ權利ヲ附與スル、或ハ臣民ヲシテ統治權ニ對シ、一定ノ行爲ヲ要求スルコトヲ得セシムル場合アリ、之ヲ概シテ要求權ト云フ、其ノ最モ著シキハ訴權ナリ、權利トシテ要求權ト區別スヘキハ、統治權ノ一般的行動施設ニ依リ、臣民カ其ノ反射的利益ヲ受クル場合ナリ、又官府ニ對シテ希望ヲ述ベ、不平ヲ訴フルカ如キ、自然ノ行爲ヲ爲スハ、要求權ニ非ス。

臣民ノ權利ノ第二種ハ自由權ニシテ、其ノ第三種ハ參政權ナリ。

第三節 自由權ノ理由及由來

統治權カ國法ヲ以テ、臣民ニ對シテ或ル事ヲ爲ササルコトヲ規定スルトキハ、茲ニ自由權ヲ生ス、自由權トハ臣民ノ側ヨリスレハ、臣民ニ對シテ、統治權カ或ル事ヲ爲ササルノ消極的の内容ヲ有スル權利ナリ、本來

統治權ハ無制限ナル意志ノ力ニシテ、臣民ハ絶對的ナル服從ノ義務ヲ有ス、統治權カ何ヲ命スルモ、之ヲ爲ササルヘカラス、何ヲ禁スルモ、之ヲ爲スヘカラサルナリ、然ルニ國法カ特ニ、臣民ニ對シテ、或ル事ヲ爲ササルコトヲ定ムルトキハ、臣民ハ統治權ヨリ之ヲ命セラレス、之ヲ禁セラレサルノ、一定ノ意志ノ力ヲ有スルニ至ル、之ヲ自由權ト爲ス。

帝國憲法ハ其ノ第二章ニ於テ、多クノ場合ニ、法律ニ依ルニ非サレハ、臣民ニ對シテ一定ノ行爲ヲ命令シ禁止セサルコトヲ規定シ、他ノ場合ニハ、一定ノ條件ニ當ルニ非サレハ、之ヲ命令禁止セサルコトヲ規定セリ、本來日本臣民ハ如何ナル形式ニ依ルモ、如何ナル場合條件タルヲ問ハス、統治權ノ之ヲ命令スル事ハ爲ササルヘカラス、之ヲ禁止スル事ハ爲スヘカラサルノ義務ヲ負フ者タリ、必スシモ法律ノ形式ニ依リ、又ハ一定ノ條件ニ當ルヲ要セサルナリ、然ルニ憲法ハ特ニ之ヲ法律ニ依ル

カ、又ハ一定ノ條件ニ當ルニ非ナレハ、命令禁止セサルコトヲ規定シ、臣民ニ自由權ヲ附與セルナリ。

憲法ノ自由權ヲ附與シタル立法ノ理由ヲ按スルニ、統治權ハ本來無制限ナル命令禁止ノ權力ヲ有スルニ依リテ、人ヲシテ能ク其ノ本性ヲ遂ケシムルノ行動アルコトヲ得ヘク、臣民ニ對シテ、一定ノ行爲ヲ命令シ禁止シ制限スルニ依リテ、國家ノ存在スル所以ノ目的ヲ達成スルヲ期スヘキモ、特種ノ事項ニ就テハ、其ノ事ノ性質上、又ハ歴史の沿革ニ本ツキ、之ヲ一定ノ形式ニ依リ、又ハ一定ノ條件ニ當ル場合ニ限り、命令禁止制限スルコトヲ得ルコトヲ、豫メ國法ヲ以テ規定シ置クニ依リ、却テ一層適切ニ、統治ノ目的ヲ達成シ、各人ノ本性ヲ充實發展セシムルノ結果ヲ得ルコトアルヘキノ考慮ニ本ツキテ、特ニ臣民ノ自由權ヲ認メタルモノナリト爲スヘシ、自由權ノ認メラレタル事項ヲ通觀スレハ、皆人

類ノ進歩、文化ノ發達ノ根本的ナル要件ニシテ、其ノ自由ナル活動ヲ望ムヘキ事項ナルカ、又ハ古來諸國ニ於テ、動モスレハ之ヲ不當不正ニ抑壓シ、國家ノ進運ヲ阻害シタルノ事項タリ。

立憲政體カ自由權ノ規定ヲ以テ其ノ二大綱領ノ一ト爲セルハ、天賦人權ノ思想ニ本ツキ、又國王ノ專制ヲ抑止スルヲ目途トスルニ淵源セリ、凡ソ天賦人權說ノ理論上之ヲ維持スヘカラサルハ、學者既ニ之ヲ論シテ、寧ロ陳套ニ歸セリ、又國王ノ專制ヲ恐ルルハ、現代ニ在リテ最早ヤ其ノ必要ヲ見ス、然レトモ自由權ノ由來スル所此ニ在ルハ、今日ニ在リテモ尙ホ其ノ趣旨ノ存スル所ヲ知ラシムルニ足レリト爲ササルヘカラス、人類ヲシテ其ノ本性ヲ遂ケテ遺憾ナカシメントスルハ、一定ノ基礎的ナル活動ハ、出來ル限リ之ヲ阻害セサルコトヲ期セサルヘカラス、中世ノ專制國王ハ、自己ノ私利私慾ノ爲メニ、之ヲ抑壓シタルカ故ニ、人

類文化ノ進歩發達ハ著シク妨ケラレタリ、之レ天賦人權說ノ起レル所以ナリ、此ノ自然ノ自由ヲ直ニ法上ノ權利ナリトセルハ、法ト權利ノ理論ノ容レサル所ナルモ、國家本來ノ理想ヲ到達セントスルハ、自由ノ保障ナカルヘカラストシ、之ヲ憲法ノ主要部分ト爲ササルヘカラスト爲セルハ、立憲政體ノ重要ナル歴史の意義ヲ示スモノナリト云ハサルヘカラス。

天賦人權ノ思想ニ本ツキテ、一七八九年ふらんす革命ノ當初ニ於テ有名ナル「人及國民ノ權利ノ宣言」發布セラレタリ、人ハ自由且ツ平等ニ生レ且ツ生存スル者ナルコトヲ主義トシ、數多ノ侵スヘカラサル權利ヲ列舉宣言シタルモノナリ、是レヨリ先キ、北あめりか大陸ニ移住植民シタルいざりす人ハ、自然法ノ學說ニ從ヒ、人ノ先天的ニ有スル所ニシテ、奪フヘカラサル自由又ハ權利ヲ宣言シテ、憲法ノ一部ト爲セリ、ふらんす人權宣言ハ、又タ革命ノ理論タル自然法、天賦人權ノ說ニ本ツキ、あめりかノ權利宣言ニ倣ヒタルモノニシテ、其ノ趣旨トスル所、哲理上人類ノ先天的ニ生レナカラ賦有スル所ニシテ、國家ニ於テモ之ヲ奪フヘカラス侵スヘカラサルノ、自然法上ノ權利ヲ宣言スルニ在リシナリ、ふらんす人權宣言ニ先チ、既ニ第十七世紀ニ於テ、いざりすニ於テハ一六二八年ノ權利請願、一六八九ノ權利宣言又ハ條款アリ、國民ノ權利ナルモノヲ宣言セリ、然レトモ、其ノ意義タル全クふらんす人權宣言ト異リ、哲理上人類ノ有スル本來ノ權利ナルモノヲ宣言シタルモノニ非スシテ、國王カ從來不當不正ニ、人民ニ對シテ行ヒ來レル壓制ノ行爲ヲ、將來妄ニ行フヘカラサルコトヲ條定シ、國王ヲシテ之ヲ約束セシメタル文書タルニ止マリ、人ノ先天的ナル主觀的權利ノ宣言ニ非ス、國王ノ權限ヲ定メタル客觀的ノ法規タル性質ヲ有ス、故ニ米佛憲法ノ權利ノ宣言

ふらんす人權宣言ハ、又タ革命ノ理論タル自然法、天賦人權ノ說ニ本ツキ、あめりかノ權利宣言ニ倣ヒタルモノニシテ、其ノ趣旨トスル所、哲理上人類ノ先天的ニ生レナカラ賦有スル所ニシテ、國家ニ於テモ之ヲ奪フヘカラス侵スヘカラサルノ、自然法上ノ權利ヲ宣言スルニ在リシナリ、ふらんす人權宣言ニ先チ、既ニ第十七世紀ニ於テ、いざりすニ於テハ一六二八年ノ權利請願、一六八九ノ權利宣言又ハ條款アリ、國民ノ權利ナルモノヲ宣言セリ、然レトモ、其ノ意義タル全クふらんす人權宣言ト異リ、哲理上人類ノ有スル本來ノ權利ナルモノヲ宣言シタルモノニ非スシテ、國王カ從來不當不正ニ、人民ニ對シテ行ヒ來レル壓制ノ行爲ヲ、將來妄ニ行フヘカラサルコトヲ條定シ、國王ヲシテ之ヲ約束セシメタル文書タルニ止マリ、人ノ先天的ナル主觀的權利ノ宣言ニ非ス、國王ノ權限ヲ定メタル客觀的ノ法規タル性質ヲ有ス、故ニ米佛憲法ノ權利ノ宣言

ハ、主權ト個人トノ本質上動カスヘカラサル限界ヲ定ムルモノニシテ立法者ト雖モ、之ヲ守ラサルヘカラサルモノトス。北あめりか合衆國ニ於テ、今日ニ在リテモ、凡ソ人權ヲ侵害スル法律ハ、裁判所ノ適用スヘカラサル無効ノ法律ナリトセラルル所以ナリ、之ニ反シいざりすニ在リテハ、國王ノ權限ノ規定タル權利宣言ハ、主權ヲ代表シテ、萬能ナル國會ニ對シテハ、何等ノ拘束力アルモノニ非スト爲シ、國會ハ立法ノ方法ヲ以テ何事ヲ定ムルトモ、之ヲ變更スルノ效力アルモノナリト見ラル、等シク權利ノ宣言ト云フモ、其ノ淵源ニ就テ、全然異レルモノアルコトヲ知ラサルヘカラサルナリ、然レトモ西洋諸國ニ在リテ、此ノ二ノ系統ノ思想ノ差異ハ、實際上、一見シタルカ如ク、左程ニ大ナルモノニ非ス、何トナレハ、社會契約說ハ、之ヲ自然法上ノ天賦ノ權利ナリトスルモ、人民自ラ之ヲ承諾スレハ、之ヲ制限スルコトヲ得ルト爲シ、國民ノ總意タル法

律ハ萬能ニシテ何事ヲモ定メ得ルト爲スカ故ニ、いざりすノ國會自ラ之ヲ定ムルニ、何等ノ制限ナシトスルト、結果ニ於テ異ルナク、歴史法學ノ思想ト自然法學ノ思想トハ、結局一致シ、諸國ノ立憲政體カ、立法權最高ノ主義ニ傾クニ至リテ、此ノ二ノ系統ノ權利宣言ハ、混同合一シテ區別セラルルコトナク、國會ノ議決スル所ノ法律ヲ以テスレハ、自由權モ之ヲ制限スルコトヲ得ハク、憲法ノ保障アルモ、結局行政權ニ對スル保障ニシテ、立法權ヲ以テ之ニ違反スルノ法律ハ、有效ノ法律ナリトスルヲ、一般ノ實行トシ、解釋トスルニ至レリ。

自由權ハ、諸國ノ憲法ニ於テ、又之ヲ基本權ト云ヒ、國民權ト云フ、國民ノ基本的ナル權利ニシテ、國民タル身分ト離ルヘカラサルモノタリ、根本契約又ハ根本法ニ於テ認メラレサルヘカラサル、先天絶對ノ權利ナリトスルノ意ニ出ツ。

自由權ノ思想ノ由來スル所ハ、第十八世紀ノ個人主義ニ存ス、故ニ第十九世紀ニ於テ漸次發展セル社會主義ノ思想ハ、自由權ノ思想ヲ一變セシメタルハ當然ナリ、然レトモ人ノ自由ナル本性ノ發展ハ、國家ニ於テ多數ノ人カ相關連續スルト相離レサルハ、如何ナル時代ニ於ケルモ、一貫シテ變ハラサル所ニシテ、一七八九年ノフランス人權宣言ト雖モ、社會ノ爲ニ有害ナル場合ニハ、自然ノ權利モ亦制限スヘシト爲セリ、百年ノ後社會主義ヲ基礎トスルト稱スルどいつ共和國ノ憲法カ、國民ノ基本權ヲ規定スル、甚タ其ノ趣ヲ異ニスルハ云フヲ俟タス、例ヘハ百年前ニ神聖不可侵ナリト宣言セラレタル所有權ニ對シ、公共ノ最善ノ爲メニ利用スルノ義務アリト規定セルカ如キハ、其ノ變遷ノ滄桑モ管ナラサルニ驚クト雖モ、亦等シク人ノ權利ヲ憲法ニ保障スルヲ改メサルハ、以テ歸一スル所、自ラ存スルモノアルヲ知ルニ足ルト爲スヘシ、我カ

憲法ノ自由權ヲ規定スルハ、固ヨリ天賦人權ヲ宣言セントスルモノニ非ス、人ノ本性ノ發展ハ、即チ國家統治ノ本義ヲ完ウスル所以ナリトスルニ由ルノミ。

第四節 自由權ノ性質

自由權ハ國法上ノ權利ニシテ、所謂ル自然法上ノ權利ニ非サルハ云フヲ俟タス、國家ト法トノ外ニ、之ヲ超越シテ權利ナルモノ存在スルナシ、自由權ハ憲法カ一定ノ形式、即チ法律ニ依ルカ、又ハ一定ノ條件ニ當ルニ非サレハ、臣民ノ一定ノ行爲ヲ命令禁止制限スルコトナキヲ規定スルニ依リテ、特ニ附與セラレタル權利ナリ。

自由權ハ一定ノ形式ニ依ルカ、又ハ一定ノ條件ニ當ルニ非サレハ、一定ノ行爲カ命令禁止又ハ制限セラレサルノ消極的ナル權利ニシテ、一

定ノ行爲ヲ爲スノ積極的權利ニ非ス、言論著作シ、集會結社シ、宗教ヲ信シ、居住移轉スルハ、人ノ生活上自然ニ爲ス所ノ動作ナリ、憲法ハ之ヲ爲シ得ルノ權利ヲ與フルモノニ非ス、天賦人權說ハ、之ヲ直ニ權利ナリトシタルナリ、自由權ナル一個ノ權利トシテ國法ノ附與スル所ハ、此ノ自然ノ自由ニ非スシテ、之ヲ爲スコトヲ、一定ノ形式ニ依ルカ、又ハ一定ノ條件ニ當ルニ非サレハ、命令禁止又ハ制限セラレサル、各人ノ意志ノ力ナリ、統治權ハ其ノ目的ヲ達スルカ爲メニ、人ノ自然ノ自由ヲ制限スルコトヲ得、殊ニ言論著作集會結社信教居住移轉ノ如キ、公共ノ利害ニ直接ノ關係ヲ有シ、文化ノ發達ノ重要ノ基礎タル事項ニ就テハ、諸種ノ場合ニ適當ニ之ヲ取締ルノ必要ヲ見ルコト甚タ大ナリ、自由權ハ之ヲ制限セスト云フニ非ス、之ヲ制限スルノ必要甚大ナルカ故ニ、特ニ之ヲ制限セントスルニハ、一定ノ形式ヲ以テスルカ、又ハ一定ノ條件ニ當ルコ

トヲ要スルコトヲ定ムルナリ。

故ニ自由權ノ定メタル、一定ノ自然ノ自由ヲ制限セサルハ、固ヨリ絕對的ニ非ス、先天的ニシテ不可侵ノ自由ニ非サルナリ、憲法ハ一定ノ形式ニ依ルカ、又ハ一定ノ條件ニ當ルニ非サレハ、之ヲ制限セスト定ムルノミ、必要アル場合ニ於テ、一定ノ形式ニ依リ、又ハ一定ノ條件ニ當ルトキハ、之ヲ全然禁止スルモ、亦固ヨリ爲シ得ル所ニシテ、爲メニ毫モ自由權ノ自由權タルノ所以ヲ害フモノニ非ス、自然ノ自由ノ國法ノ實際ノ上ニ於ケル廣狹ハ、決シテ自由權ノ廣狹ニ非サルナリ、故ニ人ノ自然ノ自由ニシテ、實際ノ上ニ於テ、之ヲ制限シタルコトモナク、又之ヲ制限スルノ不當ナル最モ著シキモノト雖モ、憲法ニ於テ之ニ對シ、一定ノ形式ニ依ルカ、又ハ一定ノ條件ニ當ルニ非サレハ、之ヲ制限セサルコトヲ定ムルモノニ非サレハ、自由權アリト爲スヘカラサルナリ、例ヘハ飲食睡

眠美術音樂ノ自由ノ如シ、自由權ノ規定ハ、其ノ沿革ヲ知ラサレハ、其ノ意義ヲ明ニスルコト能ハス、言論著作集會結社信教居住移轉ノ如キ、專制時代ニ於テ、屢々不當ノ抑壓ヲ被レル自然ノ自由ニ就テ認メラレタルモノニシテ、其ノ特ニ之ヲ抽出列舉シテ自由權ト爲スハ、之ヲ比較的重大ナル人生ノ必要ト爲スヨリモ、寧ロ消極的ニ從來ノ壓制ヲ將來ニ除却スルニ在リ。

自由權ノ由來ニ二ノ系統アルニ因ミテ、自由權ノ性質ニ就テ、尙カ天賦人權ノ思想ヲ傳ヘ、之ヲ權利ナリトスル學說ト、之ニ反シ唯タ行政權ト立法權トノ權限ヲ定ムル客觀的規定ニシテ、主觀的權利ヲ認ムルモノニ非スト爲ス學說ト之アリ、自由權カ天賦人權ノ意義ニ於テ權利ナリト認ムヘカラサルハ云フヲ俟タス、然レトモ之ヲ唯タ客觀的ナル權限ノ規定ナリトシ、之ニ依リテ臣民個人ハ、何等カノ利益ヲ享有スルコ

トアルモ、其ノ反射的利益タルニ止マリ、何等ノ權利ヲ生スルモノニ非ストスルモ亦誤レリ、自由權ノ保障スル一定ノ自然ノ自由ハ權利ニ非サルモ、統治權カ憲法ニ依リ、臣民ニ對シテ、一定ノ形式ニ依ルカ、又ハ一定ノ條件ニ當ルニ非サレハ、一定ノ行爲ヲ命令禁止制限セサルコトヲ規定スルトキハ、個人タル臣民ハ此ノ形式即チ法律ニ依ルカ、又ハ此ノ條件ニ當ルニ非サレハ、行政處分ヲ以テ、又ハ故ナク妄ニ、自由權ノ認メタル一定ノ行爲ヲ制限セラサレサル意志ノ力ヲ有シ、之ニ反スル統治權ノ行爲ニ對シ、其ノ違法ニシテ、自己ノ法上ノ意志ノ力ヲ侵害セラレタルコトヲ主張スルコトヲ得ルコトヲ認メタルモノニシテ、明ニ臣民ニ主觀的ナル權利ヲ附與シタルモノナリト爲スヘシ、之ヲ自由權ト爲ス。

第五節 各種ノ自由權

帝國憲法ニ於テ認メラレタル自由權ハ左ノ如シ、而シテ此ノ以外ニハ、自由權ハ存在セサルナリ、自由權ハ憲法ニ於テ一定ノ形式ニ依ルカ、又ハ一定ノ條件ニ當ルニ非サレハ、臣民ノ一定ノ行爲ヲ命令禁止制限セサルコトヲ定メタルニ依リテ生ス、然ラサレハ自由權ハ成立セサルナリ、凡ソ臣民ハ絶對無制限ノ服從ノ義務ヲ有ス、其ノ自由權ヲ有スルハ、國法ノ特ニ之ヲ附與スルニ依リ、本來先天的ニ之ヲ有スルモノニ非ス、或ハ自然ノ自由ノ重大ナル、憲法所定ノ自由權ノ保障スル所ニ優ルモノアリ、又或ハ外國ノ憲法概ネ之ヲ自由權トシテ認ムルモノアルモ、類比擴張シテ、自由權アリト爲スコトヲ得ス、自由權ハ嚴ニ憲法ノ明示ニ定ムル所ニ限ルヘキナリ、殊ニ我カ憲法ハ、一般ニ人ノ權利義務ヲ定

ムルハ、帝國議會ノ議決スル法律ヲ以テスヘキモノトスルノ概括的原則ヲ執ルモノニ非ス、自由權ノ列舉ハ、之ヲ以テ自由權ヲ列舉限定スルコトヲ意味シ、其ノ著シキモノヲ舉ケテ例示スルノ趣旨ヲ有スルモノニ非ス。

自由權ハ憲法ノ明ニ列舉スル所ニ限ルト云フハ、此ノ以外ニ人ノ自由ナシト云フニ非サルハ、前節説ク所ニ依リテ明ナリ、唯タ之ニ對シテ、法律ニ依ルカ、又ハ一定ノ條件ニ當ルニ非サレハ、之ヲ制限セサルハ、憲法ノ明示スル所ニ限ルト云フノミ、憲法ノ列舉ノ外ニ、人生ノ根本ヲ爲シ、更ニ重大ナル自然ノ自由、多々之アルハ當然ナリ、飲食ノ自由、結婚ノ自由、子女教育ノ自由、藝術ノ自由、ト云ハンカ如シ、然レトモ憲法ニ規定ナキニ、之ヲ制限スルハ、法律ニ依ルヘク、又ハ何等ノ條件ニ當ラサルヘカラストスルコト能ハサルナリ、自由權トシテ認メラレスト云フハ、

唯タ此レタケノ意ニシテ、此レ等ノ重大ナル自然ノ自由ヲ無視スルノ意ニ非サルハ云フマテモナシ、此レ等ノ自由ハ古來之ヲ不當ニ制限セントシタルコトモナク、又之ヲ抑壓スルノ正義利益ニ反シ、統治ノ目的ニ適ハサルモ亦餘リニ明ナリ、自由權ハ往時屢々不正ノ抑壓ヲ被リ、又特ニ之ヲ制限スルノ實際上ノ必要ノ存スル事項ニ就テ認メラレタルモノナリ、從テ自由權トシテ認メラレタル事項ニ就テハ、取締ノ規定常ニ存シテ、自然ノ自由ハ局限セラレ、然ラサル事項ニ就テハ、却テ自然ノ自由ハ、法律ヲ以テモ之ニ關涉スルコトナク廣汎自由ナルヲ見ル。

(一) 日本臣民タルノ要件ハ法律ヲ以テ定メサルヘカラス(第十八條)、如何ナル要件ヲ具備スル者ヲ以テ日本臣民トスルカ、如何ナル場合ニ日本臣民タル身分ヲ喪失スルカ、凡テ之ヲ法律ヲ以テ定メサルヘカラス、日本臣民ハ法律ニ依ラスシテ、其ノ國籍ヲ取得スルコトヨリ除カレ、

又之ヲ喪失スルコトナキモノトス。

(二) 日本臣民ハ文武官ニ任シ、其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得ルニ於テ平等ナリ(第十九條)、之レ諸國憲法ノ平等權ト稱スルモノニ當ル、我カ憲法ハ各人カ法ノ前ニ平等ナルハ、國家存在ノ本來ノ意義ニ本ツキ、當然云フヲ俟タス、特ニ之ヲ自由權トシテ規定スルコトヲ要セサルモノト爲シ、唯タ官職公務ニ就クノ資格ヲ定ムルニ、平等ヲ原則トスヘキコトヲ定メタリ、文武官ニ任シ、其ノ他ノ公務ニ就クハ、固ヨリ之ニ必要ナル才能教育ヲ有セサルヘカラス、一定ノ資格ヲ定メ、適材ヲ以テ之ニ充ツヘキモ、法律命令ヲ以テ、其ノ資格ヲ定ムル、必ス均クト云フヲ以テ原則トシ、國民一般ヲ基準トシ、門地出生ニ依テ差等ヲ設クヘカラストスルモノ、即チ本條ノ規定ニシテ、臣民ハ之ニ依リテ、文武官ニ任シ、其ノ他ノ公務ニ就クハ、法律命令ノ定ムル一般均等ノ資格ニ依ルヘク、差別ヲ

置カレサルノ自由權ヲ有ス、此ノ自由權ハ文武官ニ任シ、公務ニ就クノ權利ニ非スシテ、之ニ就テ差別的取扱ヲ受ケサルノ自由權ナリ。

(三) 日本臣民ノ兵役ノ義務ヲ課セラルルハ、法律ノ定ムル所ニ依ルヘク、差別ヲ設ケラルルコトナシ(第二十條)日本臣民カ兵役ノ義務ヲ有スルハ、憲法ノ規定ヲ待テ、初メテ生スルモノニ非ス、一般的服從ノ義務ヲ有スル臣民ハ、兵役ニ服スヘキコトヲ命セラルレハ、之ニ服セサルヘカラサルナリ、本條ハ新ニ兵役ノ義務ヲ命スルノ規定ニ非スシテ、既ニ存スルノ兵役ノ義務ヲ課スルニハ、第一ニ法律ノ定ムル所ニ依ルヘク、第二ニ國民皆兵ノ原則ニ從ヒ、類族門葉ニ拘ハラズ、何人ト雖モ兵役ヨリ除外セラルヘカラサルノ自由權ヲ規定シタルモノナリ、故ニ法律ニ依ラスシテ、兵役ヲ課シ、其ノ範圍條件等ヲ定ムルコトヲ得ス、而シテ法律ヲ以テ之ヲ定ムルニ就テハ、兵役ハ一般平等ナルノ原則ニ依ルヘク、

人ニ依リテ差別ヲ設クヘカラサルナリ。

(四) 日本臣民ノ納税ノ義務ヲ課セラルルハ、法律ノ定ムル所ニ依ルヘク、差別ヲ設ケラルルコトナシ(第二十一條)納税ノ義務ヲ課スルモ、亦第一ニ法律ノ定ムル所ニ依ルヘク、第二ニ國民一般平等ヲ原則トスルコトヲ定ム、租税ハ臣民カ一定ノ利益ヲ受クルノ報償ニ非ス、國家ノ必要ニ應シテ、之ヲ徵收スルコトヲ得ヘシト雖モ、法律ヲ以テ其ノ種類税率等ヲ定ムヘク、且ツ法律ノ之ヲ定ムルハ、人ニ依リテ差別ヲ設クヘカラサルナリ、臣民ハ法律ニ依ラスシテ、租税ヲ取り立テラレ、又ハ人ニ依リテ之ヲ減免シ、故ナク特別ノ租税ヲ課セラレ、之ヲ加重セララルコトナキノ自由權ヲ有ス、財産收益ノ多寡ニ依リテ税額ヲ異ニシ、又ハ之ヲ累進増加スルハ、人ニ依リテ差等ヲ設クルモノニ非ス、即チ平等ノ原則ニ從フ所以ナリ。

(五) 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非サレハ居住移轉ヲ制限セラルルコトナシ(第二十二條)之ヲ居住移轉ノ自由權ト稱ス、居住移轉ノ自由權トハ、居住シ移轉スル自然ノ自由アルコトヲ云フニ非ス、人ハ自然ニ如何ナル場所ニモ居住シ移轉スルコトヲ得ルモ、公共ノ安寧秩序ヲ保持スルカ爲メニ、諸種ノ關係ニ於テ之ヲ取締リ制限スルノ必要ヲ生ス、日本臣民カ帝國內ニ居住シ移轉シ、又ハ外國ニ移住旅行スルニ對シ、必要ノ制限ヲ加フルハ、必ス法律ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス、而シテ法律ヲ以テスレハ、如何ナル制限ヲモ規定スルコトヲ得ヘシ、茲ニ制限ト云フハ、直接ニ居住移轉ヲ制限スルノ規定ヲ云フモノニシテ、他ノ目的ヲ有スル規定ノ結果、間接ニ居住移轉ノ制限セラルルコトアルカ如キハ、本條ノ間フ所ニ非ス。

諸國憲法ハ居住移轉ノ自由權ト共ニ營業ノ自由權ヲ規定ス、然レト

モ、我カ憲法ハ特ニ之ヲ規定セサルカ故ニ、我カ憲法ニ在リテハ、營業ノ自由權ハ存在セサルモノト爲スヘシ、又營業ノ自由ヲ以テ、居住移轉ノ自由ニ包含セラルト爲スヘカラサルナリ、然レトモ營業ノ自由權ナシト云フハ、營業ヲ取締ルニ、法律ヲ以テスルコトヲ要セスト云フノミ、日本臣民ハ營業ヲ爲スコトヲ得スト云フノ意ニ非ス、又我カ國ニ於テ實際上營業ヲ爲スノ自然ノ自由極メテ狭シト云フノ意ニ非サルハ云フヲ俟タス。

(六) 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非サレハ、逮捕監禁審問處罰ヲ受タルコトナシ(第二十三條)通常之ヲ身體ノ自由權ト稱ス、西洋諸國ニ於テ專制國王カ屢、法ノ定ムル所ニ依ラス、犯罪ナキニ人ヲ刑罰ニ處シ、過重苛酷ノ處分ヲ爲シタルコトアルヲ、將來ニ向テ禁止セントスルハ、此ノ自由權カ最モ重要ナル國民權利トシテ宣言セララルルニ至リシ所以ナリ、

處罰トハ、法律ニ於テ犯罪ト定メタル行爲ニ對シ、一定ノ制裁ヲ科スルコトヲ云フ、故ニ諸般ノ紀律ノ爲ニスル懲戒處分、行政處分ノ執行ヲ目的トスル所謂ル強制罰ヲ科スルハ、法律ニ依ルコトヲ要セス、本條ニ逮捕監禁審問ト云ヘルハ、主トシテ處罰ノ目的ノ爲メニスル場合ヲ眼中ニ置キテ規定シタルモノナリト雖モ、必スシモ此ノ目的ノ爲メニスル場合ニ限ルヘキ理由ナク、諸種ノ目的ノ爲メニ、人ヲ逮捕シ、監禁シ、又ハ審問スルハ皆法律ニ依ラサルヘカラサルナリ。

(七) 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルルコトナシ(第二十四條)此ノ自由權モ亦專制時代ニ於テ、西洋諸國ニ於テ、國王カ行政官廳又ハ臨時ニ設置シタル委員ヲシテ、專横ナル裁判ヲ行ハシメタルヨリ生シタルモノニシテ、民事刑事ノ裁判ハ、法律ニ定メタル資格ヲ有スル裁判官ニ非サレハ、之ヲ行フコトヲ得ス、臣民ハ行

政權ノ裁判ヲ受クルコトナキノ自由權ヲ附與セラレタルモノナリ。

(八) 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セララルコトナシ(第二十五條)之ヲ住所不可侵ノ自由權ト爲ス、私人住所ノ安全ヲ保障スル所以ナリ、故ニ住所トハ實際人ノ住居スル場所ノ意ニシテ、民法ノ住所ト云フト同一意義ニ非ストスト雖モ、本條ノ規定スル自由權ハ、何等ノ目的ヲ有スルヲ常ス、凡テ人ノ住所ニ侵入スルニ對シテ存ス。

(九) 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルルコトナシ(第二十六條)信書ノ秘密ノ自由權モ、亦官憲カ恣ニ、私人交通ノ信書ヲ開封檢閲セルヲ防止スルノ趣旨ニ出テタリ、刑事訴訟其ノ他ノ目的ノ爲メニ、信書ヲ開封檢閲スルハ、法律ノ定メタル場合ニ限ル、信

書ハ封書ニ止マラス、電信葉書ノ如キモノニ就テモ、其ノ秘密安全ヲ保障スヘキハ同一ナリ、此ノ規定ハ郵便電信ノ事業ヲ國家ノ專業トシタル結果ニ非ス、又郵便電信ノ事業ニ從事スル官吏ノ職務上ノ秘密ヲ守ルノ義務ヲ規定シタルモノニ非ス、一切ノ信書ノ秘密ハ、法律ニ依ルニ非サレハ之ヲ侵カサルルコトナキノ自由權ナリ。

(十) 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルルコトナク、法律ノ定メタル場合ニ非サレハ、所有權ニ對シ公益ノ爲必要ナル處分ヲ受クルコトナシ(第二十七條)之ヲ所有權不可侵ノ自由權ト爲ス、第十八世紀ノ天賦人權ト個人主義ノ思想ハ、所有權ヲ以テ、個人至重ノ權利ニシテ、自然法上先天的絕對的ノ權利ナリトシ、人權宣言及諸國憲法ハ、之ヲ神聖ニシテ侵スヘカラスト宣言セリ、然レトモ如何ナル權利ト雖モ、國法ノ規定ヲ待タスシテ、存在スルコトヲ得ルモノニ非ス、所有權ノ不可侵ハ國法ヲ離

レテ既ニ先天的ニ存在スル所有權ノ侵カスヘカラサルコトヲ規定シタルモノニ非サルハ言ヲ俟タス、所有權ハ私人相互ノ間ニ存スル財産上ノ權利ニシテ、民法其ノ他私法ノ定ムル所ニ依リテ、其ノ本質限界ヲ定メラルルノ權利ナリ、憲法ハ唯タ此ノ私法上ノ權利ヲ侵ササルコトヲ規定スルノミ、憲法自ラ所有權ノ本質限界ヲ定ムルモノニ非ス、又所有權ノ本質限界ヲ定ムルハ、法律ヲ以テスヘキコトヲ定ムルモノニモ非ス、所有權ノ本質限界ハ法律ニ依リ、命令ニ依リ、又ハ慣習法ニ依リテモ定マルコトヲ得ヘク、凡テ之レ憲法ノ關スル所ニ非ス、現行民法第二百六條カ、所有權トハ法令ノ制限内ニ於テ自由ニ物ヲ使用收益處分スル權利ナリト定メタルハ、毫モ憲法ノ規定ト交渉スル所ナシ、將來法規ヲ定ムル命令ヲ以テ所有權ヲ制限スルハ、固ヨリ憲法ト相觸ルルモノニ非サルナリ。

然レトモ所有權ハ、人類生活ノ貴重ナル源泉ナルカ故ニ、憲法ハ特ニ之ヲ侵ササルコトヲ定ム、之ヲ侵サストハ、國法ニ依リテ存在スル所有權ヲ、法規ニ依ラス、行政上ノ處分ヲ以テ奪取シ、又ハ其ノ行使ヲ制限スルコトヲ爲ササルノ意ナリ、所有權ノ一般的範圍ヲ定ムルハ、法規ヲ以テス、之ヲ所有權ヲ侵スト云ハス、具體ノ所有權ヲ奪取シ、又ハ其ノ行使ヲ制限スルヲ云フ、凡ソ所有權ト雖モ、公共ノ安寧秩序ヲ保ツノ、警察上ノ必要ニ依リ、之ヲ制限スルノ已ムヲ得サル場合アルハ當然ナリ、然レトモ此ノ如キ場合ハ、凡テ豫メ法律又ハ法規ヲ定ムル命令ヲ以テ之ヲ規定シ置クヘク、法規ニ違反シ、又ハ法規ニ依ラスシテ、行政處分ヲ以テ、突然直接ニ所有權ヲ奪取シ、其ノ行使ヲ制限スヘカラストスルモノ、即チ本條ノ自由權ナリ。

具體ノ所有權ヲ直接ニ奪取シ、其ノ行使ヲ制限スルノ必要ハ、警察ノ目的ノ爲メニスル場合ノミナラス、公益事業ヲ施行スルカ爲メニモ亦存ス、公用徵收其ノ他廣ク公益事業ノ爲メニスル處分之ナリ、憲法第二十七條第二項ハ、斯ノ如キ處分ヲ爲スハ、法律ノ定ムル所ニ依ルヘキモノト爲セリ、故ニ臣民ハ、法律ノ定メタル場合ニ非サレハ、公益ノ爲メニ必要ナルノ理由ヲ以テ、其ノ所有權ヲ徵收セラレ、制限セラルルコトナキノ自由權ヲ有ス、之ヲ前項ト比較スルニ、警察上ノ目的ノ爲メニスル處分ハ、法律命令ニ本ツカサレハ、之ヲ爲スコトヲ得ス、如何ナル場合ニ警察上ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルヤハ、命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ヘキモ、公益ノ爲メ必要ナル處分ハ、必ス法律ニ本ツカサルヘカラス、命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得サルモノト爲セルナリ。

人權宣言以來諸國憲法ハ、公用徵收ノ處分ニ對シテハ、相當ノ賠償ヲ與フヘキコトヲ規定スルモノ多シ、我カ憲法ハ必スシモ之ヲ必要トセ

ス。

(十一) 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス、及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ、信教ノ自由ヲ有ス(第二十八條)之ヲ信教ノ自由權ト稱ス、政治ト宗教ヲ混同シ、權カヲ以テ信教ニ干涉スルハ、歐羅巴中世ニ普ク行ハレタル所ニシテ、自由ハ初メ信教ノ爲メニ戰ハレ、信教ノ自由ハ凡テノ自由ノ魁ヲ爲セリ、而シテ宗教認容ノ主義ハ一般ニ認メラルルニ至レリト雖モ、諸國ノ法制ハ、今日ニ至リテモ、尙ホ凡テノ宗教ヲ同一ニ取扱ハサルナリ、信教ノ自由權ハ、内心ニ於テ一定ノ宗教ヲ信仰スルコトニ關セサルハ云フマテモナシ、信仰カ外部ノ行爲ニ表ハレ、禮拜儀式布教等ヲ爲スニ就テ存シ、之ヲ禁止シ制限シ、又ハ一定ノ宗教ヲ信スルノ故ヲ以テ、特殊ノ利益不利益ヲ與ヘラルルコトナキノ自由權ナリ、憲法ハ信教ノ自由ニ就テハ、法律ヲ以テスルニ非サレハ之ニ干涉スルコトナ

キノ形式ヲ限定セス、其ノ條件ヲ限定シ、安寧秩序ヲ妨ケス、及臣民タルノ義務ニ背カサルニ於テ、如何ナル宗教ヲモ禁止又ハ制限セサルモノト爲セリ、故ニ其ノ安寧秩序ヲ妨ケ、臣民タルノ義務ニ背ク場合ニ在リテハ、法律ニ依ラサルモ、命令ヲ以テ之ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得ルト共ニ、安寧秩序ヲ妨ケス、臣民タルノ義務ニ背カサル信教ハ、法律ヲ以テスルモノ之ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得ス。

(十二) 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非サレハ、言論著作印行ノ自由ヲ制限セラルルコトナシ(第二十九條)之ヲ思想發表ノ自由權ト云フ、言論出版ハ文明進歩ノ要件ナリト雖モ、社會公共ニ害惡ヲ流スノ影響モ亦大ナルモノアリ、之ニ對シ適當ノ取締ヲ爲ササルヘカラス、然レトモ檢閲其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ取締ルハ、必ス法律ヲ以テ規定セサルヘカラストスルモノ、即チ思想發表ノ自由權ナリ。

(十三) 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非サレハ、集會結社ノ自由ヲ制限セラルルコトナシ(第二十九條)之ヲ集會結社ノ自由權ト爲ス。

(十四) 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ、別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒテ請願ヲ爲スコトヲ妨ケラルルコトナシ(第三十條)之レ請願ノ自由權ヲ附與シタルモノナリ、請願トハ天皇及天皇ノ官廳ニ對シテ、一定ノ希望ヲ陳述スルコトヲ云フ之レ何人ト雖モ自然ニ爲シ得ル所ナリ、請願ハ法律ノ定ムル訴訟又ハ訴訟ノ如キモノト異リ、天皇及天皇ノ官廳カ之ヲ受ケタルトキ、之ニ對シテ何等カノ行爲ヲ爲ササルヘカラサルモノニ非ス然ルニ古來請願ハ、諸國ニ於テ屢々阻障セラレ、民情ヲ疏通シ、不平ヲ伸開スル所以常ニ雍塞セラレタリ、往時新聞演說等言論ノ尙ホ大ニ開ケサル、請願ハ重大ナル民意上達ノ方法トセラレタルカ故ニ、請願ノ自由ヲ妨ケラレサルハ、何レノ國ニ在リテモ熱心ニ主張セラレタル

所ナリ、憲法ハ請願ノ自由ハ、相當ノ敬禮ヲ守リ、別ニ定ムル所ノ規程ニ從フ以上ハ、之ヲ妨ケサルコトヲ規定セルモノナリ、別ニ規程ヲ定ムルハ、必スシモ法律タルコトヲ要セス。

第六節 自由權ノ停止及除外

(一) 非常大權 國家統治ノ目的ヲ達スルカ爲メニ、特ニ之ヲ必要トスル場合ニ於テ、自由權ヲ認め、一定ノ事項ニ就テ、法律ヲ以テスルカ、又ハ一定ノ條件ニ當ルニ非サレハ、臣民ノ行爲ヲ命令禁止又ハ制限セサルコトヲ定ムルモ、國家非常ノ場合ニ方リ、其ノ生存ヲ保持セントスルニハ、之ニ拘泥スヘカラサルコト當然ナリ、憲法ハ此ノ必要ヲ認め、自由權ノ規定ハ、戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テハ、天皇大權ノ施行ヲ妨クルモノニ非サルコトヲ定ム(第三十一條)之ヲ通常非常大權ト云フ、大

權トハ天皇親裁シテ政務ヲ行フコトヲ云フ、憲法第三十一條ハ、自由權ノ規定アリト雖モ、戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テハ、天皇ハ之ニ拘ハラス、法律ニ依ラス、又一切ノ條件ニ顧慮セス、自由ニ如何ナル行動ヲモ執ルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ。

故ニ非常大權ハ、自由權ヲ停止シテ、統治權ノ何事ヲモ爲スコトヲ得ルノ原則ヲ實行スルモノナリ、自由權ハ國民天賦ノ權利ニ非ス、主權ノ特ニ之ヲ附與スルニ依リテ存スルモノナリ、非常大權ハ憲法ノ定メタル此ノ特例ヲ、一時停止スルモノナリ。

非常大權ノ施行ハ、憲法第十四條ノ戒嚴ノ宣告ト相關スルコトナシ、戒嚴ノ宣告ハ戰時若クハ事變ニ方リ、行政司法ノ權ヲ軍衙ノ手ニ移スヲ以テ、其ノ效力ト爲スモノナリ、非常大權ハ行政司法ノ權ヲ軍衙ノ手ニ移スモノニ非ス、天皇ノ大權ニ依リ、自由權ニ拘ハラヌ、廣ク必要ノ行

動ニ出ツルコトヲ得ルノ作用ヲ有ス、戒嚴ノ場合ニ在リテモ、自由權ハ平時ニ比シテ、嚴重ナル制限ヲ受クルコトアルモ、其ノ當然ノ作用ニ非サルノミナラス、其ノ效力ハ法律ヲ以テ定ムルノ範圍程度ニ止マラサルヘカラサルナリ。

(二) 軍人ノ除外 憲法第三十二條ハ、自由權ノ規定ハ、陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り、軍人ニ準行スルコトヲ定ム、軍人ハ天皇ニ對シ特別ノ服從關係ヲ有スルモノニシテ、軍人タルノ身分ニ於テ、陸海軍ノ法令紀律ノ支配ヲ受ケ、其ノ自由ハ陸海軍ノ法令ニ依リ、又ハ紀律上、法律ニ先チ、既ニ嚴重ナル制限ヲ受ク、自由權ノ規定ハ、僅カニ此ノ以外ニ於テ適用セラルルノミ、然レトモ一定ノ公ノ職務地位ヲ有スル者ハ、其ノ職務地位ノ當然ノ結果トシテ、皆一定ノ自由ノ制限ヲ受クルモノニシテ、文官ト雖モ、官ノ紀律ニ牴觸セサル限り、自由權ヲ有ス

ルコトヲ得ヘク、之ニ對スル分限紀律ノ規定ハ、法律タルコトヲ要セザルナリ。

第七節 翼賛ノ權利義務

日本臣民ハ、天皇ヲ翼賛スルヲ以テ、其ノ本來ノ性格ト爲ス、日本臣民ハ悉ク皆一般的ニ、天皇ニ服從シ、心身ヲ盡クシテ統治ノ大業ヲ翼賛シ奉ルト雖モ、國法ハマタ特ニ一定ノ事項ニ付キ、一定ノ方法ニ依リテ、天皇ヲ翼賛スルコトヲ得セシム、是ニ於テ、國法上一定ノ翼賛ノ義務及權利ヲ生ス。

帝國憲法ハ兵役ノ義務及納稅義務ニ就テ規定スル所アリ(第二十條第二十一條)、此ハ前ニ説ケルカ如ク、新ニ兵役及納稅ノ義務ヲ課スルコトヲ定ムルモノニ非スト雖モ、兵役ト納稅トハ臣民カ皆一般ニ負フ所

ノ義務ニシテ、統治ヲ翼賛スルノ最モ重要ナルモノタリ、通常之ヲ臣民ノ二大義務ト稱ス、憲法第十九條定ムル所ノ文武官ニ任セラレ、其ノ他ノ公務ニ就クハ、又天皇ヲ翼賛スルノ最モ重要ナル義務タルハ云フマテモナシ之ヲ合ハセテ、臣民翼賛ノ三大義務ト爲スヘシ。

天皇ハ臣民ニ對シ、義務トシテ之ヲ命スルニ依リテ、臣民ヲシテ能ク翼賛ノ效果ヲ擧ケシムルコトヲ得ヘキモ、權利トシテ統治ニ參與スルコトヲ得セシムルニ依リ、一層有效ニ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ルトスルトキハ、特ニ翼賛ノ權利ヲ附與ス、通常之ヲ參政權ト云フ、民主國ニ在リテハ、人民全體自ラ主權者ナリトスルカ故ニ、統治ニ參加スルハ、人民タルノ本來ノ權利ナリ、然レトモ日本臣民ハカカル本來ノ權利ヲ有スルモノニ非ス、參政權ハ天皇特ニ之ヲ附與スルニ依リテ存ス、此ノ意義ニ於テ、憲法ノ附與シタル翼賛ノ權利ハ、衆議院議員ノ選舉權及被選

舉權ナリ、選舉權及被選舉權ハ法律ノ定ムル所ノ資格ニ應シ、臣民一般ニ何人ト雖モ之ヲ有スルノ權利ナリ、選舉權ハ議員タルヘキ者ヲ選舉スルノ權利ニシテ、被選舉權ハ議員トシテ選舉セラルルコトヲ得ルノ權利ナリ、或ハ選舉權及被選舉權ハ權利ニ非スト爲ス者アリ、固ヨリ主權ノ一部ヲ擔任スルノ意義ニ於テ權利ナリト爲スヘキニ非サルモ、選舉シ、選舉セラルルハ、各人ニ屬スル權利ナルコト疑ナシ、選舉權ト云ヒ被選舉權ト云フモ、一ノ資格ニシテ、權利ニ非スト云フモ亦當ラス、自ラ投票シ、自ラ議員トナルハ、人ノ意志ニ屬スル力ヲ附與セラレタルモノニ非スシテ何ソヤ、又選舉シ、選舉セラレテ議員トナルハ、臣民ノ義務ニシテ、權利ニ非スト説ク者アルモ、國法カ之ヲ義務トシテ強制スレハ、義務タル性質ヲ有スヘキモ、而カモ尙ホ同時ニ權利タル性質ヲ失フモノニ非ス。

第七章 官 府

天皇ノ統治權ヲ行使シタマフ、多數ノ人ヲ用ユ、政體ノ組織ハ、統治權ノ行使ニ當ルノ人ヲ如何ニ構成スルカノ組織ナリ、此ノ組織ヲ充タスノ人又ハ人ノ團體ヲ官府ト爲ス。

大日本帝國憲法ヲ以テ定メタル立憲政體ハ、三權分立ノ主義ヲ執レリ、三權分立ノ政體ノ組織トハ、要スルニ、三權ノ行使ニ當ルノ官府ノ組織ニシテ、憲法ノ定ムル所ノ立憲政體ノ規定ハ、官府ノ地位權限、其ノ相互ノ關係ヲ内容トスルモノナリ、統治ノ組織ヲ説明スルニハ、先ツ官府ノ何タルカヲ明ニセサルヘカラス。

第一節 官府ノ性質

政體ノ組織ヲ充タシ、天皇ノ統治權ノ行使ニ當ルノ人又ハ人ノ團體

ヲ官府ト爲ス、官府ハ政體法上一定ノ範圍ノ事項ニ付キ、一定ノ方法ニ依リ、一定ノ效果ニ於テ、統治權ノ行使ニ當ルノ意志ノ主體タリ。

官府ハ天皇之ヲ設クルニ依テ存立ス、天皇ノ統治權ヲ行使シタマフ、多數ノ人ヲ用ユルコトナクシテ、其ノ實效ノ舉カルヲ期スヘカラサルハ云フヲ俟タス、然レトモ、官府ヲ設クルハ、事實上ノ必要ニ出ツルモノニシテ、理論上ノ必要ニ本ツクモノニ非ス、一切ノ官府ナキモ、統治權者ノ統治權者タルヲ害フモノニ非ス、官府存立ノ基礎ハ、一ニ天皇ノ意志ニ在リ、自立シテ固有ノ存在ヲ有スル者ニ非ス。

官府ハ天皇ノ定ムル所ニ依リ、一定ノ範圍ニ於ケル統治ノ事務ニ付キ、一定ノ方法形式ニ依リ、一定ノ效果ニ於テ、統治權ノ行使ニ當ルノ意志ノ主體ナリ、一定ノ方法形式ニ依リテ行フヘキ、一定ノ範圍ノ事務ハ、官府ノ義務ノ内容ヲ成スモノナリ、官府ノ義務ハ通常之ヲ職務ト云フ、

官府ノ職務ハ同時ニ、其ノ權利ノ内容ヲ成スモノニシテ、官府ハ之ヲ爲スノ意志ノ力ヲ有ス、官府ノ權利ハ之ヲ職權ト云フ、又權限ト稱ス、權限トハ、其ノ事務カ、其ノ官府ノ行ヒ得ル範圍ナルコトヲ示スノ意義ヲ有シ、政體法上主權者ハ、此ノ事務ヲ行フニ、此ノ官府ニ依ルヘク、他ノ官府之ヲ行フコトヲ得サルノ事項ニシテ、此ノ官府力之ヲ行フトキハ、政體法上定ムル所ノ一定ノ效果アルモノトセラル、官府ノ其ノ權限ニ屬スル事務ヲ行フハ、一定ノ方法形式ニ依ルヘク、此ノ方法形式ニ依ルニ非サレハ、官府ノ行爲トシテ有效ナルモノトセラレサルカ故ニ、官府ノ職務又ハ權限ト云フトキハ、其ノ實質上ノ事務ノ範圍ノミナラス、之ヲ行フノ定マレル方法形式ヲモ包含スルモノト爲スヘキナリ。

官府ノ官府トシテ存在スルハ、主權ノ意志ヲ基礎トスルカ如ク、其ノ職務權限モ、亦一ニ主權ノ定ムル所ニ依ル、當然ノ本質トシテ、官府ノ本

來有スル職務權限ナルモノアルコトナシ例ヘハ國會ヲ以テ君主ト相並ヒテ當然國家ノ存立ト共ニ無カルヘカラスナルノ機關ニシテ人民ノ代表者トシテ當然有スヘキ一定ノ權能アリトスルカ如キ西洋民主ノ定説ハ我カ天皇ノ官府タル帝國議會ノ性質ニ非サルナリ。

官府ハ主權者ト主權ヲ分有スル者ニ非ス天皇ノ主權ハ唯一圓滿ニシテ官府ノ有ルト無キトハ統治權ノ本體ニ於テ増減アルコトナシ主權者ハ統治ノ目的ヲ達センカ爲メニ數多ノ官府ヲ用ユト雖モ官府ノ主權ニ對スル關係ニ於テ又官府相互ノ關係ニ於テ能ク之ヲ統一シテ主權ノ唯一圓滿ヲ害ハサルノ系統的組織ナカルヘカラス政體法ハ要スルニ數個ノ官府ノ意志ヲ適當ニ規律シテ此ノ系統的組織アラシムルノ法規ナリ官府ノ地位ト相互ノ關係トハ各異ルモ總スルニ主權ノ行動ニ關スル最高最終ノ決定ハ一ニ主權者ニ存スヘク主權ノ行動ノ

發表ハ主權者ノ意志ニ反シテ二途ニ出ツルコトナキヲ以テ官府ノ地位ヲ定ムルノ原則ト爲ササルヘカラス主權ノ意志ノ成立ト發表トニ分チテ之ヲ考フレハ凡ソ官府ハ内ニ在リテ主權ノ意志ノ決定ヲ翼成スル者ト命ヲ奉シテ之ヲ外ニ向テ發表行使スル者トノ二種類アリ内ニ在リテ主權ヲ翼成スルノ官府アリト雖モ主權タル意志ノ決定ハ一ニ主權者ニ存セサルヘカラス若シ之ヲ抑制シ又ハ之ト共同シテ主權タル意志ヲ決定スルノ地位ニ在ランニハ自ラ主權者ノ一部ヲ構成スル者ニシテ官府ニ非ス外ニ對シテ主權ヲ發表スルノ官府ハ主權者ノ意志ニ反シテ之ヲ行使スルノ權能ヲ有スル者タルヲ得ス主權ハ唯一圓滿ニシテ其ノ發表ハ二途ニ出ツルコトヲ得サルナリ主權ヲ發表スルノ官府ハ皆主權者ノ一般又ハ特定ノ命令指揮ノ下ニ居ルヲ以テ其ノ本質ト爲ササルヘカラス帝國憲法ハ之ヲ明ニシラ天皇ハ憲法ノ條

規ニ依リテ、統治權ヲ行使スルモ、國ノ元首ニシテ、統治權ヲ總攬スル旨ヲ掲記セリ(第四條)。

主權者ト官府トノ關係ハ、自ラ官府相互ノ關係ヲ定ムル所以ナリ、多數ノ官府アルモ、主權者ノ主權者タル所以ヲ害ヒ、主權ノ唯一圓滿ヲ傷クルコトヲ得ス、政體法ハ官府ノ主權ニ對スル關係ヲ定ムルト共ニ、官府相互ノ關係ヲ定メテ、一定ノ秩序ニ從ヒ、其ノ意志ノ主權ニ歸一スルノ組織ヲ定ム、凡テノ官府ハ政體法ニ從ヒ、系統的ナル一團ヲ形成ス、各個ノ官府ハ、此ノ系統内ニ在リテ、一定ノ事務ヲ分擔スル者ニシテ、官府ハ主權者ノ命令ヲ待タスシテ、相互ニ命令シ從屬スルノ關係ニ居ルコト能ハス、官府ノ官府ヲ命令スルハ、溯テ歸スル所、一ニ主權者ニ淵源セサルヘカラサルナリ、故ニ主權ヲ外ニ發表スルノ官府ハ、主權ヲ唯一ノ源トシテ、上下ノ段階ヲ構成セサルヘカラス、而シテ主權ノ意志ハ唯一

ナルヘキカ故ニ、同一ノ事項ニ就テ、二個以上ノ官府カ、同一ノ效果ヲ有スヘキ主權發表ノ權能ヲ有スルコトアルヘカラス、之レ官府ノ權限ノ意義ニシテ、權限ハ衝突スヘカラス、一ノ官府ノ權限ト定メラレタル事項ハ、他ノ官府ノ權限ニ非サルナリ、内ニ在リテ主權ヲ翼成スルノ官府ハ、其ノ發表スル所、直ニ主權ノ行動ニ非サルカ故ニ、同一ノ事項ニ就テ二個ノ官府カ、等シク權限アルコトヲ妨ケス、蓋シ其ノ決定ハ一ニ主權者ニ存スレハナリ、要スルニ、官府相互ノ關係ハ、多種多樣ナルモ、主權ノ唯一圓滿ヲ害ハサルヲ以テ、其ノ地位關係ヲ定ムルノ原則ト爲スヘキナリ。

官府ハ意志ノ主體ナリ、法律上ノ人格ナリ、官府ハ政體法ノ定ムル所ニ從ヒ、或ル事ヲ爲シ得、又爲ササルヘカラサルノ、意志ノ力ヲ規律セラレタルノ意志ノ主體ナリ、一定ノ事項ニ付キ、一定ノ方法形式ニ依リ、一

定ノ效果ニ於テ、主權ヲ翼成シ、主權ニ屬スル行動ヲ爲スノ權利ト義務トヲ附與セラレタルノ意志ノ主體ナリ、之ヲ行フノ意志ハ、官府自己ノ意志ニシテ、他人ノ意志ニ非ス、例ヘハ帝國議會ハ議決シ、裁判所ハ判決ス、議決ト判決トハ、固ヨリ意志ノ活動ニシテ、其ノ主體ハ帝國議會タリ、裁判所タリ、官府ハ官府ニ對シテ命令シ相互ニ同意ヲ與ヘ、相互ニ訴訟ス、官府ハ法規ニ違反シ、權限ヲ超越スレハ、之ニ對シテ責任アリ、皆官府ノ意志ノ主體タル所以ナリ。

官府ト官府ヲ構成スル人トハ之ヲ區別セサルヘカラス、官府ノ職務權限ハ、之ヲ構成スル人ノ權利義務ニ非ス、官府ヲ構成スル人ハ、政體法ノ定ムル實質上形式上ノ意義ニ於ケル權限ノ範圍内ニ於テ官府タルノミ、之ヲ離レテハ官府ニ非ス、殊ニ官府ノ權限ト區別スヘキハ、之ヲ構成スル人ノ、官府タル地位ニ對シテ有スルノ權利ナリ、此ノ權利ハ官府

トシテ之ヲ有スルニ非ス、又官府ノ權限ヲ完全ニ行ハシムルカ爲メニ、其ノ人ニ負ハサレタル義務モ、亦官府ノ職務ト區別スヘキナリ、官府トシテノ行動ニ關聯シ、之ヲ構成スル人ノ負フ所ノ責任及制裁ヲ定メタル場合モ、之ヲ官府ノ責任ト區別スヘキナリ。

第二節 官府ノ種類

官府ハ之ヲ種々ニ分類スヘキモ、其ノ特ニ重要ナルハ、官府ノ意志カ如何ナル關係ニ於テ、主權ノ意志ヲ補助スルカノ區別ニ依ルモノナリ、官府ノ主權ヲ補助スルハ、内ニ在リテ、主權ノ意志ノ成立ヲ翼成スルト、外ニ對シテ、主權ノ意志ヲ發表スルトノ二種類アリ、前者ヲ翼成官府ト稱シ、後者ヲ發表官府ト云ハントス、翼成官府ハ政體法上主權者カ一定ノ意志ヲ確定成立スルニハ、一定ノ形式ニ依リ、一定ノ效果ニ於テ、一定

ノ官府ノ意志ヲ經ヘキコトヲ定ムルトキニ存ス、主權ノ行動トシテ、發表セラルルトキハ、此ノ官府ノ意志ハ外ニ見ハレズ、翼成官府ハ主權ト共同シ、又ハ主權ヲ拘制スル者ニ非ス、發表官府ハ包括的ニ、又ハ特別ニ、主權者ノ命ヲ奉シテ、外ニ對シテ、主權タルノ效果アルノ行動ヲ爲スノ官府ナリ、政體法ノ定ムル所ノ一定ノ範圍ノ事項ニ付キ、一定ノ形式ニ依リ、發表官府ノ發表スル所ハ、直ニ主權ノ意志トシテ有效ナルモノトセラル。

發表官府ノ主權者ノ命ヲ奉行スルハ、直接ナルアリ、間接ナルアリ、間接ナルハ、序ヲ逐フテ、官府ヨリ、官府ニ傳ヘ、上ハ終局主權者ニ歸スルノ關係ニ居ラサルヘカラス、是ニ於テ、發表官府ニ上級官府ト下級官府トノ區別ヲ生ス、上級官府ハ下級官府ニ對シ命令スル權限アルノ官府ナリ、凡テ發表官府ハ主權ヲ唯一ノ元首トシテ、上下ニ秩序整然トシテ、一

ニ歸スルノ、系統的組織ヲ成セリ。

官府ノ一部ヲ構成スル人又ハ人ノ團體ニシテ、場合ニ依リ、自ラ一個ノ官府タルアリ、部分官府ト名ツケントス、其ノ他官府ヲ構成スル人ヲ定ムル方法ノ異ルニ依リ、選舉官府ト任命官府トヲ分ツヘク、其ノ擔任スル事務ノ異ルニ依リ、立法官府、司法官府、行政官府ヲ區別スルハ、立憲政體ノ組織上必要ナル所ナリ、又憲法ニ於テ定メラレ、憲法ヲ改正スルニ非サレハ、之ヲ廢止スルコトヲ得サル者ヲ、憲法上ノ官府トシテ、他ノ官府ト區別スヘク、一人ヲ以テ構成スルト、數人合議ノ組織ヲ有スルトニ依リ、獨任制ノ官府ト、合議制ノ官府トヲ區別スルモ、亦重要ノ意義ヲ有ス。

第三節 官府ト機關

官府ハ通常之ヲ機關ト稱ス、機關ハ本、道具用器ノ意ニシテ、又人體各部ノ官能ヲ具フル部分ヲ指稱スルノ語ナリ、國家法人說ハ之ニ比ツラヘテ、法人タル國家ハ自然ニ意志ヲ有セサルカ故ニ、國家ヲシテ意志アラシムルノ自然人ヲ要ス、機關ハ其ノ意志ヲ以テ、國家ノ意志ナリトスル自然人ナリト説ケリ、故ニ國家ノ機關ト云フハ、官府ノミナラス、我カ國ニ在リテ天皇モ亦機關ナリト爲ス。

天皇ヲ國家ノ機關ナリトスルノ當ラサル、國家法人說ノ根據ナキコトハ、既ニ之ヲ説キタリ、國家ヲ法人ニ非ストスレハ、機關ノ概念モ、亦採用スヘカラサルハ云フマテモナシ、天皇ハ國家ノ機關ニ非サルノミナラス、官府モ亦國家ノ機關ニ非ス。

國家法人說ハ天皇モ機關タリ、諸種ノ官府モ亦機關ナリトスル雖モ、天皇ト官府トハ同一性質ヲ有スル同一種類ノ者ニ非ス、天皇ハ國家ト共ニ存立シ、天皇無ケレハ國家モ亦無キノ關係ニ居ル者ナリ、之ト異リ、官府ハ皆國家アルヲ基礎トシテ存立シ、天皇ノ統治權行使ノ爲メニ用ユルノ人又ハ人ノ團體タリ、國家法人說ノ機關ノ本質ヲ説明スル、機關トハ本體ト共ニ存シ、機關無ケレハ法人ノ意志有ルコトヲ得ス、機關ノ背後ニハ、何者モ存セス、機關ヲ取り去レハ國家モ亦無シト云ヒ、故ニ天皇ハ國家ノ機關ナリトス、然ラシニハ、官府ハ全ク之ト性質ヲ異ニシ、機關タル性質ヲ有スル者ニ非スト爲ササルヘカラス、若シ反對ニ官府ヲ機關ト稱セントスルナラハ、天皇ノ如キ、法人說ニ所謂ル固有自立ノ存在ヲ有スル者ハ機關ニ非スト爲ササルヘカラス、本來人體ヲ離レテ存在シ、人ノ使用スル道具用器ト、人體ノ一部タル機官トハ、全然其ノ性質

ヲ異ニスルモノタリ、之ヲ混同シテ機關ト云フハ、誤謬ノ本ツク所ナリト云ハサルヘカラス、故ニ國家法人說ハ直接機關ト間接機關トヲ區別シ、國家ノ存立ト共ニ、本質上當然無カルヘカラサル者ヲ直接機關ト爲シ之ト區別シテ、特ニ直接機關カ之ヲ設置スルニ依リテ存在スル者ヲ間接機關ト爲セリ、然レトモ此ノ區別ハ、同一種類中ノ小分類ニ非ス、機關無ケレハ國家モ亦無ク、國家ノ意志ナルモノアルコトヲ得サル所謂ル直接機關ヲ以テ機關ナリトスレハ、所謂ル間接機關ハ、之ヲ機關ト爲スコトヲ得ス、又若シ間接機關タル官府ヲ機關ナリトスレハ、所謂ル直接機關タル天皇ハ機關ニ非ス。

天皇モ官府モ共ニ國家ノ機關ナリトスル說ニ在リテハ、天皇有ルト否トハ、官府ノ組織ノ問題ト區別セラルルコトナク、等シク政體ノ區別ナリトス、然レトモ官府ハ天皇ノ統治權ノ行使ノ爲メニ、特ニ設ケラル

ルニ依リテ存在スル者ニシテ、國家ノ存立ト相關スルコトナシ、官府ノ組織ヲ改ムルノ改革ハ、國家ノ革命ニ非サルナリ、國體ト政體トノ區別ハ、理論上明確ナラサルヘカラスシテ、天皇ヲ官府ト同一種類ニ屬スト爲スコト能ハス、況ンヤ、論者ノ國會ヲ以テ、天皇ト共ニ直接機關ナリト爲スハ、民主共和ノ國體ヲ以テ、我ニ擬スルモノニシテ、明白ニ之ヲ排斥セサルヘカラサルナリ。

國家法人說ニ在リテハ、機關ハ法律上ノ人格ニ非ス、機關ハ意志ヲ有セサル者ナリト爲スナリ、然レトモ帝國議會ノ議決シ、裁判所ノ判決シ、官府相互ニ同意シ、承諾シ、相互ニ訴訟スルハ事實ナリ、然ルニ之ヲ意志ヲ有セスト爲スハ何故ナルカ、其ノ說ニ曰ク、機關ハ自己ノ目的又ハ利益ノ爲メニ行動スル者ニ非ス、其ノ目的又ハ利益ハ國家ノ目的又ハ利益ナリ、從テ其ノ意志ハ國家ノ意志ニシテ、機關ノ意志ニ非スト爲ササ

ルヘカラスト、國家法人説ハ、本來國家ナル法人ニ意志ナシ、故ニ意志アル自然人ヲ要ス、其ノ意志ヲ以テ、法人ノ意志トスル自然人ハ、國家ノ機關ナリトス、サレハ機關ノ意志ヲ具フルノ事實ハ、法人説モ之ヲ認ムルナリ、而シテ之ヲ意志ナシトシ、本來意志ナシトスル國家ニ意志アリトスルハ、目的又ハ利益ノ存スル所ニ、意志アリトセサルヘカラスト爲スニ由ル、然レトモ意志アリテ、之ヲ定メテ自己ノ目的トスルナリ、意志ナキニ目的アリテ、然ル後ニ意志アリトハ考フルコトヲ得ス、而シテ其ノ目的ハ個人的ナラサルモ、利己的ナラサルモ、苟クモ自ラ定メテ、之ヲ行フハ、皆自己ノ目的ナラサルハナシ、官府カ意志ヲ有スルノ事實ハ之ヲ否認スルコトヲ得サル以上ハ、其ノ行フ所ハ、又官府ノ目的ナリト爲ササルヘカラスト、官府ノ之ヲ行フ、一ニ國家國民全體ノ利益ヲ企圖スヘキハ當然ナリ、國家ノ爲メニ、天皇ノ命スル所ノ職務ヲ行フハ、官府ノ目的

ニ非スシテ何ソヤ、意志アル官府ノ意志ヲ奪テ、之ヲ官府ノ意志ニ非ストセサルヘカラストノ根據ハ、毫モ之アルコトナキナリ、或ハ自然ノ意志ト法律上ノ意志トヲ區別シテ、機關ニ法律上意志ナシトスル者アルモ、意志ニ此ノ如キ區別アルコトヲ認ムルコト能ハサルナリ、又官府ニ意志ナク、其ノ意志ハ皆國家ノ意志ナリト爲ササルモ、主權ノ行動ノ歸一ヲ害フモノニ非ス、政體法ハ官府ノ組織ヲ定メ、數多ノ官府ノ意志ヲ規律シ、之ヲ統一シテ、主權ノ唯一圓滿ヲ害ハサルノ系統ヲ構成ス、此ノ系統組織アレハ足レリ、官府ノ意志ヲ悉ク滅盡スルニ非サレハ、主權ノ行動ノ歸一ヲ見ルコト能ハスト爲スニ足ラサルナリ、官府ハ各、自己ノ意志ヲ以テ相對立ス、立憲政體ハ官府ノ意志ノ交錯シテ相節制スルヲ以テ、其ノ妙用トスルノ政體ナリ、官府ハ相互ニ同意シ、承諾シ、拒否シ、訴訟ス、之ヲ皆唯一國家ノ意志ナリトスレハ、毫モ之ヲ説明スルコトヲ得

ナルナリ、國家法人説ハ、機關ヲ以テ、意志ノ主體ニ非スト爲スノ結果、政體法ノ法タルヲ否認スルハ、其ノ當然ノ結論ナルモ、政體法ノ官府ノ交錯セル意志ヲ規律スルノ事實ヲ無視スルモノナリト云ハサルヘカラス。

機關ハ意志ノ主體ナルモ、目的ノ主體ニ非スト云フ者アリ、然レトモ、既ニ之ヲ意志ノ主體ナリトスレハ、何故ニ目的ノ主體ニ非スト爲スヤ、目的ナキノ意志ヲ有ストハ如何ナル意ナリヤ、其ノ目的ハ皆國家ノ目的ナリト云フハ、官府ノ相互ニ自己ノ目的ヲ以テ相對立スルノ事實ニ反スルノミナラス、官府ハ目的ノ主體ニ非スシテ、國家ハ目的ノ主體ナリトスレハ、意志ノ主體ト目的ノ主體トヲ分離スヘシト爲スカ、或ハ國家ハ目的ト意志ノ主體ナリ官府ハ意志ノミノ主體ナリト爲ササルヘカラサルニ陥ル、而シテ國家ノ意志トハ即チ官府ノ意志ナリト爲スハ、支離滅裂捕捉スヘカラスト云ハサルヘカラス。

第八章 帝國議會

帝國憲法ハ帝國議會ヲ置キ、立法權ニ協贊シ、其ノ他重要ノ國務ニ就テ、天皇ヲ翼成スルノ官府ト爲ス、其ノ一部ヲ臣民一般ノ公選ニ依リテ組織スルモノトシ、多數ノ議員ヲ以テ構成スルノ合議官府タリ、帝國議會ハ固ヨリ我カ國ニ於テ、主權者タル人民ヲ代表スル者ニ非ス、然レトモ、臣民翼贊ノ實ヲ舉クルノ、最モ有效ナル方法タリ、立憲政體ノ機能ハ、主トシテ帝國議會ヲ中心トシテ行ハル。

第一節 帝國議會ヲ置クノ趣旨

其ノ一部ヲ公選ニ依リテ組織スルモノトシ、多數ノ議員ヲ會同合議シテ、國務ニ參與スルノ天皇ノ官府タル帝國議會ヲ置クハ、我カ國未曾有ノ制度タリ、我カ政體ハ幾多ノ變革ヲ經タリト雖モ、帝國議會ノ如キ

組織ヲ有スル官府ヲ設クルハ、憲法ノ制定ヲ以テ最初トスルノ新制度タリ。

帝國議會ヲ置クノ趣旨タル、要スルニ、之ニ依リテ最モ善ク統治ノ目的ヲ達セントスルノミ、特ニ何等ノ新奇別殊ナル趣旨精神ニ出ツルモノニ非ス、其ノ形式ハ新シト雖モ、其ノ精神トスル所ハ、建國ト共ニ古ク祖宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ、之ヲ紹述スルニ外ナラス、國家ノ基礎ヲ鞏固ニシ、民生ノ幸福ヲ増進センカ爲メニ、時勢ノ進歩ニ伴ヒ、文化ノ發達ニ應ジテ、新シキ方法制度ヲ樹ラレタルノミ、統治ノ目的ハ唯一ナルモ、時ニ隨ヒテ、自ラ異ルノ方法ナカルヘカラス、之レ政體ノ變革アル所以ニシテ、帝國議會ヲ設クルノ理由モ亦此ノ外ニ在ラサルナリ。

時勢ノ變遷ニ應ジ、文明ノ進運ニ合シ、新シキ制度ヲ設ケ、統治ノ方法ヲ改ムルハ、明治維新以來ノ大方針ニシテ、五ヶ條ノ御誓文ハ、明治新政

ノ劈頭ニ於テ、之ヲ煥發シタルモノナリ、其ノ首ニ、廣ク會議ヲ起シ萬機公論ニ決スヘシト云ヘルハ、既ニ早ク後ノ國會開設ノ宏謨ヲ決定シタルモノナリ、爾來此ノ大方針ニ本ツキテ、着々トシテ改革ヲ行ヘリ、明治ノ初年以來屢、會議體ノ官府ヲ置ケリ、初メ慶應四年議定官ヲ置キテ政務ヲ議定セシメ、以テ明治元年ノ政體書ハ議政官ヲ置クコトヲ定メ、議政官ハ上下二局トシ、上局ニ議定、參與、史官ヲ置キ、下局ニ議長及議員ヲ置キ、議員ハ公卿及貢士徵士ヲ以テ之ニ充テ、諸官四年ヲ以テ交代シ、公選人札ノ法ヲ用ユヘキ旨ヲ定メタリ、二年公議所ヲ開キテ下局ニ代ヘ諸藩士ヲ徵集シテ、議員ト爲ス、同年待詔局ヲ置キ、廣ク意見ヲ上申セシム、後公議所ヲ改メテ、集議院ト稱セリ、廢藩ノ後、之ヲ太政官ノ左院ニ屬セシメラル、左院ハ議長議員ヲ置キ、法制ヲ議定スル所タリ、八年地方官會議ヲ開キテ、他日衆議院ヲ設クルノ準備ト爲シ、又元老院ヲ設ク、十四

年ノ國會開設ノ詔勅ハ、之ヲ集成セルモノニシテ、遂ニ憲法ヲ制定シ、立憲政體ヲ樹テ、帝國議會ヲ置クニ至レルナリ。

人民公選ノ官府ヲ設ケテ、統治ノ目的ヲ達スルノ、益々有效ナルコトヲ期スルコトヲ得ト爲スノ理由ハ、要スルニ憲法發布ノ御告文ニ所謂ル、臣民翼贊ノ道ヲ廣ムルニ在リ、臣民ハ天皇ヲ翼贊スルヲ以テ其ノ本分ト爲シ、精神身體ノ能力ノ全部ヲ盡クシテ、天皇ニ奉公ス、憲法ノ制定セララルヤ、特ニ翼贊ノ效果ヲ舉ケシムルカ爲メニ、義務ヲ命シ、權利ヲ附與シタルモノアルハ、前ニ之ヲ説ケリ、臣民一般ノ公選ニ依リテ、官府ヲ組織セシメ、多數ノ議員議決シテ、大政ヲ輔翼スルハ、時勢ノ進歩、文明ノ發達ニ應シ、臣民翼贊ノ道ヲ廣メ、統治ノ目的ヲ達スル、最モ有效ナルヲ得ル所以ナルハ言ヲ俟タス、凡ソ國民ノ實力ヲ吸取シテ、統治ノ大業ヲ成スニ資スルハ、政體ノ組織ノ根本主義トスル所ニシテ、古來政體ノ

變革皆之ヲ眼目トスト雖モ、明治ノ維新ハ、天皇ノ親政ヲ復シ、國民全體ノ力ヲ舉ケテ、之ヲ天皇ノ御威德ニ合セントスルヲ、其ノ最モ重大ナル意義ト爲ス、帝國議會ノ設ハ、此ノ大方針ヲ大成スルモノニシテ、依テ以テ、統治ノ大業ヲ益々顯揚センコトヲ期スルヲ以テ、其ノ趣旨ト爲ス。

官府組織ノ方法ハ、古代ニ世襲制度行ハレ、中古以來任命主義行ハレタリ、明治ノ新政ハ、主トシテ大化ノ制ニ倣ヒ、天皇ノ官府ヲ構成スルノ人ハ、天皇之ヲ任命スルモノト爲シ、依テ以テ臣民一般ノ中ヨリ、普ク人材ヲ登用シ、其ノ實力ヲシテ統治ノ上ニ働カシムルニ於テ、遺憾ナキヲ期スルヲ得タリ、然レトモ、更ニ此ノ上ニ、臣民ヲシテ權利トシテ進ンテ自ラ適材トスル所ヲ選舉セシメ、多數臣民ノ指サス所ノ人ヲ以テ、官府ヲ構成セシムルトキハ、其ノ人タル自ラ多數ノ人望ヲ負フノ人ニシテ、人民間ノ希望、不平、事情、思潮ニ通曉シ、實際ニ適切ニ、天皇統治ノ作用ヲ

翼賛シテ、其ノ效果ヲ發揮セシムルコトヲ得ヘキハ、期シテ待ツヘキナリ、公選ニ當ルノ人ハ、自ラ任命ニ依ルノ人ト別種ノ人タルヘク、各種ノ人ヲ併ハセ用キテ、一層有效ニ統治ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシト爲スモノ、マタ帝國議會ヲ設クル所以ノ趣旨タリ。

帝國議會ヲシテ、政府、裁判所ト相對シ、立法權ニ協賛スルノ官府タラシムルハ、固ヨリ之ヲ三權分立ノ組織ノ要素タル官府トスルナリ、其ノ構成ニ於テ、行政司法ノ諸官府ト異ナルモノアリ、法律ヲ制定スルハ、ヒトリ帝國議會ノ協賛ニ依ルモノト爲シ、帝國議會ノ協賛ナケレハ、法律ヲ制定スルコトヲ得ス、一定ノ事項ハ必ス法律ヲ以テ之ヲ規定セザルヘカラスト爲スニ於テ、三權分立ニ於ケル立法權ノ地位確保セラル、又國家ノ歲出歲入ノ豫算ハ、帝國議會ノ協賛ヲ經サレハ、之ヲ定ムルコトヲ得サルモノトシ、行政ニ對シ、議會ハ之ヲ監督スルノ實效アラシム、法

律及豫算案ヲ修正シ、否決シ、政府ノ行動ヲ批評シ、質問シ、意見ヲ述フルノ權能ヲ有スルハ、立憲政體ノ作用タル、監督節制シテ平衡中庸ヲ得セシムルコトヲ期スル所以ナリ。

第二節 帝國議會ノ性質

帝國議會ハ、天皇ノ官府タリ、主權者タル人民全體ヲ代表シテ、主權ヲ行使スルト云フノ、民主國ニ於ケル國會ノ地位ハ、我カ帝國議會ノ地位ニ非ス、之レ我カ國體上當然ナルコトナリ、凡ソ帝國議會ハ我カ國ニ於テハ、憲法ヲ以テ新ニ設クルノ制度ナリト雖モ、西洋諸國ニ在リテハ、其ノ沿革古クシテ、一朝統治ノ目的ヲ達スルノ便宜ノ爲ニ設クル所ノ官府ニ非ス、人ノ云フカ如ク西洋ノ國會ハ國王ヨリモ古ク、國王ノ時勢ノ一時ノ變ニ依リテ、偶然發生シタルモノナルニ反シ、建國ノ本質ニ屬シ

テ離ルヘカラサルノ存在タリ、西洋建國ノ精神カ、民主共和ニ在ルコトハ前ニ説ケリ、民主ノ純粹ナルハ、人民全體相會合シテ、國事ヲ決定スルニ在ラサルヘカラス、古代ギリシあ及ろまニ在リテ、苟クモ自由人タル者ハ、皆國事ニ參議スルノ權ヲ有スルモノナリトセラレタル所以ナリ、又古代けるまに人ハ、國事ハ凡テ人民全體ノ集會タル民會ニ於テ決定セリ、此ノ如キ制度ハ、今日ニ於テモすゐすノ二三ノ小國ニ行ハル、之ヲ所謂ル直接民主ノ制度ト爲ス、之レ民主國ノ純粹ナルモノニシテ、民主ノ理想トスル所ハ、直接民主ニ存セサルヘカラス、然レトモ、人民全體會合シテ、國事ヲ評議決定スルハ、廣漠ナル面積ヲ有シ、數千萬ノ人口ヲ數フル大國ニ於テ、之ヲ行フハ事實上不可能ナリ、故ニるそらノ直接民主ニ非スンハ、眞ノ民主ニ非スト爲スヤ、大國ニ於テハ、民主國家ハ、實行スルコトヲ得スト爲セリ、之レふらんす革命ノ當初、國民會議ノ蓬着セル、

民主制ノ根本ニ關スル難問ニシテ、國民會議ハ主トシテ彼ノしゑいすノ説ニ從ヒ、人民ノ選舉ニ依リテ成立スルノ國會ヲ以テ、主權者タル人民全體ヲ代表スル者ニシテ、代表者ニ依ルノ政治ハ、即チ人民全體ノ政治ナリト爲シ、所謂ル間接民主又ハ代表民主ノ制ヲ以テ、純粹ナル民主制ニ代ヘ、國會ハ即チ主權ヲ行使スル者ナリト爲セリ、其ノ理論ノ當否ハ兎ニ角トシテ、之ヲ民主國ニ於ケル國會ノ地位ト爲ス、我カ帝國議會ハ固ヨリ主權者タル天皇ノ官府ニシテ、自ラ主權者ニ非ス、西洋諸國ノ國會ト全然其ノ根本ノ性質ヲ異ニスルハ言ヲ俟タサルナリ。

故ニ帝國議會ハ、國家法人説ニ所謂ル直接機關ニ非ス、民主國家ニ在リテハ、國會ハ國家ト存立ヲ共ニシ、國家アルト共ニ當然存在スルノ、必要ナル直接機關タルノ性質ヲ有スト雖モ、我カ帝國議會ハ天皇カ憲法ヲ以テ、特ニ設クルノ官府ニシテ、帝國議會ナシト雖モ、日本國家ノ國家

タル存在ヲ害スモノニ非ス、議會ノ職務權限ハ憲法ニ依リ、天皇ノ之ヲ命シ、之ヲ附與スル所ニシテ、獨立固有ノ存在ヲ有シ、本來議會ニ屬スヘキ權能ヲ有スル者ニ非ス、議會ハ直接機關ニシテ、天皇ニ對立シ、天皇ト同一ノ性質ヲ有スルト爲スハ、我カ國體ヲ紛更スルノ論タリ、天皇ハ國家ト終始ス、帝國議會無キモ主權ハ缺クルコトナク、國家ハ不具ニ非サルナリ、或ハ之ヲ廢止スルトモ、政體ノ變革ニシテ、國家其ノ者ノ存立ト相關スルコトアルコトナシ。

帝國議會ハ天皇ノ官府タリ、我カ國ニ於テハ、如何ナル官府ト雖モ、皆天皇ノ官府ニシテ、國家法人說ニ所謂ル直接機關タル性質ヲ有スルハ、天皇ノミニニシテ、議會モ亦間接機關タリ、西洋諸國ニ於テ國會ハ國王ノ機關ニ非ス、國王ト相對立シテ、國王ヲ控制スト爲スハ、其ノ成立ノ沿革ト國家ノ性質ヨリ見テ當然ナリ、歐羅巴ノ中世ニ在リテ、國家ハ所謂ル

双頭國家ニシテ、國王ハ等族ト相對立セリ、故ニ等族ノ代表者ヲ會合セル等族會議ハ、國王ト頭ヲ並ヘテ、國王ヲ制限スルノ權能ヲ有スル者ト見ラレタリ、後等族會議ハ國民全體ノ代表者タル國會ニ變形セリト雖モ、專制國王ニ對抗シ、國王ト利害相反スル人民ヲ背後ニ負ヒテ、國王ト爭衡スルヲ以テ、其ノ存在ノ理由ト爲シ、其ノ當然ノ性質ト爲セリ、我カ帝國議會ヲ置クノ趣旨、之ト根本的ニ異リ、從テ其ノ性質ノ同一ナラサルハ言ヲ俟タス、日本臣民ハ天皇ト相反スルノ利害ヲ以テ對抗スルノ相手方ニ非ス、天皇ヲ離レ、天皇ノ官府ニ非スシテ、人民ノ機關トシテ、天皇ヲ控制スルヲ以テ、帝國議會ノ性質ト爲スヘカラサルハ、我カ國體ノ當然ナリ。

帝國議會ハ人民全體ヲ代表スル者ニ非ス、代表民主制ハ西洋近代ノ民主國カ、大國ニ於テ民主制ヲ純粹ニ實行スルノ不可能ナルカ爲メニ、

已ムテ得ス法制上ニ作り出タシタルノ擬制ナリ、代表ノ思想ノ起原ハ中世ニ在リ、中世ニ於テハ、諸方面ニ代表ノ思想ヲ見タリ、例ヘハ羅馬法王ハきりすとノ代表者ナリト云ヒ、國王ハ人民ノ代表者ナリ、又ハ長老會議ハ全耶蘇教徒ノ代表者ナリト云ヘルカ如シ、國會ノ前身タル等族會議ハ、國王ト對立スル等族ノ代表者ト見ラレタルナリ、等族ハ國王ト對等ナル相手方ニシテ、國王ハ之ニ對シテ命令強制ノ權力アルニ非ス故ニ國王カ等族ヨリ金錢上ノ助力ヲ受クルノ必要アルカ如キ場合ニハ、必ス其ノ承諾ヲ得サルヘカラス、然レトモ、等族ニ屬スル人ハ皆各々出席シテ承諾ヲ與フルコト能ハサルカ故ニ、代理人ヲ定メテ、之ニ一定ノ委任ヲ與ヘ、其ノ意志ヲ發表セシメタリ、之レ政治上ノ代表會議ノ起原ニシテ、代表トハ、代表セラルル各人ハ出席セサルモ、皆出席シタルト同一ニ看做スト云フノ、法律上ノ構成ナリ、此ノ如キ代表ノ思想ハ、政治

上ニ於テ特ニいざりすニ於テ發達シ、等族會議タル國會ハ、國王ニ對シ租稅即チ金錢ヲ寄附スルコトヲ承諾スルモノニシテ、國會ニ於テ、各人ハ代表セラル、各人ハ自ラ出席シ、自ラ承諾ヲ言明シタルト同シク、金錢ヲ支拂フノ義務アリトセラレタリ、而シテいざりすハ大陸諸國ニ於ケルヨリモ早ク統一シタルカ故ニ、夙ニ貴族平民ノ代表者ヲ會合スル國會ハ、全國民ヲ代表スルモノト見ラルルニ至レリ、第十三世紀ニ於テ、既ニ云どわるど第一世ノ所謂ル模型國會ハ、全國民ヲ代表スルモノトセラレ、第十六世紀ニ至テハ、明ニ各人ハ國會ニ於テ代表セラルルモノト見タリ、此ノ代表ノ思想ハ、もんですきゆうノ議論及ふらんす革命ニ依リテ、大陸ニ移リ、皆いざりすノ代表制度ニ倣ヘリ、然レトモ代表ノ思想タル、唯タ少數ノ人ヲ代表セラルル多數ノ人ト同一ナリト看做スト云フニ止マリ、事實ニ非ス、又被代表者ト代表者ト、如何ナル論理的ノ連結

アリテ之ヲ同一ナリトスルカノ根據アルニ非ス、故ニ最モ徹底セル民主主義者タルるを以テ、代表制度ヲ以テ民主主義ト相容レサルモノナリト爲シ、人ハ他人ニ代テ欲シ又ハ思考スルコトヲ得ルモノニ非ス、いざりす人ハ自ラ自由ナリトスルモ、代表者ヲ選舉スルト共ニ既ニ自由ヲ失ヘリト云ハサルヘカラス、人民ニ屬スル主權ハ讓渡スヘカラス、從テ代表セラルヘキモノニ非ス、人民ノ自ラ同意セサル法律ハ人民ノ意志ニ非ス、代表制度ヲ行ハハ、其ノ國ハ最早ヤ民主國ニ非スト云ヘルハ、理義貫ケリト云ハサルヘカラス、然レトモ、直接民主制ハるを以テ自ラモ之ヲ認メタルカ如ク、大國ニ於テ實行スルコトヲ得ヘカラス、故ニ理論ノ當否ハ兎ニ角、已ムヲ得ス代表制度ヲ採用セサルヘカラスナリ、ふらんす革命ノ國民會議ハ、主トシテしゑいすノ主張ニ依リ、代表制ニ依リテ、人民主權ノ憲法ヲ制定シタルモ、之ヲ理論上辯明シ得タルニ非ス

國會ハ人民全體ノ代表者ナリト看做シ、之ヲ擬制スルノミ、蓋シ代表トハみらばうノ云ヘルカ如ク、國會ヲ以テ人民ノ縮圖ナリトスルニ止ラス、法律上國會ハ人民全體ト同一ナリトスルモノナレハナリ、故ニふらんすニ於テハ、其ノ民主ノ議論ニ合ハサルヲ憂ヘ、屢々るを以テ説ニ從ヒ人民投票ノ制度ヲ採用シ、すゐす、北あめりか合衆國等ニ於テハ、人民投票ノ制度ヲ實行セルモ、多數ノ國ニ於テハ、一般ニ國會ヲ以テ人民全體ノ代表者ナリト爲シ、諸國憲法ニ之ヲ言明セルモノアリ、然レトモ、之ヲ理論上完全ニ説明スルハ、學者ノ困難ナリトシタル所ニシテ、其ノ初ニ在リテハ、國會議員ハ、人民ノ委任ヲ受ケタル者ナリト論セラレタリト雖モ、實際人民ハ委任ヲ爲スコトナク、殊ニ多クノ憲法ハ、人民ノ國會議員ニ向テ委任シ訓令スルコトヲ禁シタリ、故ニ今日ニ在リテハ、學者ハ一般ニ代表トハ法律上ノ概念ニ非ス、人民全體又ハ選舉人ト國會議

員トノ間ニハ何等法律關係ヲ生スルモノニ非スシテ、代表ト云フハ唯
 タ政治上ノ意義ヲ有スルニ止マルト説明スルヲ常トス、或ハ之ヲ法律
 上ノ概念ナリト説明セントスル者アリト雖モ、其ノ主張ノ要點ハ歸ス
 ル所、國會ノ意志ハ人民全體ノ意志ナリト看做サルト云フニ過キス、人
 民全體ナル者カ意志ヲ有シ得サルコトモ、選舉ハ人民全體ト國會議員
 トノ間ニ、何等カノ法律關係ヲ生スヘキ、法律行為ニ非サルコトモ、凡テ
 之ヲ認ムルナリ、要スルニ、其ノ説タル、之ヲ一種ノ擬制又ハ法律上ノ構
 成ト爲ササルヘカラスト云フニ歸ス、若シ人民ヲ以テ主權者ナリトシ
 人民ノ主權ヲ行使スル國會アリト爲ササレハ、民主ノ國體ヲ維持スヘ
 カラサルカ故ニ、法律上之ヲ擬制シ又ハカク看做ストスルナラハ、西洋
 諸國ノ制度ノ説明トシテ、止ムヲ得スト爲シテ之ヲ認容スヘキモ、我カ
 國ノ如ク、國法上帝國議會ノ議決ハ人民全體ノ意志ノ發表ナリトスル

擬制又ハ法律上ノ構成ノ認ムヘキモノナキニ、帝國議會ハ人民全體ノ
 代表者ナリト爲スヘカラサルハ云フマテモナシ、我カ國ニ於テ、人民全
 體ハ主權者ニ非ス、帝國議會ノ權限タル法律案豫算案ニ協賛スルハ、人
 民全體ノ有スル權能ニ非ス、本人ノ有セサル權能ヲ代行フト云フコ
 トアリ得ヘカラサルナリ、殊ニ況ンヤ人民全體ナル者ハ、如何ナル國ニ
 於テモ、唯一意志ヲ有スルノ主體ニ非ス、投票ハ國法ニ依リテ、議
 員タルヘキ人ヲ指定スルノ行為タルニ止マリ、投票ノ結果多數ヲ得タ
 ル者カ議員タルノ選舉ハ、投票者ト當選人トノ間ニ、意志ノ連結ヲ生ス
 ヘキ法律行為ニ非サルオヤ、固ヨリ我カ國ニ於テ、帝國議會ノ一部ヲ人
 民ノ公選ニ依ルモノト爲セルハ、其ノ趣旨タル、人民ノ輿望ヲ負ヘル者
 ハ、能ク人民間ノ不平希望事情思潮ニ通シ、之ヲ以テ國務ニ參與翼賛ス
 ルコトヲ得ヘシト爲スニ在リテ、政治上輿論ヲ國政ノ上ニ反映シ、人民

全體ノ利害ヲ十分ニ參酌シ、人民全體自ラ統治ヲ翼賛スルカ如クニ、議會ニ依リテ、臣民翼賛ノ實效ヲ擧ケントスルハ、帝國議會ヲ置クノ精神タリ、其ノ實際上ノ妙用效果タルヲ疑ハス、之ヲ帝國議會ノ憲政上重要ナル地位ヲ占ムル所以ナリト爲スヘキモ、法律上ノ概念トシテ、其ノ議決ハ人民全體ノ意志ナリ、議會ハ人民全體ヲ代表スル者ナリト爲スコトヲ得サルナリ。

帝國議會ハ天皇ノ官府ナリ、獨立固有ノ存在ヲ有スル者ニ非スシテ、天皇ノ意志ヲ基礎トシ、憲法ニ由リテ存在ス、從テ其ノ權能ハ、一ニ憲法ニ依リ、天皇ノ定メタマフ所ニ依ル、帝國議會トシテ、獨立固有ノ權能ヲ有スルコトナシ、之ヲ主權者タル人民ノ代表者ト爲スノ理論ヲ引用シ、又ハ西洋諸國ニ共通ナルノ故ヲ以テ、憲法之ヲ定メサルニ、議會ノ權能アリト爲スヘカラサルナリ、消極的ニ議會ノ權限ニ屬セスト定メラシ

タル事項ノ外ハ、議會ハ凡テ之ヲ行フコトヲ得ト爲スカ如キハ、我カ議會ノ地位ニ非ス、議會ハ憲法上明ニ議會ノ權限ナリト、積極的ニ定メラレタル事項ニ限り、其ノ權限トセラル、而シテ其ノ事項ハ同時ニ議會ノ之ヲ行ハサルヘカラサルノ職務タリ、之ヲ行フノ方法形式モ、亦憲法ノ定ムル所ニ依ルヘク、此ノ方法形式ニ依ラサルノ行動ハ、帝國議會ノ行動トシテ認メラルヘキモノニ非ス。

帝國議會ハ翼成官府ナリ、外ニ向テ、臣民ニ對シ、直接ニ主權タルノ效果アル意志ヲ發表スルノ發表官府ニ非ス、内ニ在リテ、天皇ノ統治權ヲ翼成スルノミ、議會ノ議決ハ、種々ノ效果ニ於テ、天皇ニ對シ、一定ノ官府ニ對シテ、行ハルルモノニシテ、如何ナル場合ニモ、議決ノミヲ以テ、其レタケニテ統治權ノ行使トシテ成立スルモノニ非ハ、帝國議會ヲ通常立法府ト云フモ、議會ハ天皇ノ立法權ヲ行フニ對シ、内ニ在リテ之ニ協賛

スルノミ、議會自ラ立法スルニ非ス。

帝國議會ハ合議體ノ官府ナリ、其ノ意志ハ議決ニ依リテ發表セラル、帝國議會ハ常設ノ官府ニ非ス、一定ノ時期ヲ限リテ成立スル者タリ、議決ノ方法及効果、成立ノ方法時期等ハ、別ニ之ヲ説明セサルヘカラス、議會ハ又憲法上ノ官府ナリ、憲法ヲ改正スルニ非サレハ、之ヲ廢止スルヲ得ス、又其ノ權限ヲ改ムルコトヲ得サルナリ。

第三節 帝國議會ノ構成

帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ構成ス(第三十三條、貴族院ハ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス(第三十四條、衆議院ハ臣民ノ一般ニ公選シタル議員ヲ以テ組織ス(第三十五條)。

兩院ヲ以テ國會ヲ構成スルハ、いざりすニ於テ起レル所ナリ、近世國

會ノ起原ハ等族會議ナリ、大陸ニ於テハ、初メ各等族ハ各別ニ集會スルコト行ハレタリ、いざりすニ於テ、貴族ノ會議ヲ擴張シ、平民ノ代表者ヲ會合スルニ至ルヤ、所謂ル庶民コンモンズハ貴族ト別ニ會議ヲ開ケリ、此ノいざりすニ於テ、別段ノ理論ニ本ツクニ非ス、沿革的ニ事實トシテ存在スル制度ヲ理論化シタルモノハもんですきゆうニシテ、もんですきゆうハ二院制度ヲ以テ、容易ニ動搖スルノ傾向アル民選會議ニ對シ、之ヲ堰キ止ムルカ爲メニ、保守恒定ノ傾向ヲ有スル上院ヲ置クハ、節制シテ中庸ヲ得ルノ妙用ヲ爲スモノナリトシ、之ニ依リテ立法ノ内部ニ、君主ト上院及下院ノ三者相對立シテ、互ニ均衡ヲ保チ、君主、貴族及民主ノ三國體ヲ調和混合スルコトヲ得ヘシト爲セリ、之ヨリ二院制度ハ近世諸國ニ普ク行ハルルニ至レルナリ、北あめりか合衆國ハ最初ニもんですきゆうノ說ヲ採用シ、二院制度ヲ行ヘリ、而シテ、あめりかニハ本ヨリ貴族ナル

者ナキモ、上院即チ元老院ハ議員數ヲ少クシ、任期ヲ長カラシメ、間接選舉ノ方法ヲ用ヒ、三分ノ一改選ノ法ニ依リ、ナルヘク保守的性質ヲ帶ヒシムルコトヲ努メタリ、各州ノ上院モ亦大體之ニ同シ、唯タ憲法改正ノ場合ニハ一院制度ニ依ルモノトシ、以テ民主ノ本則ニ從ヘリ、蓋シ民主ノ本則ヨリスレハ、一院制度ヲ以テ、理論ニ適シタルモノト爲ササルヘカラサレハナリ、故ニ一七八九年ノふらんす國民會議ニ於テハ、人民ノ統一シタル主權ハ、一院ニ於テ發表セラルヘク、二院制度ハ人民ノ主權ヲ分ツモノニシテ、主權不可分ノ性質ニ反スト爲シ、又上院ヲ置クハ貴族政治ニ陷ルノ恐アリ、若シ貴族ヲ以テ上院ヲ構成セス、下院ト同一ナル選舉法ヲ基礎トシテ組織セラルナラハ、無用ノモノナリト主張セラレ、一七九一年ノ憲法ハ、一院制度ヲ採用セリ、今日ニ於テ、一院制度ハ、すのすノ各州、中央あめりか諸國等ニ於テ行ハレ、歐羅巴ニ於テモ諸小

國ニ於テ行ハル、然レトモ、一院制度ハ君主國體ト調和スルコト極メテ困難ニシテ、君主國ノ名ノ下ニ民主政治ヲ行ハントスル場合ニ於テノミ之ヲ用ユルコトヲ得ヘク、殊ニ民主國ニ在リテモ、一院制度ハ極テ危険ナリ、一七九一年ノ憲法ノ下ニ於ケルふらんすノ一院制度ノ經驗ハ、爾後民主國ニ於テモ、一般ニ二院制度ヲ採ラシムルニ至レリ、ふらんす自身ニ於テモ、其ノ後一院制度ヲ行ハス、るい第十八世ノ憲法ハ、純粹ニいざりす風ノ上院ヲ設ケタリ、凡ソ上院ハ二種類ニ分ツヘシ、いざりす風ノ貴族院ト、北あめりかニ於ケルカ如キ元老院之ナリ、民主國ノ上院ハ常ニ元老院タルコト云フマテモナク、べるぎいノ如キハ君主國ノ名義アリト雖モ、其ノ上院ハ人民ノ選舉ヲ以テ構成セリ、何レニシモ一般ニ二院制度ノ行ハルルハ、上院又ハ第二院ヲシテ下院ヲ節制セシメントスルニ在リ、此ノ必要ハ民主國及議院政治ヲ行フノ國ニ於テ殊ニ著

シ、議院政治ニ於ケル多數專制、政黨專制ノ弊ハ、經驗ノ明ニ示ス所ナリ、其ノ他二院制度ノ利益トスル所ハ、國事ヲ決スルニ慎重ナラシメ、過失ト無節制トヲ避ケシムルニ在リ、國會ト政府トノ衝突ヲ緩和スルニ在リ、國會ト政府トノ結托ヲ困難ナラシムルニ在リ、殊ニ二院制度ノ立法上探ルヘキ所以ハ、國內人民ノ有機的關係ニ適應シテ、之ヲ顯現スルニ在リ、進歩ト保守ト、活動ト靜止トノ勢力ヲ代表シ、多數ノ常識的判斷ト少數ノ合理的見解トヲ調和シテ、互ニ相節制セシメンコトヲ期ス、故ニ上院ハ年齡ニ長シ、財産ヲ有シ、國民ノ上流ヲ以テ組織スルハ、民主國ニ於テモ常ニ原則トスル所ナリ、貴族ヲ以テ上院ノ主タル原素トスルニ依リテ、此ノ目的ハ益々良ク達セララルコトヲ得ヘシ、我カ國ニ於テモ、以上ノ理由ニ依リ、衆議院ト相並ンテ貴族院ヲ置キ、貴族ヲ主タル構成分子トシ、多額ノ財産ヲ有スル者、國家ニ勤勞アル者、學識アル者ヲ加ヘ

テ、如上ノ妙用ヲ完ウセンコトヲ期セリ。

帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス、兩院合シテ帝國議會ヲ構成ストハ、兩院ノ議員會合シテ、議事ヲ開キ、通シテ多數決ヲ以テ議決スルノ意ニ非ス、各院ハ別々ニ議事ヲ開キ、議決ヲ爲シ、兩院ノ議決合一スルヲ以テ、帝國議會ノ議決ト爲スヲ云フナリ、凡ソ帝國議會ノ權能ニ屬スル議決ヲ爲スニハ、一院先ツ之ヲ議決シ、他院再ヒ之ヲ議決シ、兩院ノ議決全然同一ナルコトヲ必要トス、故ニ一院先ツ之ヲ否決スレハ、他ノ院ノ議ヲ待タスシテ、帝國議會ノ否決アリト爲スヘク、他ノ院ノ議事ヲ開クコトヲ要セサルナリ、兩院各々之ヲ可決スルモ、其ノ内容同一ナラサルトキハ、帝國議會ノ議決ハ成立セサルナリ、二三ノ國ニ於テハ、兩院ノ議合セサルトキハ、投票通算ノ法ヲ行フモノトスルモノアリ、いざりすニ於テハ、一九一一年、下院ノ三會期ヲ通シテ可決シタル或ル種

ノ法案ハ、會期終了前一ヶ月ニ上院ニ回送セラレタルトキハ、上院ノ否決ニ拘ハラズ、法律タルノ效力ヲ生スルモノトスルノ法律ヲ制定セリ、之ニ依リテいざりすノ二院制度ハ、事實上其ノ效用ノ大半ヲ失ヘリト云フヘシ、我カ國ニ在リテハ、議院法ニ依リ、兩院ノ議決合セサルトキハ、兩院協議會ヲ開キ、相互妥協シテ、議決ノ一致ヲ努ムルモノト爲セリ、然レトモ、兩院協議會ノ議定ヲ以テ、終局ノ議決ト爲スニ非ス、各院再ヒ議事ヲ開キ之ヲ議決スルナリ。

故ニ帝國議會ノ兩院ハ、合シテ帝國議會ナル一ノ官府ヲ構成スト雖モ、亦自ラ各々獨立ナル意志ノ主體タル官府ナリ、貴族院ト衆議院トハ、共ニ他院ノ議決ニ拘ハルコトナク、獨立ニ自由ニ議決シテ、自己ノ意志ヲ表示ス、固ヨリ其ノ議決ハ、其レタケニ他ノ官府ニ對シ、又ハ外ニ對シテ效力アルモノニ非ス、唯タ相互ニ他ノ院ニ對シテ效力アルノミナリ

ト雖モ、兩院ハ帝國議會内ノ部局ニ非スシテ、獨立ノ意志ノ主體タル官府ナリ、兩院ハ帝國議會ノ權限ヲ分掌スル者ニ非ス、共ニ其ノ全體ニ且リ對等同一ノ權能ヲ以テ、各別ニ之ヲ議決スルノ獨立ノ官府ナリ、兩院制度トハ、兩院獨立ニ各別ニ、同一ノ事項ニ就テ、同一ノ效果ヲ以テ、帝國議會ノ權限ニ屬スル議決ヲ爲スヲ云フ。

兩院ハ各々一院ノミニテ行フコトヲ得ルノ憲法上ノ權能ヲ有ス、例ヘハ上奏ヲ爲スカ如シ、此ノ種ノ權能ハ各院ニ屬シ、帝國議會ノ權能ニ非ス、兩院ノ議決ヲ合シテ之ヲ行フノ權能ニ非サルナリ、此ノ種ノ權能モ亦帝國議會ノ一院タルノ故ヲ以テ、之ヲ有スルモノナリト雖モ、之ヲ行フニ就テハ、各院ハ純粹ニ獨立ノ官府ニシテ、其ノ議決ハ他院ニ對シテ效力アルニ非ス、帝國議會ノ外ニ對シテ效力ヲ有ス。

帝國議會ノ召集開會閉會停會ハ、兩院同時ニ之ヲ行フ、衆議院解散ヲ

命セラレタルトキハ、貴族院ハ同時ニ停會スルモノトス(第四十四條)要スルニ一院ノミ會合シ議事ヲ開クコトハ之ナキナリ。

兩院議員ハ相兼スルコトヲ得ス(第三十六條)又以テ二院制度ノ效用ヲ完ウセントスルナリ。

兩院ノ權能ハ對等ナリ、諸國ノ憲法ハ、上院ノ權能ヲ弱クスルモノ少カラス、いざりすニ於テハ、豫算及財政ニ關スル法律案ニ就テハ、上院ハ修正ノ權ナク、全體トシテ之ヲ可決又ハ否決スヘキモノトスルハ、夙ニ定マレル慣習ナリ、諸國憲法ハ之ニ倣テ、同様ノ規定ヲ設クルモノ多シ、二三ノ國ニ於テ、いざりす憲法ノ例ニ從ヒ、軍隊ノ兵員數ニ關スル法律ハ、先ツ下院ニ於テ議セラルヘキモノトスルアリ、更ニ進ンテ、上院ハ凡テ發案權ナシトスル者アリ、凡テ政府ノ提出スル法案ハ先ツ下院ニ於テ議セラルヘキモノトスルアリ、上院ハ一切修正權ナク、全體トシテ可

否ヲ決スルニ止ルト爲スモノアリ、大臣彈劾ノ權ヲ認ムル國ニ於テハ、通常下院ノミ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス、然レトモ、他方ニハ上院ノ權限ヲ多クスル者モナキニ非ス、例ヘハあめりか元老院ハ、一定ノ官吏ノ任命及ヒ條約ノ締結ニ就テハ、大統領ニ對シ同意ヲ與フルノ權アリ、大臣訴訟ノ裁判權ヲ有ス、ふらんすノ大統領カ下院ヲ解散スルハ、上院ノ同意ナカルヘカラス、兩院ノ政治上ノ關係ニ於テハ、議院政治ヲ行フ國ニ在リテ、下院ノ優越ナル地位ヲ有スルハ云フヲ俟タス、內閣大臣ハ下院ノ勢力ヲ代表スル者ニシテ、內閣ノ運命ヲ決スルハ、唯タ下院ノ不信任投票アルノミ、內閣ト下院トハ常ニ力ヲ合シテ、上院ヲ壓倒スルヲ常トス、加之、民主主義ノ行ハルル諸國ニ於テハ、理論上人民ノ公選ニ成リ、又ハ廣キ民主的基礎ヲ有スル下院ハ、當然優勢ヲ占メサルヘカラス、ルナリ、我カ憲法ハ諸國憲法ニ見ルカ如キ、兩院ノ間ニ於ケル權能ノ差

等ヲ認メス、政治上ニ於テモ、亦兩院對等ナルヲ期セリ。

我カ憲法上、兩院對等ノ原則ニ對スル唯一ノ例外ト見ルヘキハ、衆議院ノ豫算先議權ナリ、憲法第六十五條ハ、豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘキコトヲ定ム、前ニ述ヘタルカ如ク、いざりすニ於テハ、從來豫算及財政ニ關スル法案ハ、上院ニ修正權ナシトシタルカ故ニ、之ヲ前ニ下院ニ於テ議セラレタルヘカラスト爲セルハ當然ナリ、金錢ニ關スル事項ニ就テ、特ニ下院ノ權能ヲ重シト爲スハ、上院ヲ以テ階級ヲ代表スル者ナリト爲スノ思想ニ本ツクモノニシテ、諸國憲法ノ之ニ倣ヘルモノ少カラズ、上院ハ人民ノ公選ニ依ルモノニ非ストスルヲ以テ、皆立法ノ理由ト爲セリ、此ノ理由ハ本ヨリ正當ナラス、蓋シ今日ノ貴族院ハ、貴族ナル特殊ノ階級ヲ代表スル中世ノ等族會議ニ非スシテ、下院ト同シク國民ヲ代表シ、所謂ル國家ノ機關ヲ構成スルモノト爲ササルヘカラサレハナ

リ、若シ階級代表ノ思想ヲ捨ツレハ、此ノ如キ下院ノ特權ハ無意味ナリト云ハサルヘカラス、故ニ諸國ニ於テ、近年上院ノ組織ヲ改ムルト共ニ、其ノ權能ヲ擴張シテ、豫算ノ修正權ヲ與ヘタル者多シ、帝國憲法ニ豫算ニ關スル議定ノ權能ニ就テ、兩院ノ間何等ノ差等ヲ設ケス、然ルニ、豫算ヲ以テ先ツ衆議院ノ議ニ附スヘシト爲セル理由ハ何クニ在ルカ、北あめりか合衆國憲法ハ、我カ國ト同シク、元老院モ亦豫算修正權アリト爲ス、蓋シ元老院ハ階級代表會議ニ非サレハナリ、又二院制度ノ效用ヲ十分ナラシメントスルハ、あめりか國憲法ノ最モ注意シタル所ナレハナリ、然ルニ尙ホ、下院ノ豫算先議權ヲ認ムルハ、我カ憲法ニ同シ、其ノ理由トスル所ハ、下院ノミ獨リ人民ヲ代表スルト云フニ非ス、直接選舉ヨリ成ル下院ハ、地方ノ事情、人民ノ利益希望ヲ知ルコト、上院ニ勝レルモノアリトスルニ在リ、憲法義解モ亦同様ノ理由ヲ擧ケテ、第六十五條ヲ辯

明セリ、然レトモ、若シ衆議院ヲ以テ、民情ニ適切ナル議定ヲ爲スノ能力
 貴族院ニ勝レルモ、アリトスレバ、諸般ノ法律ニ就テモ、衆議院ノ先議
 權ヲ認メサルヘカラス、之レヲ唯タ豫算ニ限レルハ、歐羅巴ノ等級會議
 ノ沿革ニ本ツケル制度ヲ、無意味ニ模倣シタルモノナリト批評スルノ
 外ナキナリ、殊ニ貴族院ニ豫算修正ノ權能ナシトスルニ至レバ、衆議院
 ノ豫算先議ハ本ヨリ當然ナルモ、既ニ二院制度ノ效用ヲ十分ナラシム
 ルカ爲メニ、貴族院ノ豫算修正權ヲ認メタル以上ハ、先議權ハ、あめりか
 ニ於テ屢々論セラレルカ如ク、無意味ニシテ價值ナキ特權ナリト云ハ
 サルヘカラス、故ニ下院ノ勢力ヲ擴張セントスル政論家ハ、豫算先議ノ
 規定ハ、當然上院ニ修正權無キコトヲ意味スルモノナリト論セリ、實際
 ニ於テ、下院ノ先議權ヲ有スルノ結果、上院ノ修正權ヲ失フニ至ルノ事
 實アルハ、諸國ノ經驗ノ示ス所ナリ、然レトモ、此ノ故ヲ以テ、先議權ノ規

定ノ目的ハ、上院ノ豫算修正權ヲ奪フニ在リトスルコトヲ得サルナリ、
 上院カ憲法上豫算修正權ヲ有スルモ、事實上之ヲ行ハサルハ政治上ノ
 勢ニ壓迫セラレテ、實際修正權ヲ行フコトヲ得サルノミ、或ハ之ヲ修正
 セントスルモ、下院ハ豫算審査ノ爲ニ會期ノ大部分ヲ費シ、其ノ上院ニ
 廻附セラルルトキハ、最早ヤ十分ナル審査ノ時日ヲ有セス、之ヲ修正セン
 トスレバ、勢ヒ之ヲ不成立ニ至ラシメサルヘカラス、上院議員ノ穩當慎
 重ナル考慮ハ、上院ヲシテ多少ノ缺點ハ之ヲ忍ブモ、寧ロ其ノ成立ヲ期
 スルカ爲メニ、止ムヲ得ス修正權ヲ拋棄セシムルニ至ラシム、殊ニ下院
 ハ之ヲ議スルニ當リ、或ハ輿論ノ批評ヲ聞キ或ハ政府ト交渉シ、十分ニ
 研究審査シテ之ヲ決定シタルモノト見ルヘキカ故ニ、上院ノ之ヲ修正
 スルハ、特ニ重大ナル理由アル場合ニ限ラサルヘカラス、此レ等ノ事情
 ニ依リテ、下院ノ先議權ハ、事實上上院ノ修正權ヲ奪フニ至ルヲ常トセ

リ、然レトモ、此ノ如キ事實アルノ故ヲ以テ、憲法第六十五條ノ解釋トシテ、貴族院ハ豫算ヲ修正スルノ權能無シト、論斷スルコトヲ得サルハ言フ俟タス、殊ニ近來議院政治ノ行ハルル諸國ニ於テハ、下院ノ多數政黨ハ政府ト結托シ、輕々シク豫算ヲ決定シ、種々ノ情弊ノ堪ユヘカラサルモノアルヲ見ルノ故ヲ以テ、一般ニ上院ノ之ヲ節制スルヲ望ミ、其ノ權能ニ依頼スルノ傾向ヲ生セリ、我カ憲法ノ衆議院ニ豫算先議權ヲ認メタルハ、毫モ兩院ノ實質上ノ權能ニ軒輊アラシムルノ趣旨ヲ有スルモノニ非ス、貴族院ハ必要ニ應ジテ、誠實ニ其ノ正當ナル豫算修正權ヲ行使センコトヲ望マサルヘカラサルナリ、憲法第六十五條ハ單純ナル手續上ノ規定カ實質上ノ權能ニ影響ヲ及ホシ、政治上重大ナル作用ヲ爲スコトアルノ著明ナル一例ニシテ、運用ノ宜シキヲ得、中庸ヲ逸セサルニ注意セサルヘカラサルナリ。

我カ憲法上、貴族院ト衆議院トノ間ニ於ケル重大ナル差異ハ、衆議院ニ解散アリテ、貴族院ニ之レナキノ一事ナリ、此ノ差異ハ、本ヨリ其ノ組織成立ニ關スル差異ニシテ、權能ノ差異ニ非ス、然レトモ、衆議院ニノミ解散アルハ、政治ノ實際上、衆議院ノ勢力ヲシテ、遙ニ貴族院ノ上ニ在ラシムルノ重大ナル結果ヲ生スルコトヲ知ラサルヘカラス、解散ノ性質及作用ハ、後ニ説クヘキモ、下院ニノミ解散アルノ結果、下院ハ事實上政治ノ中心カタルハ諸國皆同シキ所ナリ、民主國ニ在リテハ、人民ノ主權ヲ代表シ、人民ノ主權ヲ行フ者ハ、固ヨリ下院アルノミ、上院ヲ置クト雖モ、下院ト同一ノ地位ヲ有スルモノニ非ス、唯タ下院ヲ節制スルノ、第二院タル消極的作用ヲ有スルノミ、從テ下院ノ解散ト、之ニ伴フノ總選舉トハ、人民自ラ主權ヲ行使スルノ憲法上ノ行動ニシテ、政治上重大ノ意義ヲ有シ、下院ヲシテ主權ヲ代表スル者タラシムルノ基礎タル制度ナ

リ、然レトモ、下院ノミヲ以テ、主權ヲ代表スル者ナリト爲ササルモ、下院ニ解散ヲ認ムルノ結果、下院ハ人民ヲ背景トシ、輿論ノ支持スル所ナリトセラレ、自然ニ解散ナキノ上院ニ對シテ、政治上優勢ヲ保ツニ至ルヲ常トス、北あめりか合衆國憲法ハ、三權分立ノ主義ヲ嚴守シ、大統領ハ議會ノ成立ニ干與スルノ權ナキ者トシ、上下兩院共ニ人民ノ選舉スル所ニシテ、共ニ人民ヲ代表スルニ於テ異ル所ナシト爲セルカ爲メ、下院ノ解散制度ヲ存セス、其ノ結果、諸國ニ於ケルカ如ク、下院ハ政治ノ中心力タル地位ヲ有セス、却テ上院ノ優勢ナルヲ見ル、我カ憲法ハ固ヨリ衆議院ヲ以テ人民ヲ代表スル者ナリト爲ササルモ、解散ハ衆議院ノミ之レアルモノト爲セルカ爲メ、衆議院ハ自ラ輿論ト直接且ツ活潑ナル關係ヲ有シ、政治上貴族院及政府ニ對シテ、有利ノ地位ニ在ルコトヲ得、解散ハ法律上兩院ノ權能ニ軒輊アラシムルモノニ非スト、雖モ、政治上自ラ

其ノ間ニ優劣アラシメ、兩院制度ノ作用ニ影響スル所多大ナルモノアルコトヲ知ラサルヘカラス。

第四節 貴族院ノ組織

貴族院ハ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス(第三十四條)貴族ヲ以テ上院ノ主タル構成分子トスルハ、いざりすノ制度ニ淵源シ、一八一四ノふらんす憲法之ヲ傳へ、諸國ニ行ハルルニ至レル所ナリ、いざりすニ於テハ、當初上院ハ貴族ノ會合タル性質ヲ有セリ、もんですきゆう之ヲ推獎シテ、貴族ト君主ト人民トヲ調和シ、節制ノ作用ヲ爲スモノナリト爲セリ、諸國ノ上院ハ、皆世襲ノ貴族ノ外、國王ノ任命スル終身議員ヲ有シ、又選舉セラレタル議員ヲ加フルモノアリ、近來諸國ニ於テ上院ヲ改造シ、特種ノ職業利益ノ代表者ヲ加へ、又ハ全然カ、ル代表者